2015 年 1 月 1 日

青森大学ニュース No.27

青森大学のガバナンスの確立へ向けて

学長　崎谷康文

はじめに

平成２４年４月に第７代の青森大学学長に就任し、「青森大学ルネッサンス」を進めよう、と呼びかけ、青森大学の再興と新生を目指し、大学の運営、教育研究、社会貢献など大学の活動全般にわたる改革を実行してきている。「青森大学ルネッサンス」の推進に当たり、最も重要なことは、青森大学を「地域とともに生きる大学」へ発展させることである。青森大学は、地域との相互交流により地域コミュニティから信頼され、地域再生の中核としての役割を果たすため、改革を継続していかなければならない。

地域とともに生きる大学としての魅力を高めるには、何よりも教育機能の質的な向上が重要である。平成２５年度から、教養科目を再構築して「青森大学基礎スタンダード」を導入し、次第に成果が上がりつつあるが、教職員すべての一致協力により改善工夫し続けていく必要がある。青森大学のカリキュラムと教育方法の改革は、「学生中心の大学」をつくるための根幹となる活動である。

「青森大学ルネッサンス」の旗印の下、青森大学の変革を途切れなく進めていくためには、目標や計画を明確にし、具体的な実施計画を着実に履行しながら、点検・評価を進め、次の改善・改革へつなげるという、ＰＤＣＡの改革サイクルを樹立することが必要であり、そして、改革サイクルが機能するためには、大学のガバナンスが確立し、学長のリーダーシップが発揮されていくことが必要である。

青森大学のガバナンスの確立へ向けての道筋を考えたい。

大学のガバナンス改革の必要性

大学は、高度な専門性を持つ研究者が真理の探究を旨とする学問研究を行い、その成果を基礎にして学生に対する教育を行い、社会全体への貢献を果たすという使命を有する。学問研究の性格にかんがみ、大学は、自立性があり、主体的な運営を行う組織として位置づけられる。そのような大学の本質が尊重されるべきことは当然の前提であるが、同時に、今日の大学は、進学率の上昇により、将来の国家・社会を担う人材の育成についてますます重要な役割を担うようになっており、教育の質の向上を目指し、常に変革していかなければならない。社会の著しい変化の中で、大学が大学本来の使命を適切に果たし、社会からの信頼を受ける存在として認められるためには、不断の改革を進めることが必要である。

大学、特に、地方の大学が置かれている環境は、極めて厳しい。少子高齢化が加速化し、東京一極集中が進み、地方消滅の危機が叫ばれる状況にある。そのような中、全ての大学について、地域社会との連携を深めつつ、個性や能力が多様化している学生の教育について、教員が教えることができる

ものを教えるという考え方ではなく、学生がどのようなことを学び、どのような能力を身に付けていくべきかという視点で、教えるべき科目を合理的、体系的に整えること、また、一方的な講義等のみによるのではなく、学生が参加する双方向の授業に転換し、学生の主体的能力を引き出すことが急務の課題となってきている。

このような状況に適切に対処し、大学改革を進めるには、大学が使命を達成していくための様々な活動について、主体的な組織としての大学の特性を踏まえながら、意思決定を的確に行い、教育研究等の活動を計画的に実施していくことができる体制を整え、確立することが不可欠である。

青森大学は、以前から、時代の状況に応じ、大学の組織運営の体制を整備し、改善を図り、改革を推進しているが、厳しい現状を踏まえ、一層のガバナンス改革を進めることが必要となっている。

大学のガバナンスの意義

ガバナンスとは、統括し管理することである。近年、企業経営の改善のため、コーポレート・ガバナンス（企業統治）の考え方が提唱されてきている。これは、株主、顧客等の企業の利害関係者（しばしば、ステークホルダーと呼ばれる。）に対する社会的責任を果たすため、企業の経営における権限と責任を明確にしていこうという考え方である。

どのような組織にあっても、組織の意思決定、業務の執行と監督に関わる体制が整い機能していなければならない。大学のガバナンス改革について、企業との類推から論じられることもあり、確かに、共通して考えるべきことも多い。しかし、大学のガバナンスとは、大学の本来の役割を達成するための、大学にふさわしいものでなければならないことを確認しておきたい。すなわち、大学のガバナンスは、自律的な運営を基礎とし、学問の府としての社会的使命を負うなど、営利追求のためのコーポレート・ガバナンスとは本質的に異なる点がある。

学長の権限と責任

国立、公立、私立の大学において、学長は、大学運営の責任者として位置付けられている。学校教育法第９２条第３項は、「学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。」と規定する。学長は、校務すなわち大学の全ての業務の最終決定権を持つ包括的な責任者としての職務と権限を有する。したがって、学長は、所属の教職員を指揮命令等により監督して、大学の運営を取りまとめていく。大学は、学術の中心として、教育研究を行い、その成果を広く社会に提供し、社会の発展に寄与することを使命とする。大学の使命の達成のため、教育、研究及び社会貢献の活動にわたる大学の業務全てが、学長の権限と責任の下で、運営される。

大学のガバナンス改革を進めるに当たって重要なことは、学長がリーダーシップを的確に発揮し、責任を果たしていけるようにすることである。

学長は、大学の在り方について高い見識を持ち、大学にとって最も必要なことは何かを常に念頭に置き、明確な方針を示し、所属の教職員が教育研究等の業務を積極的に行えるよう、方向づけていく責任がある。学長が権限と責任に基づき、正しく判断し決定していくためには、学長を補佐する体制を適切に整え運用することが必要である。

青森大学のガバナンス改革の体制整備の状況

青森大学は、ガバナンス改革と全学的な教学マネジメントの体制整備を進めている。

平成２４年４月、学長が全学的な方針等について的確な判断ができるよう、教学と事務の分野を担当する「学長補佐」を設置した。

平成２５年４月、大学全体としての教育改革等を総合的、体系的に進めるため、学長の指示の下、各学部との意見調整を図りつつ、学長補佐とともに機動的な活動を行う組織として、「学長補佐室」を設置した。

平成２４年１０月、「地域とともに生きる大学」を目指す活動の推進のため、学長を委員長とする「青森大学地域貢献委員会」を設置し、１２月に、地域貢献のための活動の総合的な企画・調整を行い、内外からの相談等に応じ助言し支援することを業務とする「地域貢献センター」を設置した。

平成２５年９月には、学生向けの学習支援窓口を運営し、学生の学修時間・教育の成果等に関する情報の収集・分析などの業務を行い、学生の学習全般の支援及び学習環境の改善を行う組織として、「学習支援センター」を設置した。平成２６年８月には、学習支援センターに「ＩＲ推進室」を設置した。Ｒ推進室は、学生の学修時間や教育の成果等に関する情報の収集・分析を行うとともに、必要に応じて、大学の計画立案等の意思決定に必要な情報等を収集することを任務としている。ＩＲは、Institutional Research の略である。すなわち、大学の使命達成のために必要な手段としての情報の収集と分析のことである。

平成２６年４月には、全学的な教学マネジメントを的確に推進し、教学改革のＰＤＣＡサイクルを確立するため、学長が統括する組織として、「教学改革のためのタスクフォース」を設置した。このタスクフォースは、基礎スタンダード科目の全学的な運営を進め、基礎スタンダード科目と整合的に連結する専門科目を構築するなど、教学改革の推進に関し、教務委員会、ＦＤ委員会等関連の委員会等との連携を図りつつ、大学としての必要な方針を示すなどの任務を遂行している。

平成２４年度以降新たに設置された組織には、経験や年功という観点からではなく、各学部及び大学事務局から、意欲と能力のある教職員を広く選任しており、積極的な活動を行っている。

学校教育法の改正に基づく大学ガバナンスの改革

平成２６年６月に学校教育法及び国立大学法人法が改正され、平成２７年４月から施行される。これに伴い、私立大学においては、学校教育法の改正に基づき、学則等の学内規則を改定することが必要となっている。

青森大学においては、学則等の改正について、各学部教授会における審議を経て、平成２６年１１月の部長会において審議が行われ、確認がされたところである。これら学則等の改正については、理事会に諮るべきものもあり、今後、法人本部との連絡を取りながら、３月までに手続きを進めていくこととなる。

改正前の学校教育法第９３条は、第１項が「大学には重要な事項を審議するため、教授会を置かなければならない。」、第２項が「教授会の組織には、准教授その他の職員を加えることができる。」と規定していた。改正後の学校教育法第９３条は、次のとおりである。

「第９３条　大学に、教授会を置く。

２　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

一　学生の入学、卒業及び課程の修了

二　学位の授与

三　前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、学長が教授会の意見を聴くことが必要であると認めるもの

３　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

４　教授会の組織には、准教授その他の職員を加えることができる。」

学校教育法の改正に伴い、青森大学学則第６３条第３項の各学部の教授会の審議に関する規定は、次のとおり改正される。

「３ 教授会は、学長が当該学部に係わる次の事項について決定を行うに当たり審議し、意見を述べるものとする。

（１）学生の入学、卒業及び課程の修了

（２）学位の授与

（３）前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

４ 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下、この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。 」

学校教育法の改正の趣旨は、文部科学省からの施行通知が述べるように、大学が、人材育成・イノベーションの拠点として、教育研究機能を最大限に発揮していくためには、学長のリーダーシップの下で、戦略的に大学を運営できるガバナンス体制を構築することが重要であるので、今回の改正は、大学の組織及び運営体制を整備するため、副学長の職務内容を改めるとともに、教授会の役割を明確化するというものである。通知は、「教授会については，これまで『重要な事項を審議する』と規定されてきたが，教授会は，教育研究に関する事項について審議する機関であり、また、決定権者である学長等に対して、意見を述べる関係にあることを明確化する」と述べている。すなわち、学長が大学運営についての最終決定権者であることを確認し、教授会は、決定する権限を有するのではなく、審議機関であり、学長に対しては、学生の入学、卒業等の一定の事項について意見を述べる関係にあることを明確にしたものである。

教授会は、学則の規定に従い、一定の事項について学長が決定するに際し意見を述べることが必要となるが、各学部教授会において、それ以外の、教育課程に関すること、教員の任用に関することなど各学部に関わる事項について、審議、議論することについては差し支えないと考えられる。

学長は、各学部の在り方を含め、広く大学全体の改革の責任を担っており、各学部を横断した視点に立ち総合的に判断し決定しなければならない。各学部の教授会が、全学的な方針を踏まえ、建設的な議論を行うことは望ましいが、教授会は、決議したり決定したりする機関ではなく、審議する機関であることを確認しておかなければならない。

部長会の重要性

青森大学は、大学運営に関する重要な審議機関として、部長会を設置しており、毎月、会議を開催している。部長会は、学長が主宰し、大学の学部長等の幹部のほか、理事長、法人本部長等が参加しており、大学運営の基本事項に関すること、教育研究環境の整備に関すること、学部及び他の機関の連絡調整に関すること、全学的な教学マネジメントに関すること、その他学長が必要と認めた事項について審議している。

部長会は、教授会と同様に、審議機関であり、決議機関ではないことを確認しておきたい。大学運営に関し決定する権限と責任は、学長にある。部長会の審議は、予算に関することなど、法人の決定権を拘束するものではないが、理事長や本部長等が参加していることで、大学側と法人側の意見交換や意思疎通が円滑に行われていく機能を持っていることに大きな意義がある。また、部長会における審議の状況が、各学部教授会や各種の委員会等を通じ全ての教職員に対し伝達され、趣旨徹底がなされることなどにより、教育、研究等の活動が共通理解の下で統一的に行われるようになっている。

これからも、青森大学の運営、教育研究等を円滑に進めていくに当たり、学長が適切な判断を行えるよう、部長会における審議が活発に行われていくことが必要である。

大学のガバナンスと理事会

大学のガバナンスを確立し、時代の変化に応じ、大学が改革を継続していくため、大学運営をつかさどる学長が権限と責任を果たしていくことがますます重要になってきている。

大学のガバナンスの体制を整え、学長が権限と責任を果たしていくについては、私立大学にあっては、学校法人理事会との適切な関係を構築していくことが必要である。

青森大学は、学校法人青森山田学園を設置者とする。文部科学大臣は、青森大学の設置を認可するとともに、学校法人青森山田学園の設置認可を行っている。大学は、学校教育法の体系の法制度に従い、学校法人は、私立学校法の体系の法制度に従う。学校法人には、理事会が置かれ、理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する（私立学校法第３６条第２項）。また、理事の中から選ばれた理事長は、学校法人を代表し、その業務を総理する（同法第３７条第１項）。すなわち、私立学校（大学を含む。）では、設置者である学校法人の理事会が最終的な意思決定機関であり、理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する任務を負っている。

このような法制度等に照らし考えると、私立大学は、学校教育法の体系から要請される大学のガバナンスを確立し、学長がリーダーシップを発揮して、大学の意思決定を的確に行っていくようにするとともに、経営母体である学校法人の理事会のガバナンスとの適切な連携と協調を図り、健全な関係を維持していくことが必要である。大学としての意思は、学長に集約して学長が決定し実行するとともに、設置者である学校法人は、大学の教育研究活動等が学長の指揮の下で的確に行われるよう、支援し援助する責任があり、大学と法人がそれぞれの役割を明確にして、一体的に活動を進めていくことが求められる。

学校教育法の規定等に則って、学長が校務に関する権限と責任を果たしていくには、学長の責任の下で、教学を中心とする大学の使命を達成するための積極的な活動を進め、学長が進める改革について理事長や理事が支援していくという状況が望ましく、それにより、理事会等学校法人と学長が統率する大学との相互理解が深まり、大学の魅力向上が進展するという循環が生まれることが重要である。

青森大学において、学長のリーダーシップによる教学の改革が進展しているのは、改革の意義が理

事会に理解され、支援されているからであり、このような関係をこれからも維持していくことが必要である。大学の部長会に加えて、理事長が主宰する大学協議会が設置されており、大学協議会においても、これまで、大学の在り方や学園全体の管理運営等についての議論が行われてきている。

学生の教育、教員の研究、大学の行う生涯学習活動などについては、予算等を含む計画に従って、大学が誠実に執行していくべきものである。同時に、学園の経営改善計画やグランドデザインなどに示されているように、大学の学部編制等組織に関すること、財務等学園全体の体制の在り方、高校等を含む広報の充実等に関することなどについては、大学内での議論と法人全体での議論とを連絡調整したり、検討を協同で進めたりすることが、今後、ますます必要になる。教学と経営は、分担して責任を果たすべきところも多いが、一体的に考えることにより、より有効に機能するようにしたい。そのためには、大学の前向きの活動が理事会等によく見えるようにすることも必要である。

学長のリーダーシップを生かすための教職員全ての参加とボトムアップ

大学のガバナンスの改革は、学長のリーダーシップが積極的に発揮され、学長が権限と責任を間違いなく果たし、大学改革が成果を上げていくことを目指すものである。体制整備は今後も進んでいくが、それだけでよいのではなく、どのように運用し、どのように機能させていくかが大切である。重要なのは、現在「青森大学ルネッサンス」として示されている、大学の理念や方針について全ての教職員が十分に理解し、一致協力の態度と意欲を持って、大学として一体的な改革を進めていくことである。今、青森大学の教職員一人ひとりの高い熱意と意欲が引き出され、全体としての士気が高まってきている。学長は、この状況をさらに向上させていくため、大学の在り方についての見識と教育研究についての洞察力、人間を育てるという崇高な使命についての自覚を持って、方向付けをしていかなければならない。学長の姿勢や方向付けに対して、教職員が信頼することができて初めて学生の教育などの成果が高められる。学長は、できる限り教職員の意見や見解を聞き、議論し、諸情勢を研究し、最終的な決断を下し、適切な手続きを進めていかなければならない。学長は、自らが統率する大学の理念や方針と活動について、大学の構成員と外部に対し発信していかなければならない。

大学の全ての教職員は、学長が適切な判断を行うことができるように、大学改革を担う一員として自覚し参画しなければならない。改革は待ったなしである。自分は、淡々と与えられた業務を担当していればよいと考えるのではなく、一人の例外もなく、どのように大学の教育研究等を進展させ、変革していくことが大学の魅力を高めるかという全学的な視野に立って考え、改革を実践していかなければならない。

学長のリーダーシップを生かすためには、全ての教職員は、言われることを待つのではなく、積極的に提言し、協力体制の中に加わって活動していかなければならないと考える必要がある。意識変革を続けなければならない。大学のガバナンス改革が有効に機能し加速化していくには、ボトムアップの力が動き出さなければならない。

学長の活動（平成２６年７月～１２月）

［随筆・評論等］

青森大学ホームページの学長ブログ

随想「大空を見上げて」

第２８回「天守物語」　第２９回「原爆ドーム」　第３０回「薬剤師の役割」

第３１回「様々な色と光」　第３２回「方言と言語」　第３３回「海峡の街」

評論「学びの温故知新」

第２７回「学習指導要領の必要性」　第２８回「学習指導要領と到達目標」

第２９回「いじめ問題をどうとらえるか」　第３０回「いじめ問題にどう取り組むか」　第３１回「いじめ問題の広がりと対策」　第３２回「教育の正常化」

「教育プロ」（株式会社 ERP 発行）掲載の「時評」

「家族の大切さを教える」（平成 26 年 7 月 15 日号）

「発達課題に応じた教育」（平成 26 年 9 月 16 日号）

「いじめ対策推進法の意義」（平成 26 年 11 月 18 日号）

「内外教育」（時事通信社）掲載の「ひとこと」

「人生のための大学」（第 6352 号（平成 26 年 8 月 5 日））

「可能性を拓く大学」（第 6378 号（平成 26 年 12 月 2 日））

「内外教育」（時事通信社）掲載の「ラウンジ」

「体育会系への偏見」（第 6364 号（平成 26 年 10 月 3 日））

対談「木を育てることは人を育てること」盛田稔青森山田学園学園長との対談

（あおもり草子　通巻２２６号平成 26 年 10 月 1 日発行　特集―與樹共呼吸　盛田稔）

［講師等］

消費生活大学講座（青森県消費生活センター）（講演「生涯学習としての消費者教育」7 月 23 日）

千歳市みんなで、ひと・まちづくり委員会自主事業「千歳に世界遺産を！」（千歳市民文化センター）（講演「世界遺産の意義と仕組み」8 月 24 日）

縄文シティサミットｉｎあおもり「縄文とまつりを通じたまちづくり」（青森市　新町キューブ）（記念クロストーク及びサミット本会議のコーディネーター10 月 8 日）

青森大学オープンカレッジ市民大学（講演「生涯学習とこれからの教育」12 月 6 日）

［社会的活動等］

姫路城中曲輪施設整備方針検討専門家会議（姫路市）（専門家会議　平成 26 年 7 月 8 日　専門家会議　平成 26 年 10 月 20 日）

姫路城大天守保存修理検討会（姫路市）副会長（検討会 8 月 28 日）

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構理事（理事会 10 月 28 日）

公益財団法人文化財建造物保存技術協会理事（理事会 11 月 18 日）

公益財団法人がん研究会評議員（評議員会 12 月 19 日）

全　学　の　動　向

外部研究助成金の獲得状況

文部科学省科学研究費助成事業（科研費）

①　平成 26 年度新規採択状況

本学研究者	研究テーマ	補助金額	助成区分・期間
（研究代表者） 経営学科 沼田　郷　准教授	日本と台湾における光学産業の成長と連鎖 （平成 26 年度採択分）	2,210 千円	基盤研究(C) （平成 26～28 年）
（研究代表者） 経営学科 渡部 あさみ　講師	先進諸国におけるホワイトカラー労働者の労働時間管理 （平成 26 年度採択分）	780 千円	若手研究(B) （平成 26～28 年）
（研究代表者） 社会学科 佐々木 てる 准教授 （研究分担者） 社会学科 柏谷　至　教授 澁谷 泰秀　教授 櫛引 素夫　准教授 田中 志子　准教授	人口減少社会の外国人統合政策 ～青森県における外国籍者の事例から～ （平成 26 年度採択分）	1,690 千円	基盤研究(C) （平成 26～28 年）
（研究代表者） ソフトウェア情報学科 小久保　温　准教授 （研究分担者） 社会学科 澁谷 泰秀　教授	郵送調査と web 調査のハイブリッド調査から完全 web 調査への移行に関する研究 （平成 26 年度採択分）	1,950 千円	基盤研究(C) （平成 26～28 年）
計	4 件	6,630 千円	

②　平成 26 年度新採用教員の科研費獲得状況

本学研究者	研究テーマ	補助金額	助成区分・期間
（研究代表者） 経営学科 堀籠　崇　准教授	医療法人病院のガバナンスと意思決定 （転出元の大学からの継続研究）	1,040 千円	若手研究(B) （平成 25～27 年）

（研究代表者） 薬学科 水野 憲一　教授	大脳皮質形成における多様なＧタンパク質シグナル制御機構の解析 （転出元の大学からの継続研究）	1,690 千円	基盤研究(C) （平成 24～26 年）
計	2 件	2,730 千円	

③ 前年度からの継続研究（科研費）

本学研究者	研究テーマ	補助金額	助成区分・期間
（研究代表者） 社会学科 柏谷　至　教授 （研究分担者） 社会学科 澁谷　泰秀　教授 中村　和彦　准教授 佐々木 てる 准教授	環境配慮行動における文化的フレームと意思決定モデルとの統合的アプローチ （前年度からの継続研究）	1,040 千円	基盤研究(C) （平成 24～26 年）
（研究代表者） 薬学科 中田 和一　教授	反射波遮蔽フェンスによるローカライザの積雪障害の抑制に関する研究 （前年度からの継続研究）	650 千円	基盤研究(C) （平成 24～26 年）
（研究代表者） 経営学科 石塚 ゆかり 准教授	日韓の苦情とクレームに関する社会言語学研究 - ビジネス現場と医療機関を中心に - （前年度からの継続研究）	800 千円	若手研究（B） （平成 23、24、26 年）
（研究分担者） 社会学科 澁谷 泰秀　教授	社会情動的選択性から見た高齢者のソーシャルネットワークに関する研究 （前年度からの継続研究）	235 千円	研究代表者 秋田大学 （渡部　諭） 基盤研究(C) （平成 24～26 年）
（研究分担者） 社会学科 柏谷　至　教授 櫛引　素夫　准教授 佐々木 てる 准教授 田中　志子　准教授 ソフトウェア情報学科 小久保　温　准教授 坂井　雄介　准教授	電子エコマネーを活用したボランティア・コーディネート支援ツールの開発 （前年度からの継続研究）	1,118 千円	研究代表者 八戸大学 （石橋　修） 基盤研究(C) （平成 25～27 年）
計	5 件	3,843 千円	

④ 科研費以外の研究

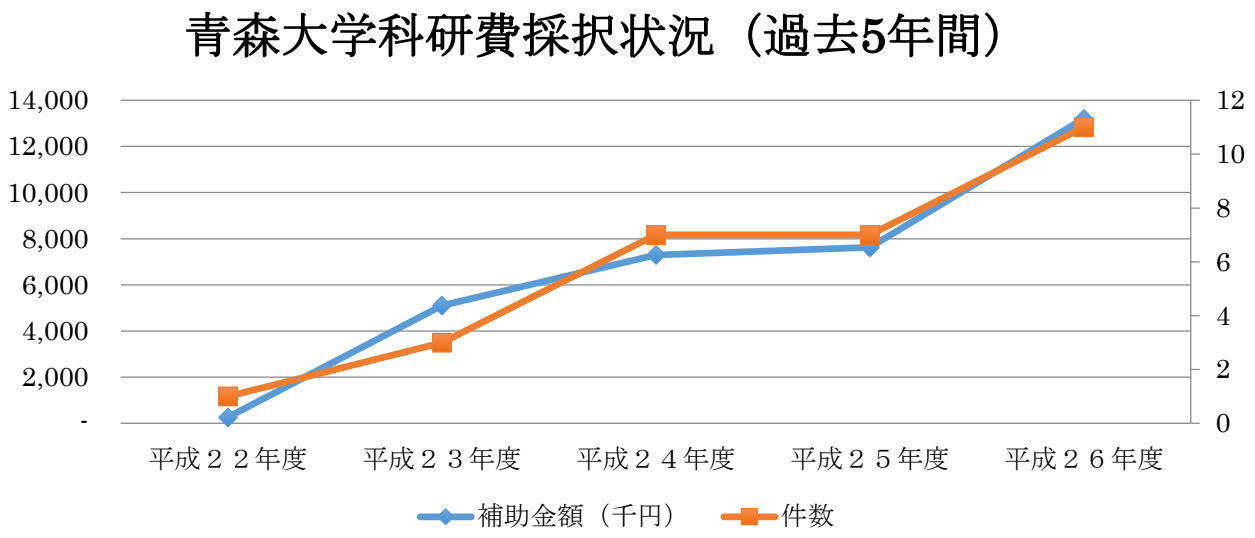
本学研究者	研究テーマ	補助金額	助成財団・期間
（研究代表者） 薬学科 上田 條二　教授	地域薬局の役割に関する研究	300 千円	㈱医薬品情報センター
（研究代表者） 社会学科 澁谷 泰秀　教授 （研究分担者） ソフトウェア情報学科 小久保 温　准教授	CASM を応用した web 社会調査における PC、タブレット、スマホ、携帯電話を用いた反応の相違に関する研究	1,000 千円	大川情報通信基金
（研究代表者） 社会学科 櫛引 素夫　准教授	東北新幹線開業が地元の生活にもたらした影響の検証ならびに北海道新幹線の開業準備の検討と提言	654 千円	青森学術文化振興財団
（研究代表者） 社会学科 佐々木 てる 准教授	「青森ねぶた祭」～宿泊施設の課題と解決策を考える～事業	334 千円	青森学術文化振興財団
計	4 件	2,288 千円	

◇科研費以外の研究（新規）

本学研究者	研究テーマ	補助金額	助成財団･期間
（研究代表者） 社会学科 櫛引 素夫 准教授	北陸新幹線の開業が東北地方の交通に及ぼす広域的変化の基礎調査	300 千円	ほくとう総研

過去５年間の科研費採択件数及び助成金額

年度	補助金額（千円）	採択件数
平成２２年度	260	1
平成２３年度	5,109	3
平成２４年度	7,298	7
平成２５年度	7,623	7
平成２６年度	13,203	11



文部科学省の事業である科学研究費助成事業の採択件数は、各大学で研究能力・実績を示す指標として重要視されています。本学は、過去 5 年間の実績で、平成 22 年度の 1 件から平成 26 年度の 11 件へと躍進しました（助成額では 26 万円から約 1320 万円）。本学では、過去においても研究を重要視し、力を注いできましたが、科研費のような大型の研究助成に対する全学的な取組みを開始して 3 年目になります。今後も教育、研究、及び地域貢献の各領域で実績を積み重ねるべく取り組んでいきます。

出張講義などの実施状況（平成 26 年 1 月から 12 月までの 1 年間）

NO	依　　頼　　先	講義日	氏　名	所　属	講義テーマ
1	黒石市六郷公民館	1 月 11 日	大平　幸子	事務局長	体健やかヘルシーレシピ
2	県立黒石高等学校	1 月 14 日	佐藤　栄作	薬学科	薬の開発と病気について
3	中央市民センター	1 月 24 日	佐藤　栄作	薬学科	薬はなぜ効くか？
4	中央市民センター	1 月 28 日	藤林　正雄	社会福祉学科	人間関係で悩まないために
5	黒石市六郷公民館	2 月 15 日	大平　幸子	事務局長	体温まるぽかぽかレシピ
6	NPO 法人ほほえみの会	2 月 18 日	藤林　正雄	社会福祉学科	傾聴を学ぶ
7	八戸市社会福祉協議会	2 月 20 日	藤林　正雄	社会福祉学科	信頼関係を構築する傾聴の仕方を学ぼう
8	五戸町教育委員会	2 月 21 日	安藤　清美	社会福祉学科	遺言
9	NPO 法人ほほえみの会	2 月 25 日	藤林　正雄	社会福祉学科	傾聴を学ぶ
10	NPO 法人ほほえみの会	3 月 7 日	藤林　正雄	社会福祉学科	傾聴を学ぶ
11	NPO 法人ほほえみの会	3 月 18 日	藤林　正雄	社会福祉学科	傾聴を学ぶ
12	NPO 法人ほほえみの会	4 月 22 日	藤林　正雄	社会福祉学科	傾聴を学ぶ
13	青森県長寿社会振興センター	5 月 13 日	崎谷　康文	学長	生涯学習について
14	青森県立十和田西高等学校	5 月 29 日	徳光　幸子	薬学科	麻薬・覚醒薬乱用の危険
15	青森県選挙管理委員会	5 月 29 日	柏谷　至	社会学科	明るい選挙出前講座「話し合い活動」の拡大と深化
16	青森市男女共同参画プラザ カダール	5 月 31 日	藤林　正雄	社会福祉学科	傾聴入門　1 日集中講座

17	青森市少年指導委員会	6 月 2 日	船木　昭夫	社会福祉学科	より良いコミュニケーションのとり方
18	藤崎町福祉課	6 月 10 日	藤林　正雄	社会福祉学科	オリエンテーション、自己理解・自己の感性を引き出す
19	あおもり未来塾	6 月 10 日	岩淵　護	経営学科	環境時代の物づくり
20	青森県立青森工業高校	6 月 16 日	船木　昭夫	社会福祉学科	ストレスとコミュニケーション
21	藤崎町福祉課	6 月 16 日	藤林　正雄	社会福祉学科	対象者理解、価値観の多様性を知る
22	藤崎町福祉課	6 月 19 日	藤林　正雄	社会福祉学科	働くスキルを身につける①、②
23	藤崎町福祉課	6 月 26 日	藤林　正雄	社会福祉学科	働くスキルを身につける③
24	藤崎町福祉課	7 月 3 日	藤林　正雄	社会福祉学科	働くスキルを身につける④
25	協同組合全国共同店舗連盟	7 月 16 日	赤坂　道俊	経営学科	新しい小売業と経営革新
26	藤崎町福祉課	7 月 17 日	藤林　正雄	社会福祉学科	あらためて聴くことの大切さを理解する
27	青森県消費生活センター	7 月 23 日	崎谷　康文	学　長	生涯学習としての消費者教育
28	青森県男女共同参画センター	7 月 31 日	石塚　ゆかり	経営学科	実践！論理的思考で話すチカラを身につける
29	NPO ほほえみの会	9 月 12 日	藤林　正雄	社会福祉学科	改めて『聴く』を学ぶ
30	青森若者プロジェクトクリエイト	9 月 23 日	櫛引　素夫	社会学科	まちで暮らす　地域で生きる
31	千歳市みんなで、ひと・まちづくり委員会	8 月 24 日	崎谷　康文	学　長	千歳に世界遺産を！
32	黒石市企画財政部企画課	8 月 29 日	船木　昭夫	社会福祉学科	明るい職場・家庭とﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽ - ｽﾄﾚｽとｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを考える -
33	青森市中央市民センター	10 月 8 日	菅　勝彦	社会学科	先人に学ぶ「年をとる技術」
34	野辺地町健康推進センター	10 月 21 日	藤林　正雄	社会福祉学科	自己理解を深める、価値観の多様性を知る
35	野辺地町健康推進センター	10 月 30 日	藤林　正雄	社会福祉学科	聴くスキルを身につける①、②
36	青森市中央市民センター	10 月 28 日	工藤　雅世	社会学科	旅の魅力と観光の力
37	青森県立むつ工業高等学校	11 月 5 日	嶋田　雄介	薬学科	麻薬・大麻・覚せい剤等薬物乱用防止運動はなぜ必要か
38	青森市沖館市民センター	11 月 7 日	佐藤　栄作	薬学科	薬はなぜ効くか？
39	深浦町立深浦小学校	11 月 10 日	藤林　正雄	社会福祉学科	人間関係で悩まないために（ｽﾄﾚｽに対処する）
40	野辺地町健康推進センター	11 月 13 日	藤林　正雄	社会福祉学科	聴くスキルを身につける③
41	五所川原市立市浦中学校	11 月 13 日	船木　昭夫	社会福祉学科	SST
42	後援会秋田支部	11 月 16 日	李　考烈	ｿﾌﾄｳｪｱ情報学科	就職状況に関する近況
43	後援会秋田支部	11 月 16 日	藤林　正雄	社会福祉学科	人間関係で悩まないために
44	青森職業訓練支援センター	11 月 20 日	船木　昭夫	社会学科	明るい職場・家庭とﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽ - ｽﾄﾚｽとｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを考える
45	青森沖館市民セミナー	11 月 21 日	上田　條二	薬学科	薬の効用について、薬の正しい使い方
46	上北地方小学校教頭会	11 月 21 日	佐々木　てる	社会学科	日常的差別を読み解く

47	沖館地域緑の募金推進協力会	11 月 22 日	田村　早苗	経営学科	地球温暖化防止における森林の役割
48	野辺地町健康推進センター	11 月 26 日	藤林　正雄	社会福祉学科	聴くスキルを身につける④
49	青森市男女共同参画プラザ「カダール」	11 月 30 日	藤林　正雄	社会福祉学科	傾聴力 UP　実践講座
50	青森大学オープンカレッジ市民大学	12 月 6 日	崎谷　康文	学　長	生涯学習とこれからの教育
51	野辺地町健康推進センター	12 月 8 日	藤林　正雄	社会福祉学科	傾聴の大切さを再確認し実践へ向けて
52	青森市中央市民センター	12 月 10 日	上田　條二	薬学科	身近な民間薬
53	平内町教育委員会	12 月 13 日	藤　公晴	社会学科	ハクチョウ、人、地域のつながりについて考える
54	鹿角市立十和田小学校	12 月 15 日	船木　昭夫	社会福祉学科	SST の概論、ﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ体験を通した実習
55	むつ市役所	1 月 9 日	櫛引　素夫	社会学科	地域防災力をどう向上させるか
56	青森市中央市民センター	1 月 16 日	大上　哲也	薬学科	認知症と治療薬
57	三沢市社会教育関係団体	2 月 7 日	船木　昭夫	社会福祉学科	SST より良いコミュニケーションを身につける

依頼機関機関 37 機関　（派遣教員 21 名）

大学の行事（平成 26 年 7 月～12 月）

・7 月 7 日　　青森大学公開講座「幸畑キャンパス」
・9 月 20 日　　夏季教職員研修会
・9 月 26 日　　秋季学位記授与式
・10 月 11･12 日　大学祭
・10 月 17 日　　青森大学学術研究会特別講演会
・12 月 20 日　　冬期教職員研修会

◇青森大学防災研究会

青森大学の防災力向上と、地域防災力向上に寄与する方策を探るため、日本防災士機構が認定する「防災士」の資格を持つ教職員有志が 7 月、「青森大学防災研究会」を設立した。

7 月 2 日には初の活動として、NPO 法人青森県防災士会の工藤淳・相談役を講師に招いて第 1 回勉強会を開き、防災士の役割や青森県防災士会の活動について理解を深めた＝写真。

その後、社会学部の学生を中心に会員が増える一方、青森県防災士会青森支部が定例の支部会合に

青森大学「集いのスペース」を活用するようになり、学生会員や幸畑団地地区まちづくり協議会の防災ワーキング・グループ会員が、支部の研修会でロープ・ワークや三角巾の使用法を学ぶといった活動が進展している。　（櫛引素夫）

[青森大学公開講座「幸畑キャンパス」　加藤澤男氏 来校]

7 月 7 日、青森大学公開講座「幸畑キャンパス」の平成 26 年度第 1 回目として、白鴎大学教授 加藤澤男先生の講演会を開催しました。

オリンピック体操競技の金メダリストで、審判員・指導者としても活躍された加藤先生は、「地域とスポーツ」の演題で、オリンピックの歴史に影響を与えた各国の文化、政治・経済との関わりなどについて、豊富な実例をもとに説明してくださいました。

先生は、御自身が 3 つのオリンピックで獲得したメダルを会場に持参され、講演会に参加した生徒・学生や地域の皆さんは、メダルを手に取ったり写真に撮ったりしながら、先生の話に聞き入っていました。　青森大学サテライト　https://www.facebook.com/aomori.university

（青森大学ホームページより）

[青森大学男子新体操部 ラジオ番組に出演]

「申吾のほっとチャンネル」（ＦＭ青森）に青森大学男子新体操部 部長 中田吉光先生、キャプテン 齊藤良輔くん、藤原大貴くんがゲストとして参加し、６月１日放送を終了しました。

青森の夢を担う人、団体をゲストとしてお招きし、その秘訣や魅力について聞き出し、発信する当番組。

三村知事から、全日本学生新体操選手権大会１２連覇の秘密を尋ねられたところ、中田部長は「先見力。準備力。徹底力。時代を読み取り、新しい技や事に挑戦する先見力。奇跡を信じない準備力。これと決めれば、なににも惑わされない徹底力です。この３つに集約されます。」

さらに、自身の全日本学生新体操選手権大会での優勝（昭和６１、６２年）に触れ、選手としての実績が指導に役立っていますか？との問いに対して「選手としての実績は役に立ちません。選手たちと同じ場所、目線にいることが大切です。時には引っ張ることも大切ですが...」と語りました。

キャプテン 齊藤良輔くんにも質問が向けられ、今後の意気込みについて聞かれたところ「新体操舞台 BLUE を経験し、多くの人たちに支えられている事を実感しています。全日本インカレ、全日本学生新体操選手権大会で優勝。連覇を止めることができないという、誇りがあります。後輩たちに全てを引き継がせたいです。」と語り、藤原大貴くんは「男子新体操を４７都道府県全てにチームがあるようにしたいです。」と想いを熱く語ってくれました。

最後に中田部長は「男子新体操を青森文化の１つにしたい。新体操舞台 BLUE を青森の冬のイベントに成長させたい。将来はこのイベントで雇用を生み出すレベルへ持っていきたい」と力強く語りました。

（青森大学ホームページより）

[幸畑団地連合町会との連携協定 締結式]

7 月 12 日（土）、青森大学と幸畑団地連合町会との連携協定に関する締結式を執り行いました。

青森大学は、「地域とともに生きる大学」として、近年、学生たちの研究と教育の場所として、幸畑団地・幸畑地区のみなさん、町内会会長さんたちを筆頭に大変お世話になってきました。

本日発足の「幸畑団地地区まちづくり協議会」に青森大学が参加することを契機に、今まで以上に連携を深化させ、地域課題に適切に対応し、個性豊かな地域社会の形成と発展及び必要とされる人材育成に寄与することを目的として、連携協定を締結しました。

幸畑団地連合町会 今井嗣朗副会長は「とても嬉しく思っています。連携はまだまだ始まったばかりですが、これからなにが、どのぐらいできるのか... とても楽しみです。」と語り、崎谷学長は「少子高齢化の中、大学と地域のコミュニティの 交流を深め、次代を担う学生が地域の課題について学び、地域の活性化が大きく進むよう、充実した協働活動を行っていきたい。」と、連携推進へ向けての決意を語りました。

協定締結後は、青森大学 6 号館 集いのスペースで「幸畑団地地区まちづくり協議会」設立総会が行われました。

青森市幸畑情報サイト HappyField http://www.koubata.com/

（青森大学ホームページより）

［ 青森商業高等学校との高大連携協定 締結式 ］

7 月 22 日（火）、青森大学と青森県立青森商業高等学校との高大連携協定に関する締結式を執り行いました。

青森大学は、これまでも青森商業高校の生徒が青森大学に来学するインターンシップや生徒たちが行っている課題研究などで活発に高大連携活動を行ってきました。これまでに築いてきた相互の信頼関係に基づき、双方の教育機能についての交流・連携を更に深めることによって、高校生の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、大学教育の内容及び求められる学生像への理解を深め、かつ双方の教育活動の活性化を行うことを目的に協定を締結しました。

青森商業高校 千代谷校長は冒頭の挨拶で「本連携協定は、高校から大学への進路の中で、誤解や無駄を極力無くし、伸び代を最大限伸ばす"高大接続"を視野に入れた画期的な連携になることを願っています。」と熱く語りました。

崎谷学長は「高校生と大学生との交流は勉強以外にも、さまざまな刺激を期待できます。商業高校の生徒が得意としている勉強（簿記等）を大学では、免除という形ではなく、発展した形で学べる体制を整えました。さらに、高校時代の頑張り、取得した資格等は大学の授業料減免という形で、恩恵を受けれる特待制度を新設しました。これからが非常に楽しみです。」と、連携推進へ向けての決意を語りました。

（青森大学ホームページより）

［ 青森大学学業優秀学生表彰式 ］

8 月 2 日（土）、平成 26 年度 青森大学学業優秀学生表彰式が行われました。

当表彰式は、2 年次終了時（薬学部について 2 年次終了時及び 4 年次終了時）に特に優秀な成績を修め、かつ、人物的に優れた者として認められた個人。学術研究活動において、特に顕著な業績を挙げたと認められる個人に贈られます。

今年度から始まった、青森大学学業優秀学生表彰式では、5 名の学生が選出され、表彰状と副賞が贈られました。

表彰学生

経営学部 3 年　村元美穂
社会学部 3 年　中舘陽香
ソフトウェア情報学部　三津谷禎仁
薬学部 3 年　丸山あゆみ
薬学部 5 年　栗林晋也

（青森大学ホームページより）

[「教員免許状更新講習」の終了]

今年度、青森大学が開講する教員免許状更新講習が、8 月 5 日（火）の講習をもって、終了しました。

今年度は「実験・演習から学ぶ分析科学」、「ウェブ検索のしくみを学ぶ」、「子ども、大人のための SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）」、「マット運動の指導法並びに表現（ダンス含む）運動の実践」の 4 つの講習が開催されました。

このうち、8 月 5 日（火）は、男子新体操部部長で経営学部准教授の中田吉光先生が担当する「マット運動の指導法並びに表現（ダンス含む）運動の実践」が開講されました。

この講習では、午前中はマット運動に関する内容で、マット運動の際の補助の方法や、様々なマット運動の指導方法などについてレクチャーを受けた後、受講者の皆さんはマット運動の手法を自分で実演してみたり、補助の手法を実際にやってみたり、慣れない動作に戸惑いながらも、積極的に体を動かし受講していました。

午後は、創作ダンスの講習が行われました。ダンスの基本動作についてのレクチャーの後、3 グループに分かれ、指定された曲を使っての創作ダンスを、グループになった受講生皆さんで考え、最後はその発表が行われました。

受講者の皆さんは、汗をかきながら一生懸命取り組んでいました。

これらの講習の成果を、学校での教育指導に生かしていただければと思います。

（青森大学ホームページより）

[平成 26 年度 青森大学教育研究プロジェクト]

本年度から、学長裁量経費を活用した青森大学教育研究プロジェクトを推進することとし、公募したところ 10 件の申請がありました。

8 月 5 日、その中から、本年度は下記の教育研究プロジェクト 5 件が学長より選定されました。本プロジェクトに採択された研究代表者は、平成 26 年 12 月と平成 27 年 3 月に開催される青森大学付属総合研究所の研究発表会でそれぞれ中間報告及び最終報告を行います。

1　がん細胞に対する抗体医薬の研究開発のための抗体精製システムの構築
　研究代表者　水野憲一

2　ゼミナールを活用した「観光まちづくり事業」、「知財活用事業」、「ビジネスプラン提案事業」への挑戦
　研究代表者　岩淵 護
　共同研究者　石塚ゆかり　堀籠 崇

３　第１回青森オレンジ文化祭　～認知症の方々の作品展示会～

研究代表者　大上　哲也

共同研究者　①薬学部：一井定信（研究生）、越後尚恵（薬 23008）、中山慧哉（薬 23061）、森 祐輔（薬 23064）

②社会学部：藤 公晴、田中志子、宮川愛子

③幸畑地区居宅介護支援事業部：大川史世、事務担当：大上今日子

４　地域文化貢献：津軽家・高照神社所蔵（弘前市高岡）「源氏物語之詞」の資料的価値の考察と公開（書籍作成）に向けての準備

研究代表者　久慈 きみ代

５　行動変容のための自己マネジメント促進ポイントシステムの構築と活用

研究代表者　角田 均

共同研究者　柏谷 至　工藤雅世　小久保 温

要　　旨　学生自身が学生生活の質を向上し、自らを高めるためのよりよい行動習慣を自覚、維持するための仕組みを、株式会社リンクステーションの協力のもとで FeliCa カードのポイントサービスを活用して構築し、実証実験を行う。

（青森大学ホームページより）

[青森工業高等学校との高大連携協定 締結式]

8 月 21 日（木）、青森大学と青森県立青森工業高等学校との高大連携協定に関する締結式を執り行いました。

青森工業高校と青森大学は、これまでも青森工業高校の生徒が青森大学に来学するインターンシップ及び青森大学教員による出張講義など長期間にわたり高大連携活動を行ってきました。今回の高大連携協定は、これまでに築いてきた相互の信頼関係に基づき、双方の教育機能についての交流・連携を更に深めることによって、高校生の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、大学教育の内容及び求められる学生像への理解を深め、かつ双方の教育活動の活性化を行うことを目的に協定を締結しました。

青森工業高校 佐藤校長は「最初は、高校と大学の相互理解を深めることに重点を置く。少し時間はかかるが、その部分をしっかりやることが、数年後、飛躍に繋がると考えている。高校大学の垣根を取り払うことができれば、生徒学生たちのキャリアに、大きな利点がある。」と語りました。

青森大学 崎谷学長は「ソフトウェア情報学部を中心に青森大学の人的、知的資源を十分に活用して交流を進めたい。高校と大学が地域社会で活躍できる人材の育成について連携協力することで、地域の活性化に貢献していけると考えている。」と、連携推進へ向けての決意を語りました。

（青森大学ホームページより）

[青森大学アクティブ・ラーニングを体験！]

8 月 28 日、青森中央高校の 3 年生 45 名が青森大学のアクティブ・ラーニングを体験しに来ました！

内容は「高速交通体系、新幹線開通、地域づくり」。自分たちにとって身近な題材を中心に新しい学習方法を体験していただきました。生徒さんと一緒に体験した先生方には「初めての学習に新鮮味を覚えながら、楽しめた様子がよくわかりました。是非このような体験を他の生徒達にも受けさせたい。」と、お話いただきました。

（青森大学ホームページより）

[東日本大震災による被災高校支援活動]

９月９日、経営学部３年生の三橋真理さんが、メンバーを代表して陸前高田高校（大船渡市：仮校舎）を訪問し、2012 年５月から行っているペットボトルのキャップ回収によって得られた義援金を届けてまいりました。

本活動は、代表を務める沼田経営学部准教授と経営学部３年生の三橋真理、村元美穂、北川美里さんが 2011 年９月に被災地を視察したことに端を発しています。ペットボトルの回収には、大学のみでなく、近隣の企業様にもご協力いただき、今回の運びとなりました。高田高校の横田校長先生からは、「皆さんのお気持ちを学生に伝え、大切に使わせていただきます」とのお礼の言葉を頂戴いたしました。

末筆になりましたが、本活動の遂行にあたり、東奥日報社様には様々なご協力を頂戴いたしました。この場をお借りして御礼申し上げます。なお、義援金に関しては、東奥日報９月 20 日（朝刊）20 面の記事もご参照いただければ幸いです。

（青森大学ホームページより）

［ 高大接続をテーマに、教職員研修会を実施 ］

９月２０日、「高大接続の在り方を考える－青森大学の教育改革と魅力向上を目指して－」をテーマに、教職員研修会を実施しました。これからの我が国の産業、社会、文化など多様な分野の再生と発展、地域社会の活性化を担っていく若者を育成していくためには、高等学校教育と大学教育が円滑につながり、多くの高校生が大学に進学して未来への可能性を切り拓く、高い専門性と広い汎用能力を身に付けていくようにする必要があります。このような観点から、今回のテーマが決まりました。

研修会では、崎谷康文学長からの提言に続き、お招きした、県立青森商業高等学校千代谷均校長（写真 3 枚目）、青森山田高等学校雪田一校長（写真 4 枚目）及び県立黒石高等学校池田敏校長（写真 5 枚目）から、高等学校における教育の実践の状況や大学との接続の在り方について、発表していただき、その後、３人の校長と青森大学の教員とのパネルデスカッションを行いました。

今回の研修会により、商業や情報処理に関する教育などについて、より一貫性を高めた教育の在り方に改善していくこと、高校と大学の教育改革を相互に理解し、多様な能力を持つ学生や生徒の主体的に学ぶ力を育てる教育を進めていくこと、青森大学と高等学校の教員との交流や連携を深め、相互に学んでいくことなど、青森大学として、努力していくべき課題が見えてきました。青森大学の教職員は、高等学校との連携、接続を一層効果的に進展させ、青森大学の魅力を高め、発信していくことが重要であると痛感しました。

研修会には、県内の各高等学校から多くの参加がありました。ありがとうございました。

（青森大学ホームページより）

◇学生観光まちづくりコンテスト・北日本ステージ

まちづくりに関わる観光プランの提案を通じて、青森県の振興を考える「大学生観光まちづくりコンテスト 2014・北日本ステージ」が初めて開かれ、青森大学からも 6 チームがエントリー、5 チームが 9 月 23 日の成果発表会（青森市・青森県立美術館）に出場した。経営学部・沼田郷准教授が指導するチームが本選プレゼンテーションに登壇＝写真左＝したほか、経営学部や社会学部の学生が参加する 4 チームがポスターセッションに臨んだ＝写真右。惜しくも入選には届かなかったものの、各チームが熱のこもったプレゼンテーションを展開した。

JTB が運営する同コンテストは 4 回目を数え、今回初めて、青森県の特別協力で「北日本ステージ」が開催された。関東・東北・北海道の 15 大学から 37 チームがエントリーし、成果発表会には 14 大学の 29 チームが参加した。沼田チームは、本選プレゼンテーションに進んだ 10 チームのトップバッターとして登壇し、青森ヒバを活用して手作りのおもちゃを作成する体験型観光を提案した。

また、他の青森大学チームは「大鰐町の温泉を活用した女子力アップ」「写真愛好家を対象にした撮影プラン」「特別支援学校の修学旅行誘致」をそれぞれ提案。また、青森大学・青森公立大学・青森中央学院大学の混成チームでは、リーダーを務める青森大学生が「文学作品に登場する郷土料理」を切り口にした料理コンテストを提案した。（櫛引素夫）

[平成２６年度秋季学位記授与式]

９月２６日、秋季学位記授与式が行われました。経営学部、社会学部、薬学部卒業生の順で名前が読み上げられ、崎谷学長より学位記が授与されました。

学長式辞で、崎谷学長は、「勉学、部活動、学生生活、いろいろつまづき、苦しいこともあって、それらを乗り越えたということを思い起こしてください。これで終わりではありません。しかし、みなさんは大きな海原へ漕ぎ出していく力を持っています。青森大学の学生として学んだことを生かし、世界の中の一人として、社会の中の一人として、大きく羽ばたいていかれることを期待しています」との言葉が送られました。

続いて青森山田学園岡島理事長が祝辞を述べられ、岡島理事長は、サミュエル・ウルマンの「青春とは心の持ち方」であるとの言葉をはなむけとされました。

最後に出席者全員で青森大学校歌「若者よ 若者よ」を斉唱し、式を締めくくりました。

卒業生の皆さん、おめでとうございます。これからのご活躍を心より祈念いたします。

（青森大学ホームページより）

[青森県防災士会と包括的な連携に関する協定の締結式]

青森大学と特定非営利活動法人 青森県防災士会の包括的な連携に関する協定の締結式を 9 月 30 日に執り行いました。

平成 25 年、防災士会理事を務める櫛引素夫氏（社会学部准教授）が青森大学に着任し、「地域とともに生きる大学」という基本理念に基づいて、授業に「防災」を採り入れました。幸畑地域の方々と学生が机を並べ、防災について学ぶ機会が増えていきました。

その後、青森大学事務局 阿部教務課長が防災士資格を取得して青森県防災士会に入会。さらに青森県防災士会青森支部が例会会場に青森大学を使用するなど、連携の機運が高まっていきました。７月には教職員と学生が青森大学防災研究会を設立し、青森県防災士会から講師を招いて勉強会を開くといった取組みが始まりました。

青森大学は、今年７月に発足した幸畑団地地区まちづくり協議会の一員として、地域防災力の向上に取り組んでおり、協定締結を通じて、幸畑団地の皆さんと青森県防災士会との橋渡し役を務めることができるようになります。今後、青森大学の学生や教職員が災害の基礎知識や防災の心構えを身に付けること、また、若い防災士を育成し、地域に対する普及啓発を強化することなど、多くの面で様々な活動を展開していくことが期待されます。

青森県防災士会 小山内代表理事は、「本県は自主防災組織が全国的に見て少ないです。自然災害の猛威に防災意識が高まっている今、本会の理念に基づき、地域の防災力向上を目指していきたいです。青森大学というパートナーを得て、青森大学生や教職員とともに、活動を広げていきたいと考えております。」と語りました。

青森大学 崎谷学長は、「防災は、地域社会の再生や活性化のためにも大変重要なことがらです。地域社会の一員として、地域連携の事業の推進に努めている青森大学としては、防災士会との連携協定締結を機に、教職員や学生の防災意識の向上や地域の防災力の充実に向けて、様々な活動に取り組んでいきたい。」と、決意を語りました。

（青森大学ホームページより）

[「小室等＆こむろゆい」講演会の開催]

10 月 3 日、小室等さんとこむろゆいさんをお迎えして、公開講座「詩(うた)でつたえる『家族』と『地域』の絆」を開催しました。

本講座は、平成 26 年度の青森大学公開講座「幸畑キャンパス」の第 2 回目として、(財)青森学術文化振興財団の助成をいただいて開催したものです。

お二人はギターとウクレレを持って登場され、ときおり演奏を挟みながら、ご自身の音楽活動やチェルノブイリ原発事故の被害者支援活動に携わった経験の中から、一緒に演奏をするようになって親子の向き合い方が変わったこと、自分が「生かされている」という感覚、間違ったことには声を上げていくことの大切さ、などについてお話しされました。

今回の講座には、一般市民、学生、教職員など 230 名が参加しました。来場いただいた皆さま、ありがとうございました。

（青森大学ホームページより）

[平成 26 年度青大祭の開催]

10 月 11 日（土）、12 日（日）の 2 日間にわたって青森大学の大学祭「青大祭」が開催されました。

今年は、「Story～私たちの物語が今始まる～」のテーマのもと、大学祭実行委員会の学生達が中心となり色々な企画を立ち上げて実施し、約 3,000 人の来場者で大いに賑わいました。

ご来場いただいた皆様をはじめ、ご理解とご協力いただいた地域の方々、関係者の皆様、ありがとうございました。

（青森大学ホームページより）

[青森大学学術研究会 特別講演会の開催]

「世界の大学教育の潮流と日本」と題して、公立大学法人 国際教養大学の理事長・学長である鈴木典比古氏をお迎えして青森大学学術研究会特別講演会を 10 月 17 日（金）に開催しました。

世界の高等教育機関の現状や日本の大学の問題点、グローバル人材を育成するために国際教養大学が行っている先進的な取組みについて紹介していただきました。

鈴木理事長・学長は講演の中で「21 世紀、そして 22 世紀に向けて、日本の良い所は残しつつ、グローバル人材の育成を急がなくてはならない。日本語や海、そして日本文化に守られてきた私たちは、積極的に語学を学び、好奇心を持って異文化に対する理解を深めるとともに、日本人としてのアイデンティティに今まで以上に敏感になる必要があります。」と興味深いお話を語っていただきました。

特別講演会に参加した、多くの教職員や学生にとって、今後の大学教育の在り方、日本の未来について考えさせられる講演会でした。

（青森大学ホームページより）

[訪日のタイ大学生と青森大学生が交流会を開催]

タイの大学で観光を学んでいるタイの大学生 28 名と青森大学生との交流会が、10 月 21 日（火）青森大学 集いのスペースで開催されました。

外務省の委託により、青年海外協力協会が ASEAN 及び近隣国から青年を招聘する「JENESYS2.0 及び北米地域との青少年交流」の一環として行われました。同事業は日本の伝統文化や最先端技術、教育、地域活性、環境配慮などへの取り組みを紹介し、日本への理解を促すことが目的です。

タイの大学生は、東京及び青森で、観光に関わる団体等を訪問し、最後に、大学としては唯一、青森大学を訪問して、青森大学生と交流を行ました。交流会では、青森大学経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部の学生たちが、観光をテーマに、それぞれの専門性を生かして調査・研究した成果を発表、タイの大学生たちとディスカッションを行いました。最後は、タイの学生が民族衣装を着て踊りを披露するとともに、青森大学ねぶた祭学生実行委員会がねぶた囃子を実演し、ハネトを体験してもらいました。

（青森大学ホームページより）

[必携 学びの道しるべ上梓]

学部横断型の初年次教育である青森大学基礎スタンダードは２年目を迎え、新しい科目の導入も進められています。これら基礎スタンダード科目で使用するテキスト『必携　学びの道しるべ』が、このほど完成いたしました。

本テキストは、大学生が身につけるべきアカデミックスキルをわかりやすく解説するのみでなく、本学で取得できる資格や充実した学生生活をサポートする内容などが盛り込まれています。

講義や演習等で使用することはもちろんですが、大学における学びの様々なシーンで活用してもらえることを執筆者一同、心から願っております。

本テキストは、１年生のみならず、２年生全員にも配布しました。

（青森大学ホームページより）

[一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と協定を締結]

2020 年に開催する東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、大学と組織委員会がそれぞれの資源を活用し、オリンピック教育の推進や大会機運の醸成等、大会に向けた取組を進めるため、相互に連携・協力体制を構築することを目的として協定を締結しました。

青森大学では、人的分野及び教育的分野とオリンピック・パラリンピックに関わる研究、国内 PR。そして、ムーブメントの推進及びオリンピックレガシーの継承に関する連携を行います。

（青森大学ホームページより）

[「ビジネス・サロン」開催]

11 月 11 日に、青森大学 集いのスペースで、「ビジネス・サロン」が開催されました。

青森大学と青森県中小企業家同友会は、平成 26 年 4 月 10 日に、地域の課題に適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展及び将来的に必要とされる人材育成に寄与することを目的に、連携協定を締結しました。協定に基づき、中小企業家同友会 会員 13 社を本学に招いて、普段狭くなりがちな、コミュニケーション。その不足をわずかながらでも解消すべく、県内で活躍されている企業のトップの方々と学生が同じテーブルを囲んでやりとりを行う、産学連携の礎「ビジネス・サロン」を初めて開催しました。

1 学年 130 名が各グループに分かれて自動車関係や建設業、など 13 企業のトップの方々を取材し、「企業インフォメーション」を作成しました。

ビジネスサロンに参加した学生からは、「御社が必要とする人材はどのようなものなのか」「今、どのような問題を抱えているのか」「社会で、必須スキルはあるか」など、活発なやりとりが行われました。

企業側からは、「学生たちが何を考え、何を思い、何をしようとしているのか...。大学で何を学び、どう生きようとしているのかを知る良い機会となりました。」「地元の若い人材を育てるためにも、今後定期的に学生と交流できる場を作って欲しい。」と、お話していただきました。

ビジネスサロンは、仕事に対する理解を深め、企業にとっても若者を知る良い機会であったようです。

（青森大学ホームページより）

平成26年度 読書感想文コンクール講評

図書館長　堀端 孝俊

第20回読書感想文コンクールでは、応募総数153作品の中から、金賞1件、銀賞1件、銅賞3件が入選しました。以下は、入選作品に対する講評です。

金賞「世界から消えないもの」　　社会学部4年　　坂 繭花

書名「世界から猫が消えたなら」　川村元気著

脳腫瘍で余命宣告を受けた主人公は、現れた悪魔から「明日にも寿命が尽きるが、もしこの世界から何か一つ消せば１日分の命を与える」ともちかけられました。命欲しさにその誘いに乗って身の回りのものを一つずつ消していった主人公は「このまま世界から何かを奪って生きて行くのか」と自問するようなり、悪魔から猫を消すことを提案された時「世界に何かが存在する理由はあっても、失われる理由はまったくない」、自分の周囲にある当たり前だと思っているものごとこそ自分自身をかたどっていることに気づいたという内容です。この本を読んだ坂さんは、自分の周囲から何かを消すことが現実としてどういうことか理解できず、試しに身の回りの電話や時計を消したらどういうことになるのだろうと想像を巡らしました。そしてそれらの品々が自分の生活の一部になっていることを改めて実感し、猫も含め人そのものが世界に存在するありとあらゆるものによって形成されていることに思いが至りました。本の中では主人公は「消してみることで価値が生まれ、失うことで大切さがわかる」と言っています。坂さんは「大切なものほど見えにくくなっているこの世界から、たった一つ

何かを消すことで、世界から消えないものがある」ことに気がついたとのことです。非日常の物語から自分の存在と周囲とのかかわりについて改めて思いを巡らせたよい感想文だと思いました。

銀賞「『図書館戦争』を読んで」　　経営学部2年　篠塚 日静

書名『図書館戦争』　有川 浩著

この本は「図書館戦争」というタイトルですが、篠塚さんは「表現の自由」「メディアと社会」「社会的無関心」という三つのテーマに興味を持ち感想文にまとめています。まず、今の社会は自由に本が読め自由に物事を表現できる社会であり、これはすばらしいことでありその流れに抗して行われる図書の検閲には疑問を投げかけています。二番目のテーマであるメディアについても、我々は報道内容によってマインドコントロールされている部分があることを指摘し、原発事故の際の放射線量の発表についてもそうしたことが懸念されたと述べています。最後に、「どうしてこんな世界になってしまったんだろう」との疑問に対し、政治への無関心の恐ろしさについて述べています。憲法の解釈変更についても無関心でいるといつの間にか戦争に巻き込まれてしまうのではないか、と危惧しています。図書館をキーワードに社会問題にメスをいれた内容に興味をもち本質的な事項をまとめた良い感想文だと思いました。

第2回高校生科学研究コンテスト講評

青森大学主催第2回高校生科学研究コンテストが青森県教育委員会との共催、青森県高等学校文化連盟のご後援のもと、去る11月15日（土）に本学で開催されました。当日は小雪がちらつくなか、県内各地から 7校94名の生徒が参加しました。昨年に続き2回目となる今回も、発表する高校生の熱心な姿に接し、主催者として自然科学への興味の芽を大切に育んでいきたいと強く感じました。

今回はサイエンス部門とテクノロジー部門の募集に対して、それぞれ16件と3件、合計19件の応募がありました。内容的には昨年のテーマをさらに掘り下げたものや、全く新しいテーマに挑んだもの、複数の学校が共同で研究に取り組んだもの、あるいは研究から発表までひとりで行ったものなど、さまざまでしたがどの発表も大変熱のこもったものでした。

審査の結果、最優秀賞は三本木高等学校の「火山活動に伴う十和田湖の形成（十和田火砕流について）」でした。地下環境データベースから地下構造を推定したこと、砂や炭酸飲料という身近にある道具を工夫して実験を行ない噴火前の山の形や火口位置に関する興味深い結果を得るなど高校生らしいアイデアが光っていたこと、火砕流の堆積物について複数の地点に出向いて現地調査を行い情報収集に努めたこと、など高い評価を獲得しました。火山活動については最近注目が集まっておりタイムリーなテーマであり、実験と調査から結論を導くという構成が非常によいとの評価でした。

２件の優秀賞のうちの１件は、青森南高等学校自然科学部化学班による「雪に関する研究」でした。４年間の長期にわたり雪のpHや雪に含まれる物質に関するデータを集め酸性雪の割合が年々増えていることを明らかにしたこと、雪に含まれるガラス質の物質の由来について高層天気図の解析を行いゴビ砂漠から飛来した可能性があるという興味深い結論を導き出したことなど研究の深さ・幅ともに優れているとの評価でした。酸性雪については農作物などにも影響があると考えられるので研究を続けて頂きたい、とのコメントもありました。

もう１件の優秀賞は、八戸北高等学校SSH地学班の「八戸市牛ケ沢遺跡から産出した縄文土器の胎土分析（完結編）」でした。牛ヶ沢遺跡から産出した円筒下層d2式土器に含まれる火山ガラスが十和田火山灰由来のものであることを科学分析を行って特定し十和田火山灰が分布する地域で作られた後に牛ケ沢に持ち込まれたことを立証した大変優れた研究であること、内容について昨年度の研究との相違点など非常に分りやすい発表でありプレゼンテーションが素晴らしく上手だったこと、青森県は縄文時代が長く大きく発展した地であるので地域の歴史に興味をもち拡げていこうという気持ちがすばらしい、などいずれの審査員の評価も高いものでした。

今回受賞には至りませんでしたが、テクノロジー部門で発表した木造高校情報システム系列の「プロジェクターが写しだす感動」も大いに健闘しました。プロジェクションマッピングに感動したことが動機となりその仕組みを学びながら映像の制作まで達成できたことは大きな成果ではないか、今後更に映像の制作に力を入れて欲しい、作品はとても良くできており様々な効果をうまく取り入れていた、など審査員から高い評価を得ていました。青森南高等学校自然科学部地学班の「空の色や明るさの変化」、三本木高等学校の「乳酸菌の繁殖による納豆菌の影響について」も大変印象的でした。毎日見ている空の美しい色や明るさを科学の目で見ようという発想が良い、朝早く起きたり放課後遅くまで残ってデータを取ったと思われるがそのような努力を評価したい、「納豆菌が乳酸菌の繁殖を促進させる」現象について従来の説明に疑問を持ち自ら仮説を立て研究に取り組んでいることに感心した、バクテリア同士の相互の関係について調べたもので非常におもしろいテーマであり今後の進展が期待される、などこちらも高い評価を得ていました。

今回は部門ごとの表彰を止めサイエンス部門、テクノロジー部門全体で結果を審査した結果、入賞した３件ともサイエンス部門の発表になりました。審査項目は「テーマの独創性」、「調査・探求の方法」、「情報収集の努力度」、「研究の達成度」、「プレゼンテーション」の５項目について６名の審査員で審査を行いました。採点結果は、審査員によるコメントと全体の中における自らの評価の位置づけが分かるように表現したレーダーチャートを添えて発表者に返却しました。今後の研究の指針として役立てていただきたいと思います。

参加した生徒の皆さんには、さらなる高嶺を目指して研究に励んで頂きたいと思います。今回の発表テーマの中には、先輩から受け継いで発展させたものが多くありました。研究は、そのテーマに対して先人は何を考え、何を目指し、どこまで明らかにし、何が未解決なのか、すなわちその分野の歴史と現状を知ることに始まります。そのことによって自らテーマを設定し、自らの力で探求し、そして、今までにない新たな知見に到達することが求められているのです。研究の内容をさらに深め、発表の練習を繰り返し、来年の新たな舞台で皆さんのさらに成長した姿を見せて頂けることを心から期待しています。

青森大学は、青森県における科学教育のひとつの拠点として、今後も高校生の科学研究の活動を応援いたします。

高校生科学研究コンテスト実行委員会　　委員長　上田 條二
幹　事　堀端 孝俊

[小さな親切運動「実行章」受賞]

東日本大震災による被災高校支援活動（代表：経営学部 沼田郷准教授）を行っている北川美里さん、三橋真理さん、村元美穂さん（いずれも経営学部３年）による活動が、小さな親切運動「実行賞」に

選ばれました。

12 月 2 日、青森銀行の氣田様、木村様にご来校いただき、授賞式が執り行われました。

（青森大学ホームページより）

[商店街×青森大学＝可能性∞]

11 月 20 日、学生がつくる商店街新聞、「どさぁ？ｙOMISE さ！（第５号）」が発行されました。

今回はソフトウェア情報学部と経営学部との協働によるスマートフォンを利用した画期的なアプリケーションについて取り上げています。

このアプリは、夜店通り商店街の個店情報や位置をスマートフォンで表示することができ、どこでも気軽に情報を入手できます。

また、各店舗をジャンル別に表示することや、お気に入りのお店を登録しておき、「マイマップ」を作成することもできます。

本アプリは、ソフトウェア情報学部の小久保先生のご協力により、全ての機能を無料でご利用いただけます。

今後は夜店通り商店街に限定せず、より多くの個店情報を登録し、たくさんの方々に利用していただけるよう努力していきたいと考えております。

発行日：2014 年 11 月 20 日　発行者：青森大学沼田チーム　第 5 号

ショッピングのお供に　手のひらサイズの強い味方！

どさぁ？ yOMISE さ！

夜店通り商店街の店舗情報と地図情報をスマホで確認できる散策型 Web アプリケーションが完成しました。店舗の正確な場所、営業時間、連絡先、取扱商品などの情報を誰でも簡単に入手できます。また、飲食店やファッションというように、各店舗をジャンル別に表示し、写真も掲載しています。

店舗のセール情報やおすすめの品を時間と場所を選ばず、あなたの手の中で入手できる画期的なアプリです。まさに、使い方はあなた次第、どなたでも無料で使用することができます。ぜひ一度お試しください。

このアプリの開発者は、青森大学ソフトウェア情報学部の小久保温先生です。本活動に無償でご提供いただいています。

また、店舗情報等の入力作業、管理等は、同学部の澤田洋二さん（2年）に協力してもらっています。

商店街×青森大学＝無限大

気になるお店を選んで「マイマップ」を作ることができ、自分だけの買い物ルートを調べたり、ユーザー登録後、店舗へ行って、記念にチェックインしたりすることもできます。

アクセス方法　QR コード

URL https://yomise.herokuapp.com/

●お知らせ●「まちなかキャンパス」が開催されます。

主催：青森大学　共催：青森商工会議所　（どなたでも参加可能です。予約も不要です。）

日時：１２月１０日（水）　１８：００～１９：３０　参加料：無料

場所：シュトラウス（夜店通り商店街）　青森県青森市新町 1-13-21　017-722-1661

スピーカー：沼田　郷（青森大学経営学部）　「中心市街地活性化に向けた学生たちの軌跡」

※駐車場についてはこちら（http://www.nebuta.co.jp/yomise/）をご覧ください。

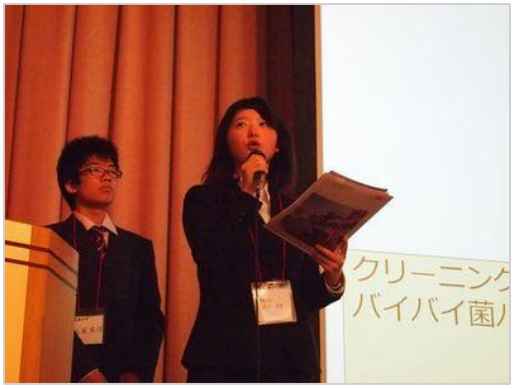
（青森大学ホームページより）

［「バイバイ菌ハンガー」で優秀賞受賞 ］

青森大学チームが、青森国際ホテルで 12 月 4 日開催された「ビジネスアイディアコンテスト」で優秀賞を獲得しました。

青森大学チームは経営学部サブゼミナール（岩淵　護・堀籠　崇合同ゼミナール），青森大学会計研究会，台湾留学生より構成された総勢 10 名からなるプロジェクトチームです。そのうち 4 名が 12 月 6 日東京・中野セントラルパークで開かれる「地域対抗『知的活用アイディア』プレゼン全国大会 in 東京」に本県代表として出場します。

「ビジネスアイディアコンテスト」は企業が有する未利用特許の活用を推進し、新規事業の創出を図るための特許戦略の一端を担うものと位置づけられます。学生はその中で、柔軟な発想力をもって、富士通株式会社が提供する開放特許の使い道を考えるとともに、製品開発の一端を担います。学生は青森県知的財産支援センター、県内中小企業の支援を受けて、ビジネスプランのブラッシュアップを重ねながら最終提案として完成させます。ビジネスプランの策定は、論理的思考法にもとづいたものであり、学生はこれを通じて問題解決の脈絡より青森県が抱える課題を①　認識すること、②　原因



分析すること、③　解決策を選択すること、④　解決案を提案すること、⑤　フィードバックすることの 5 つの行動フェーズについて実体験を交えながら学習していきます。

青森大学チームでは、リーダー北川美里さん（経営学部 3 年）を中心に、篠塚光さん（経営学部 3 年）、佐藤憲悟くん（経営学部 2 年）、佐藤　真登くん（経営学部 2 年）が主力メンバーとなって、6 月からアイディアを練り、五所川原の企業を訪ねて意見交換を重ねて、研修会にも参加しながらブラッシュアップを繰り返してきました。

これらの活きた経営学の実践を通じて、生まれたのが光触媒チタンアパタイトを利用した滅菌して臭いを出さないハンガー「バイバイ菌ハンガー」でした。審査員の方からは、「当たり前だったハンガーの可能性を広げた気がする。滅菌や臭いに対する需要は色々な場所に存在する。さらに付加価値を付ければ海外市場も狙えるのではないか」と講評をいただきました。

（青森大学ホームページより）

［ JAF 交通安全ミュージックキャラバン隊 ドレミ青大生グループ、幸畑保育園へ ］

青森大学生で結成する JAF 交通安全ミュージックキャラバン隊 ドレミ青大生グループが 12 月 9 日、幸畑保育園を訪問し、交通安全の大切さを歌と踊りで伝えてきました。

当グループは、保育園児・幼稚園児に交通安全の大切さを伝えるために、平成 22 年度に青森短期大学子ども専攻の学生で結成しました。平成 25 年度からは青森大学生に引き継がれ活動を続けてきました。

歌や踊り、交通安全 Q&A ありのミュージカル風の交通安全パフォーマンスを保育園児と保育士さんたちに披露。一緒に交通ルールや交通安全の大切さを学びました。

（青森大学ホームページより）

［ 定例記者会見 開催 ］

第 3 回青森大学学長定例会見を 12 月 11 日、青森大学第 1 会議室で開催しました。

崎谷康文学長は、次の４つの活動に関し、現状と今後の計画などについて語りました。

会見の、トピックは次のとおりです。

①修平科技大学からの留学生の受入れについて

②薬学部における模擬薬局の活用などについて

③青森大学基礎ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ必携「学びの道しるべ」について

④青森大学における高大接続について

「台湾の修平科技大学と学術交流に関する協定を 8 月に締結した。現在、５名の修平科技大学生が 1 年間の短期留学生となっている。今後は青森大学からの短期の留学についても考えたい。日本に興味を持ち、日本で勉強したいと考えている外国の学生に対して、間口を開いていきたい。日本を知るには、地方で暮らし、学び、そこで暮す人びとと交流することがとても重要だと考えている。」と崎谷学長は話しました。

さらに、崎谷学長は、薬学部における模擬薬局の活用については、子どもゆめ基金の助成を受けて、中高生対象の「薬剤師をやってみよう！」「ミクロの世界へ ～認知症の脳・神経細胞を顕微鏡で観察

してみよう～」を企画していること、また、「学びの道しるべ」は青森大学の教員の協力により、分かりやすく書かれ、授業に活用されていること、12 月 23 日に第 1 回青森県総合学科高等学校教育活動成果発表会が青森大学との共催により行われることなどについて説明しました。

最後に、今年 3 月に包括的連携協定を結んだ平内町との連携事業にも触れ、若者のネットワークづくり事業の一環として、「銘酒とスイーツの夕べ」を来年 1 月 23 日に開催することを発表しました。

（青森大学ホームページより）

◇「あおもりこれからゼミ」実施

県内 4 大学を会場に、各校がそれぞれ一つのテーマをめぐって学生と教職員、ファシリテーターの討論を展開する企画「あおもりこれからゼミ」の青森大学版が 12 月 11 日、「集いのスペース」340 教室で開かれた。経営学部 2 年の堀籠ゼミと社会学部 2 年の櫛引ゼミを中心に、3 学部の 2～4 年生 30 人が、崎谷康文学長を交えて「ネットワークづくり」について話し合った＝写真。

「これからゼミ」は学生の就職活動支援などに携わる NPO 法人プラットフォームあおもりが、県内高校生や大学生に「働くことの意味」「生きていくうえで大切にしたいこと」「社会人と学生との違い」「県内大学や県内企業の魅力」などに気づいてもらうことを目的に企画した。

参加した学生たちは「あなたにとって地域とは」「地域に生きるということ」「ネットワークの必要性」「これからどう生きるか」といった論点をめぐって活発に議論し、「大学周辺の幸畑団地での研究・地域貢献活動を通じて、いくらかでも地域に役立ちながら生きていきたいと思うようになった」「平内町への貢献活動の議論に参加して、大人たちも学生と変わりなく、あれこれ悩みながら将来を模索していると感じた」などと発言した。

議論の模様は、2 月 7 日（土）午前 11 時～11 時半、青森テレビで放映される。

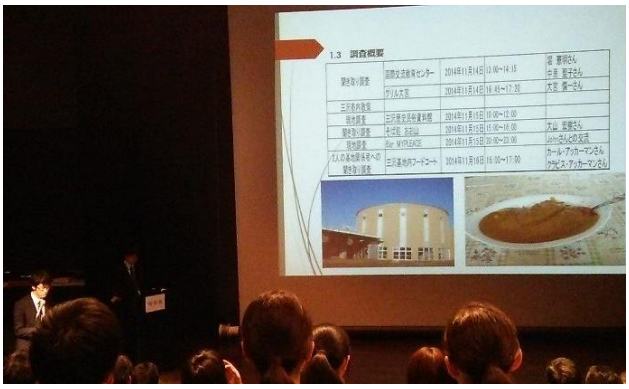
（櫛引素夫）

[学生発未来を変える挑戦フォーラムへの参加]

2014 年 12 月 15 日「学生発未来を変える挑戦フォーラム」に青森大学佐々木研究室の学生が参加しました！

このフォーラムは県内の 7 大学 9 チームが参加し、青森県が重点的に取り組む 3 つの戦略プロジェクト（食でとことんプロジェクト分野／健康長寿県プロジェクト分野／人口減少克服プロジェクト分野）に関連した「未来を変える挑戦」の成果を報告するものです。

佐々木研究室では社会学部 2 年の川村一真君を代表とした 5 人が、三沢市の多文化共生に関する調査を行い、将来的な人口減少対策に関する提言を行いました。10 分間の報告でしたが、その報告内容を作成する過程において、何度も自主的に勉強会を開き、報告用のパワーポイントや、文章を推敲しがんばっていました。また他の大学も素晴らしい報告をしており、互いに刺激しあうことができたようです。



フォーラム終了後は大学間交流会に参加、また県立保健大学のチームと合同で打ち上げを行うなど学生間の和が広がっていました。今後とも市や県の未来のために、学生の若い力で素晴らしい活動が行われることを期待しています。

（文責：社会学部准教授　佐々木てる）

[教職員研修会 開催]

平成 26 年度 冬期教職員研修会が 12 月 20 日、青森大学記念ホールで行われました。「大学の自己点検・評価と機関別認証評価について」－青森大学の PDCA の改革サイクルの確立へ－と題し、公益財団法人 日本高等教育評価機構 評価事業部兼評価研究部部長 伊藤敏弘氏をお招きし、ご講演いただきました。講演後は、澁谷泰秀学長補佐、角田均教授、李孝烈教授、柏谷至地域貢献センター長、中村事務局次長から、各セクションの PDCA サイクル確立について発表。質疑応答を行い、閉会しました。

（青森大学ホームページより）

教　務　委　員　会

[　１年生がキャリアインタビューに初挑戦！　]

青森大学 1 年生（経営学科・社会学科・ソフトウェア情報学科：約 130 数名）がグループ毎（約 5 名）に、幸畑住民の方々（5 名）や大学の教職員(22 名)に対して対象者に事前にアポイントメントをとって、7 月 1 日(火)2 時間目にキャリアインタビューを学内にて実施しました。

7 月 8 日(火)の 2 時間目には、インタビューした記事を模造紙 1 枚にまとめて、出来上がったグループから 6 号館 2 階に約 1 週間程度、模造紙に書かれた記事を張り出し、展示しました。

これは今回が初めての企画でしたが、この企画の主旨は、人生の先輩である幸畑住民や大学の教職員にキャリアに関する考えを聞き、これまでの生き方や今後の進むべき道などをそれぞれインタビューして、学生たちの将来のキャリア育成に少しでもつながればということで行われました。

インタビューや記事をまとめる活動に際して、学生たちには最初不安がみられたものの、作業を進めるうちに、楽しくなってきたのか、写真などでも見られるとおり、笑顔がみられました。

（キャリアデザイン I のスタッフ：佐藤豊、鈴木康弘、坂井雄介、青木正久　写真撮影：牧野俊之）

（青森大学ホームページより）

[「ポスターセッション」を開催　]

青森大学の独自カリキュラム「青森大学基礎スタンダード」の主要科目「人間と文化」「社会と環境」を履修する全 1 年生が 7 月 18 日から 25 日にかけて、ポスターセッション（授業の課題に対するポスター発表大会）を実施しました。審査の結果、最優秀賞には「人口減少社会への対応」を発表した 2 組 1 班「２－１」組が選ばれ、25 日に表彰と記念プレゼンテーションを行いました。

【最優秀賞に選ばれた「２－１」グループと崎谷学長（右端）】

「青森大学基礎スタンダード」は、全 4 学部生（経営学部・社会学部・ソフトウェア情報学部・薬学部）による混成グループをつくり、授業テーマをめぐって議論・調査して結果を発表する「アクティブ・ラーニング（能動的学習）」を採り入れています。

今回のポスターセッションには全 1 年生約 200 人・40 グループが参加しました。「人間と文化」「社会と環境」はそれぞれ教員 4 人、計 8 人がオムニバス形式で担当し、青森県や日本社会の過去と現在、未来を題材に、政治・経済・環境・文化など 8 つのテーマで授業を展開しました。

ポスターセッションでは、各学生グループが「人間と文化」「社会と環境」の 8 テーマから思い思いのテーマを選び、ポスターを制作・展示しました。崎谷康文学長ら 6 人の審査員が「完成度」「アイデア」「ポスターとしてのまとまり」「ビジュアルな説得力」の 4 項目について審査しました。

最優秀賞のほか、優秀賞 2 点とアイデア賞、ビジュアル賞各 1 点が選ばれ、崎谷学長が各グループに表彰状を手渡しました。各グループは壇上で記念のプレゼンテーションを披露し、大きな拍手を浴びていました。

他の入選グループは次の通りです。

〇優秀賞＝3 組 4 班「３組４班」、3 組 10 班「グループくまもん」

〇アイデア賞＝3 組 2 班「２グループ」

〇ビジュアル賞＝4 組 7 班「グループ７」

（青森大学ホームページより）

[青森総合卸センターの藤本専務理事、青大生 1 年に就職講話]

10 月 21 日（火）、1 学年対象の「キャリアデザインⅠ」の授業で、問屋町の協同組合青森総合卸センターの藤本和夫専務理事を学内にお招きし、「青森の企業が求める人材」と題して講義をしていただきました。コーディネーター役としては、プラットフォームあおもりの櫻田さんや榊さんにもサポート役としてご協力いただきました。

内容は、青森市の民間経済は製造業の数が少なく、食品加工や建設業が多い一方、卸売業や小売業、サービス業、運輸業を中心とした流通産業が基幹となっていると説明、残念なことに、青森県の法人企業の 7 割が赤字になっているといった非常に厳しい現実が話題にされました。

しかしながら、青森で働く学生に対しては、ただ単に仕事が与えられるのを待っているだけではなくて、厳しい情勢ながらも自ら進んで積極的に仕事に参画してチャレンジするなど、青森の新しい仕事の流れを是非とも若い人たちが創っていただきたいとの前向きなエールが投げかけられました。

加えて、企業が求める人材としては、3 項目あり、①簿記などの企業に役に立つスキルをもっていて企業に貢献できる人材であり、②ポジティブ志向で、やる気をもって職場で働く人は歓迎されるが、そうでないと必要とはされない。③「社会人として恥ずかしくない人材」が求められ、具体的には最低限のマナーやモラルを身につけた人であり、スポーツ新聞以外の新聞を毎日読む学生が求められる、と言ったお話を藤本専務理事はされました。

コーディネート役の櫻田氏からはグループワークをうまく採り入れながら授業は進み、最後の段においては、藤本専務理事より、働くときに必要な基礎知識として、就業規則などの最低限の基礎的な知識は是非身につけておくと、必要な場合に役に立つことがある、などなど、就職に関する様々な貴重なお話をしていただきました。学生にとっては普段の生活では得られない情報だっただけに、今回の就職講話の学生の満足度は高かったようです。（写真提供：プラットフォームあおもり）

（青森大学ホームページより）

就　職　委　員　会

就職委員会の活動

就職委員会では学生の就職率 90%以上の達成を目標として、1 年から 4 年（薬学部は 6 年）までの学生の就職活動支援をゼミ担当教員と連携して実施している。特に、経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部に対しては 3 年次の就職ガイダンスを重視して、今年度年間 17 回を系統的に計画して実施した。今年度新しく実施したガイダンスの内容としては、リクナビおよびマイナビの講師による、学生が PC を使用した Web 上での自己診断である。

また、4 月 7 日に「青森県中小企業家同友会」と青森大学が連携協定を締結したことを受けて、同友会加盟企業のトップをお招きして学生と交流、キャリアデザイン授業における講演、さらに 10 月の青森大学祭における企業展や企業の経営者、教員、学生によるミニ・シンポジウムの開催など、産学連携の礎となる多様な交流を開始した。

新しい試みとしては、ゼミ担当の教員向けに就職支援に関連する様々な情報をメールマガジンとして就職課より発行した。

青森大学の強みは、就職率の高さと強力な学生への就職支援である。毎年高い民間企業への就職率を達成しているが、7 月に発行された「就職に強い大学 2015」（読売新聞社）に掲載されている全国就職率ランキングにおいて、経営学部が 3 位、社会学部が 4 位にランクされた。

さらに現在の 3 年生から企業の就職採用広報活動の時期が 3 月 1 日へ後ろ倒しになることへの対応として、学長補佐室と協力して、2 月 4 日～5 日に「就職活動キックオフイベント」を開催する。春休み直前の時期に、就職支援の総仕上げとして実施する。

最後に、毎年少数ではあるが、就職活動を実施していない「進路希望の対象外」となる学生が残念ながら存在する。就職委員会においてゼミ担当の先生方に調査した結果、その半数は「留年確定者」であり、また残りの少数は卒業に必要な単位数に大幅に不足しているため、単位取得に専念したい、というゼミ担当教員から要望が出されている学生であった。これらの学生に対しても、卒業要件の目途が着いた時点で、求人情報を紹介し、背中を後押しして支援していきたい。実際、昨年度も 3 月になってそのような学生の就職が決まった事例もあった。就職委員は全員、「最後まで絶対にあきらめるな」というメッセージを継続して伝え、そのような学生への支援を進めている。

（李 孝烈）

学　　生　　課

[準硬式野球部 鹿内市長を表敬訪問]

８月１日、本学準硬式野球部は、鹿内市長に東北地区春季リーグ戦と全日本選手権大会（東北地区代表決定戦）の二つの優勝報告をしてまいりました。

また、今月 12 日より開幕する全国大会（岡山県倉敷市）への抱負を述べ、東北チャンピオンとしての誇りを胸に戦うことを誓ってまいりました。

８月６日には、甲田幼稚園のみなさんに、全国大会出場壮行式を開催していただきました！

準硬は、幼稚園の運動会スタッフなどのボランティア活動も行ってきました。普段お付き合いのある園児のみんなさんに激励の言葉をいただき、特製メダルの贈呈、「ガッツ」ダンス披露と盛大な壮行式を開催していただきました。

（青森大学ホームページより）

［ 準硬式野球部　全国大会で善戦も... ］

８月１３日、岡山県倉敷市において、第 66 回全日本大学準硬式野球選手権大会の一回戦が行われました。本学は同志社大学と対戦し、実力伯仲の好ゲームとなりました。本学投手陣は、山上起生（経営１年：青森山田高校出身）－藤沢隼汰（社会４年：五所川原農林高校出身）のリレーで相手打線を１点に抑えたものの、ホームベースが遠く、１－０で敗れました。

櫻井監督曰く、このチームのベストゲームだったと振り返ったように、選手達は全力でプレーし、もてる力の全てを発揮したゲームだったように思います。このような意味において、負けた悔しさはあるものの、清々しさも感じるゲームでした。試合後のミーティングで選手達の頬をぬらしたものは、

４年分の思いと来年に向けた決意の現れのように見えました。勝利する喜びと、負けた悔しさを充分に知った青森大学準硬式野球部は、さらなる高みを目指し、研鑽を続けてまいります。ご支援、ご声援、誠にありがとうございました。

（青森大学ホームページより）

[第二回 寺山修司演劇祭 2014]

第二回 寺山修司演劇祭 2014 に、青森大学演劇団「健康」と青森大学生の有志が参加。

8 月 29 日（土）30 日（日）三沢市の星野リゾート青森屋で開催されました。

寺山さんを偲ぶ演劇祭では、約３００人が、今も色褪せない寺山演劇の魅力を楽しみました。「健康」と学生有志は、演劇祭のオープニングイベント「5 月の序詞（うた）」に出演。また、30 日は、Ｊ・Ａシーザーの野外コンサート「山に上りて告げよ」に出演。「プロの演劇活動を身近で体験できてよかった」（学生の感想）今回も、ご指導は、寺山修司記念館館長佐々木英明氏でした。青森大学校歌「若者よ 若者よ」を作詞して頂いたご縁で、これまでも数多くの寺山イベントに参加してきました。

来年は寺山修司生誕 80 周年となります。青森大学生の益々の活躍に期待しています。

（青森大学ホームページより）

[平成 26 年度幸畑団地ねぶた合同運行]

8 月 30 日、幸畑団地ねぶた合同運行が終わりました。

午前中あれだけ晴れていたにも関わらず、ねぶた運行の時間が近づいてくるとだんだんと雲行きが怪しくなり、運行開始と同時に雨。

（facebook 青森大学サテライトより）

それでも元気な子供たち。幸畑団地に「ラッセラー」の声が響き渡りました。

幸畑小学校の皆さん、横内小学校の皆さん、そして幸畑団地の皆さん、ありがとうございました。

ねぶた運行が終わったあとは納涼祭。
初めてお邪魔しましたが、楽しかったですw
来年は大学でも出店とか出したいですね～！！

［ 平成２６年度災害避難訓練の実施 ］

【災害の想定】
１０月３０日１６時１０分、強い地震発生。２次災害として１号館介護実習室付近より同時出火。
【目的】
１．青森大学における防災の徹底を期し、地震・火災による人的・物的災害を軽減することを目的とする。
２．地震・火災発生の際には定められた経路に従い、安全かつ迅速に、授業担当者の指示に従い退避できるようにする。
３．避難行動は迅速かつ整然と行う。
【避難場所】
本学中庭

１６時１０分、地震発生の学内放送に続いて、全館の非常ベルが鳴り響きました。避難を誘導する学内放送のあと、この時間帯に学内にいた学生・教職員約３５０名が中庭に避難しました。あわせて出火元付近では消火訓練が行われました。

青森大学では、今後も様々な形で防災避難訓練を行い、学生・教職員一人一人の防災に対する意識の向上に取り組んでいきます。

（facebook 青森大学サテライトより）

［ 男子新体操 全国制覇 ］

11 月 13 日～16 日、東京・国立代々木競技場で全日本新体操選手権大会が行われました。
成績として団体競技は、2 年ぶり 10 回目の優勝、個人総合では、経営学部 1 年永井直也が 5 位、経営学部 4 年籠島遼が 6 位に入賞しました。
特に団体競技は、昨年失敗もあり満足した演技ができず 2 位という結果でした。その悔しさを忘れることなく 1 年間練習に取り組んできました。大会会場へはＯＢや保護者、またお世話になっている方々もたくさん駆けつけていただき、我々にとって大きな力となりました。
多大なご声援ありがとうございました。

今後ともご支援ご声援をよろしくお願いします。

（青森大学ホームページより）

[外国人日本語スピーチコンテスト 開催]

2014 年 11 月 24 日、第 19 回外国人日本語スピーチコンテスト（青森市国際交流ボランティア協会主催）が開催され、本学経営学部の留学生である何岳庭(カ ガクテイ)さんと王日畯(オウ ニチシュン)さんが出場し、壇上で熱弁をふるいました。また、本学学生８名がボランティアスタッフとして運営を支えました。

何岳庭(カ ガクテイ)さんは、「自分探し、友達探し」というタイトルで、今年の４月に来日した時には友達ができるか心配だったが、半年も経たないうちに、日本人のけやぐ（友達）がたくさんできた経験を語りました。そして、青森の人が一人一けやぐ、外国人のけやぐを作れば、青森に外国人観光客があふれる日が来るという考えを提案し、審査員特別賞とけっぱったで賞を受賞しました。
また、王日畯(オウ ニチシュン)さんは、「りんごとねぶた？」というタイトルで、２か月前に来日して、青森のすばらしさは「りんご」と「ねぶた」だけでないこと、青森の大自然や人の優しさに触れて感動した経験などを語りました。そして、青森の魅力を台湾だけでなく世界中の人に伝えたいという熱い気持ちを伝え、えがったで賞を受賞しました。

二人は、日本に来て間もない留学生とは思えない堂々としたパフォーマンスを披露し、観客を魅了しました。今後の成長が楽しみです。また、ボランティアスタッフとして活躍した学生も、今回の貴重な体験を通じて、国際交流の輪を広げることができたと思います。地域の未来を担う国際人として成長する第一歩となったようです。

（青森大学ホームページより）

[男子新体操部が青森県知事を表敬訪問]

全日本新体操選手権男子団体で、2 年ぶり 10 回目の優勝を果たした、本学男子新体操部が 11 月 25 日（火）、三村青森県知事を表敬訪問し、優勝の報告をしました。

訪問したのは、中田吉光部長・監督、宍戸学長補佐・事務局長、選手 6 名（石井侑佑：4 年、霜山生：4 年、谷俊太朗：4 年、原田幹啓：2 年、植野洵：1 年、渡辺剣史郎：1 年）です。

最初に、中田部長・監督から成績が報告された後、選手たちが感想や今後の抱負を語りました。

この中で、昨年準優勝となり連覇が途切れて悔しかったこと、その悔しさをばねに、ベストコンディションで臨めてまた優勝できてほっとしていること、連覇できるように頑張ること、1 月の舞台（BLUE）に向けて頑張ること、などが語られました。

三村知事からは、ねぎらいと祝福の言葉があり、「この優勝は青森県の名誉でもあり、うれしい。逆に、ありがとうと言いたい。」と語りました。

この後、乾杯や記念撮影が行われ、表敬訪問は和やかな雰囲気の中、終了しました。

訪問終了後には、報道陣からの囲み取材も行われ、選手たちは次に向けて、気を引きしめていました。

（青森大学ホームページより）

[映画『FLYING BODIES』がこども国際映画祭 in 沖縄でグランプリ！]

昨年、一夜限りで開催された、本学男子新体操部と世界的デザイナーの三宅一生氏とのコラボレーションイベント「青森大学男子新体操部」。このイベントのドキュメンタリー映画『FLYING BODIES』が、第 1 回こども国際映画祭 in 沖縄＜KIFFO＞において、グランプリを受賞しました！

詳しくは、以下のホームページからご覧いただけます。

『FLYING BODIES』ホームページ　http://www.flyingbodies.jp/

第 1 回こども国際映画祭 in 沖縄＜KIFFO＞ホームページ　http://www.kiffo.kukuruvision.com/

また、地元紙・琉球新報にも掲載されました。

琉球新報ホームページ　http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-235290-storytopic-6.html

（青森大学ホームページより）

[交通安全講習会（冬季）]

日時：平成 26 年 12 月 10 日（水）　14 時 40 分～16 時 10 分

会場：6 号館　記念ホール

対象：車輌で通学する全学生および教職員
講師：青森モータースクール　猪股　直仁　氏
演題：「冬道の交通安全等について」

（部長会資料より）

[留学生、甲田幼稚園を訪問]

青森大学の台湾人留学生 6 名が 12 月 11 日、甲田幼稚園を訪問し、台湾のことばや文化を紹介しました。歌やダンス、ゲームを通して異文化に触れることの面白さを伝え、園児たちと交流を深めました。

園児からの歓迎のことばで迎えられた留学生たちは、日本でも馴染みの深い「ぞうさん」と「ぐーちょきぱー」の歌の台湾バージョンを披露し、台湾のじゃんけん「剪刀石頭布」や鬼ごっこを一緒に楽しみました。また、留学生は絵本の読み聞かせにもチャレンジし、日本でも有名な昔ばなし「老鼠娶新娘（ねずみのお嫁入り）」を絵本と動画を使って紹介しました。

五感を使っての異文化体験は、園児たちにとっても、留学生にとっても、よい思い出となったことでしょう。台湾のことばを初めてきいた子も自然に台湾の文化に触れることができ、国際的な視野を広げるきっかけとなり、未来をつなげるかけがえのない絆を育むことができたように思います。

（青森大学ホームページより）

[グローバルキッチン開催！]

12 月 13 日、本学の調理実習室で「グローバルキッチン＆留学生交流会」が開催されました。留学生と日本人学生３０名程が本場中国の「水餃子」作りに挑戦し、モチモチでジューシーな水餃子を味わいながら相互理解を深めました。

包丁を持つ手が不慣れな学生たちも、お互いに協力しながら大量のキャベツとねぎをみじん切りに。包丁の腹で力強く叩きつぶした生姜と調味料を加え、野菜とひき肉をしっかり練る。皮で包むときは具が飛び出ないよう丁寧に。茹でるときは皮が破れて旨みが出てしまわないよう差し水を数回。学生たちは慣れない作業に悪戦苦闘。具の配分を間違えて、予想以上に皮が余るというハプニングもありました。

疲れと空腹がピークに達した頃、アツアツの水餃子が完成。味、食感ともに上々の出来栄えで、お腹をすかした学生たちは一気にたいらげました。料理を通して様々な気付きを体感し、お腹も心も満たされた学生たちは、お互いに助け合ってスムーズに片付けをした後、中国語の歌を一緒に歌って交流を深めました。このような一歩一歩の積み重ねが、異文化理解に繋がるのだと実感できる一日でした。

（青森大学ホームページより）

◇後援会東青支部・授業見学

青森市や東津軽郡の青森大学生の保護者がつくる「青森大学後援会東青支部」（相馬央支部長）は 12 月 13 日、支部研修会の一環として、初の大学見学会を開いた。13 人の会員は各学部の教室を訪れ、授業の模様を参観したり、学生たちのプレゼンテーションに聴き入った。

薬学部では米谷悟教授の製剤学の集中講義を参観、ソフトウェア情報学部では学部恒例の、3 年生の創作ゼミの研究発表会を見学し、イベント運営をサポートするアプリなどの開発に耳を傾けた。社会学部では、2 年生の社会学演習で、櫛引素夫准教授による北海道新幹線・北陸新幹線の研究結果を、学生とともに学んだ。社会学部生らは、青森県主催の統計グラフコンクールの入選作品を披露し、県知事賞を受賞した武田誉也君らがプレゼンテーションを行った＝写真。

◇学友会リーダー研修会

青森大学学友会（舘竣哉中央委員長）は12月21日、「集いのスペース」340教室で、本年度のリーダー研修会を開いた。各部・サークルの代表者と次期代表者、約30人が参加し、活動に際して必要となる事務手続きについて学ぶとともに、「必要とされるリーダー像」についてワークショップを行った。学友会が事前に各部・サークルへ実施したアンケートに基づいて、櫛引素夫・社会学部准教授が「アンケートから探るリーダー像」と題して講演し、「組織・集団の目的や状況に応じて、求められるリーダー像は多様」などと問題提起。3～6 人のグループに分かれた参加者らは、リーダーに必要な資質や心がけるべき事柄について「他人の意見に耳を傾ける」「あきらめず努力する」といったポイントを議論し合い、結果をまとめて発表した。

地域貢献センター

[幸畑団地の空き家で「空き家シンポ」を開催]

青森大学地域貢献センターと青森県住みかえ支援協議会がつくる「幸畑地区住宅活用プロジェクト」は１０月２日、幸畑団地地区まちづくり協議会と共催で、幸畑団地内にある実際の空き家を会場に、座談会「空き家で語ろう　空き家問題」を開きました。団地の皆さんと青森大学の学生・教職員、青森市内外の空き家に関心のある方々など約４０人が参加し、幸畑団地の空き家の現状と将来像について意見を交わしました。

座談会は「幸畑団地・住宅活用シンポジウム第１弾」として企画されました。青森大学からは、社会学部の櫛引素夫准教授が、教員有志グループ「幸畑プロジェクト」や学生団体「プロジェクトＫ」などによる調査結果について、幸畑地区の住民は自然環境などの満足度が高い半面、文化・娯楽・スポーツ施設に関する満足度が低いこと、団地内の空き家率が約９％となっていることを報告しました。

続いて、住みかえ支援協議会の若佐谷章氏（青森県宅地建物取引業協会・事務局長）が、県内の空き家率が２０１３年現在で１３．８％に上っていること、空き家になったマイホームの借り上げ制度が整っていることなどを解説しました。また、幸畑団地地区まちづくり協議会の張山喜 隆・運営委員長が「自然環境が良い幸畑はとても住みよい街。あまり自己否定的にならず、自信を持って、もっと楽しい地域をつくっていこう」などと訴えました。このほか、東京都から幸畑団地を選んで移り住んだ女性アーティストのコメントがビデオメッセージで紹介されました。

フリートークでは「一連の話を聞いて、幸畑団地への見方が少し変わった」「空き家問題について、積極的に考えてみたい」「複数の学生が一軒家を借りて住むシェアハウスを希望する学生はいないか」といった発言があり、活発な議論が展開されました。

（青森大学ホームページより）

◇学生団体「ハッピー・フィールド」が調査活動

青森大学の有志学生グループ「ハッピー・フィールド」（代表・高橋叡＝社会学部 3 年）が、包括的連携協定を結んでいる平内町の魅力を探求しようと、町や青い森鉄道の協力を得て現地調査を行った。8 月下旬から 9 月上旬にかけて現地調査を行い、10 月に調査結果と提言をまとめたリポートを作成したほか、第 14 回ふるさと自慢わが町ＣＭ大賞の応募作を制作した。

「ハッピー・フィールド」は、経営、社会、ソフトウェア情報、薬の全 4 学部の 1～3 年生 5 人から成り、3 月の平内町と青森大学の包括的連携協定の締結を受けて、学生の活動によって大学と町の連携に貢献するため、5 月に発足した。

8 月 27 日には第 1 回の調査のため、3 人のメンバーが、大学最寄りの青い森鉄道・筒井駅（青森市）を出発し、車中で青い森鉄道の広報担当者から資料提供を受けた後、平内町の中心部にある小湊駅に到着。町職員の案内で、夏泊半島や夜越山森林公園を探索し、山田光昭副町長とも懇談した＝写真。また、9 月 2 日から 3 日にかけて第 2 回調査を行い、「不動の滝」などを訪れた。

メンバーは半数以上が県外出身で、参加者は全員が平内町を初めて訪れた。町内で酒店と洋菓子店を営む若手経営者らにもインタビューし、町民の問題意識や地元観に理解を深めた。

「ハッピー・フィールド」の調査と提言が契機となる形で、青森大学は平内町関係者、青い森鉄道と提携して、町の若者ネットワークづくり事業を受託、1 月 23 日にキックオフイベント「ひらない魅力発掘晩餐会～銘酒とスイーツの夕べ」を開催する。

[青森大学と平内町連携で「若者ネットワークづくり」始動]

11 月 12 日、「青森大学×平内町連携プロジェクト実行委員会」が発足しました。

青森大学と平内町は、平成 26 年 3 月 13 日に包括的連携協定を締結しました。協定に基づき、両者の交流・連携・協働を通じて、地域の課題に適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展及び将来的に必要とされる人材育成に寄与することを目的に実行委員会を設立しました。

この度、最初の連携プロジェクトとして、来年の 1 月 23 日（金）に、甘党も辛党も集まれるイベント、平内町・若者ネットワークづくり事業「銘酒とスイーツの夕べ～平内町のトリセツをつくろう」を開催することとなりました。

青森大学では、学部横断で有志を募り、社会学部 3 年 髙橋叡くんを筆頭に、「ハッピー・フィールド」を結成。平内町を歩き、魅力発見に挑戦してきました。「まずは、人と人の交差点になるようなイベントの開催！」と意気込んでいます。平内町と連携の第一歩を踏み出しました。今後の動きについても随時、青森大学 HP 最新情報で発信していきます。

（青森大学ホームページより）

[女子カフェを開催]

11 月 17 日(月)、青森大学「集いのスペース」にて、第 1 回「女子カフェ」を開きました。

「女子カフェ」とは、「女子の力で青森大学を良くしていきましょう！！！」を合言葉に、みんなで学内のキラリと光るものを見つけたり、学生生活をより良くする方法を出し合う場所です。

初回は、薬学部の 7 名の女子学生が参加し、トークラウンド形式で、日頃から思っていることや感じていることを共有しながら、たくさんの意見を書き込んでいきました。今後の女子カフェでは、出された意見を少しずつまとめて、学長に提案し、「学生中心の大学」づくりに役立ていきます。

（青森大学ホームページより）

[平成 26 年度 青森大学公開講座「まちなかキャンパス」開催]

青森大学では今年度、青森学術文化振興財団からの助成をいただき、公開講座として中心市街地で開催する「まちなかキャンパス」と本学で開催する「幸畑キャンパス」を企画してきました。今回は、5 週連続で開催される「まちなかキャンパス」の第 1 回目（11 月 19 日）となります。

講師は青森大学社会学部 柏谷至先生です。「地域コミュニティの再生を目指して」と題し、青森大学も参加している「幸畑団地地区まちづくり協議会」設立の経緯や活動、将来展望についてお話をしていただきました。

カフェサロンを会場に、コーヒーを飲みながら講演を聴くというリラックスしたスタイルだったこともあり、講座は和やかな雰囲気で行われました。講演後は、幸畑団地や油川でまちづくりに携わっている方からの発言があり、活動エピソードや地域ごとの特徴、後継者問題などについて話し合いました。

（青森大学ホームページより）

[平成 26 年度 青森大学公開講座 「 まちなかキャンパス 」 第２回開催]

青森大学地域貢献センターは 11 月 26 日、第 2 回「まちなかキャンパス」を、青森市新町のカフェサロン「シュトラウス」で開催しました。

社会学部の櫛引素夫准教授が講師を務め、「県民の視点から見た東北新幹線開業」と題して、青森・弘前・八戸の東北新幹線に関わる調査結果の概要を紹介しました。各市の市民の４割程度が「新幹線開業が自分たちの暮らしや市、県全体に対して良い効果をもたらした」と感じているというデータに対し、参加者からは「自分にとって新幹線とは何か、初めて考えるようになった」といった感想が出ました。

（青森大学ホームページより）

[青森大学生らが市にまちづくり提言]

青森大学など青森市内 4 大学の学生が、市政の充実に向けて対策を提案する「まちづくり政策形成市民懇談会」が 11 月 30 日開かれました。青森大学からは経営、社会、ソフトウェア情報、薬学の全 4 学部から 1～3 年生計 6 人が参加し、鹿内博市長と懇談しながら、「外国人観光客に優しい街づくり」などをテーマに議論とプレゼンテーションを行いました。

市民懇談会はこれまで、市内の各町会・団体などを対象としてきましたが、今年初めて、学生だけを集めて「景観」をテーマに開催されました。青森中央学院大を会場に、11 月 16 日に第 1 回のワークショップを行い、検討結果を 30 日に取りまとめて発表しました。

参加した学生たちは各大学混成の 4 グループに分かれて、「新町通り のにぎわい創出」「駅前の景観改善」をテーマに和やかなムードで議論を展開し、「電動自転車の利用環境整備」「駅の外観をね

ぶた色に」などユニークなアイデアを披露し合いました。
学生たちは発表内容を「提言書」としてまとめ、近く鹿内市長に提出します。

（青森大学ホームページより）

[平成 26 年度 青森大学公開講座 「 まちなかキャンパス 」 第３回開催]

青森大学地域貢献センターは、第 3 回「まちなかキャンパス」を、12 月 3 日 青森市新町のカフェサロン「シュトラウス」で開催しました。

今回、第 3 回まちなかキャンパスでは社会学部の工藤雅世教授が講師を務め、「ヘルス・ツーリズム＠本州北端の都市 ～健康・観光・中心商店街のサイクル～」と題して″青森市を幸福な地域にする″手法としてのヘルス・ツーリズムについてお話をしました。

（青森大学ホームページより）

[平成 26 年度 青森大学公開講座 「 まちなかキャンパス 」 第４回開催]

今回、第４回目（12 月 10 日）のまちなかキャンパスでは、中心商店街活性化に取り組んでいる本学学生の軌跡を中心にお話しさせていただきました。

当日は、高校生を含む多くの参加者と活発な意見交換ができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。皆様から頂戴いたしましたご意見・ご要望は、今後の活動に反映させていただきたいと考えております。

現在の活動は、商店街新聞「どさぁ？ｙOMISE さ！」の発行を中心に行っており、市内各所（観光案内所、アスパム、図書館、商工会議所等）で配布させていただいております。

最新号（第５号）では、本学ソフトウェア情報学部とのコラボレーションによるスマートフォンを用いた散策型のアプリケーションについて取り上げています。本アプリは、商店街（個店を含む）の情報を地図情報と合わせて入手できるようになっています。個店情報と地図情報を同時に表示することで、お店の正確な位置、営業時間、連絡先、取扱商品などの情報を手軽に入手できるようになりました。これらは全て無料で使用いただくことが可能となっておりますので、ぜひご活用ください。

（青森大学ホームページより）

[平成 26 年度 青森大学公開講座 「 まちなかキャンパス 」 第５回開催]

多くの方々にご参加いただいた、「まちなかキャンパス」が 12 月 17 日、無事最終回を迎えることができました。ありがとうございました。

最終回は、「認知症の方々の杖になれるよう ～認知症、特にアルツハイマー病について～」の演題で、 青森大学 薬学部 大上哲也教授がお話しました。

大上教授は、認知症についての研究の現状や、病院や薬局・福祉施設が連携した取り組み、認知症に関する理解を深めるために本学などで開催した「オレンジ文化祭」などについてわかりやすく紹介し、参加者と意見交換しました。

「まちなかキャンパス」を企画した、地域貢献センター 柏谷至センター長は、「今年の公開講座は中心市街地の喫茶店をお借りし、通常の講座より和やかな雰囲気で開催することができました。これをきっかけに市民の方と教職員との交流をいっそう深めていければと思います」と語り、今年度のまちなかキャンパスを締め括りました。

（青森大学ホームページより）

【ニュースレター創刊！！】

平内町と青森大学、青い森鉄道の連携事業の一環として、1 月 23 日（金）のイベントを告知しながら町内外のネットワークをつくる「ニュースレター」が創刊されました（12 月 24 日、平内町内全戸に配布）。

印刷版はモノクロですが、ネットではカラーでご覧いただけます。青森大学社会学部の 3 年生が、「社会学演習」の授業の一環として制作しました。題字やイラストも学生が担当。第 2 号以降には、こちらのページにいただいた皆さまの画像・投稿を随時、収録していきたいと考えております…！

facebook 青森のおへそから　～私の平内、あなたの平内～　https://www.facebook.com/hiranai

（facebook 青森のおへそから　～私の平内、あなたの平内～　より）

学習支援センター

学習支援センターは 2013 年 9 月の発足から 1 周年を迎えた。基礎演習向けの独自の共通テキスト「学びの道しるべ」が完成し、製本・配付されたほか、組織面では、学修時間・学修行動調査を端緒として「IR 推進室」（IR＝インスティテューショナル・リサーチ）が 10 月に発足、メンバーも増強された。イベント面では、就活支援の「ミニセミナー」やボランティア活動浸透を目指す「ちょこボラ Café」の開催が定着した。また、学生インタビュアーによる在学生の活動取材・記事執筆などの広報活動も進展している。他方、「集いのスペース」の活用浸透に伴う運営体制の強化や、センターの活動内容の周知、学習相談窓口の利用促進、学生スタッフの参画といった課題への対処が急務となっている。活動の詳細は以下の通りである。

(a) 学習相談窓口の開設

・7 月から延べ 71 回、窓口を開設した（7 月: 17 回、8 月: 6 回、9 月: 12 回、10 月: 12 回、11 月: 13 回、12 月: 11 回)。利用者は延べ 14 人で、このうち 1 人に専門家カウンセリングを受けさせた。

・主な相談内容は、科目履修、PC 演習室の利用、学習支援システムの利用方法、就職活動、面接指導、ゼミ、学修環境の改善についての要望、授業への出席などだった。

(b) 学修時間・学修行動調査と IR 推進室の発足

・規定に基づき、教務委員会と合同で●月に平成 26 年度前期の調査を実施した。対象は全学部の 1

～3 年生で、内訳は 1 年生 123 名、2 年生 112 名、3 年生 97 名である。現在、集計と分析を進めている。

・IR 推進室は、活動目標として(1) 教育改革の成果確認(2) 学生生活支援の充実 (3) 外部評価への対応、学外への発信(4) IR 活用の充実・推進（IT 化教育支援システムの活用、データ閲覧権限の管理方法検討）を掲げる。発足に伴い、新たにセンター員 4 人が加わった。

(c) 基礎演習向け「共通テキスト」の作成

・平成 26 年度から開講した「基礎演習」及び「地域貢献基礎演習」等で使用している共通テキストは、前期の第 1 部に続いて、第 2 部・第 3 部の編集作業が終わり、印刷・製本にこぎつけた。後期開始に合わせて、全学部の 1、2 年生に配付した。

(d) 学習環境の IT 化推進

・次年度の授業に向けた ICT セミナーを 2 月に実施する。

(e) 授業内/外学修の体制整備

・日商簿記検定 1 級取得希望学生に対する個別指導を実施している。

・日商簿記検定 2 級 3 級取得支援の授業を実施している。

(f) 学生によるミニセミナー等、就活支援対策の実施

・6 月に公務員（青森県警）志望者を対象として実施した第 1 回ミニセミナーに続き、10 月から 12 月にかけて 8 回のミニセミナーを開催、2、3 年生延べ 29 人が参加した。経営、社会、ソフトウェア情報の 3 学部の 4 年生が講師を務め、青森県警や国内最大手の IT 企業、金融機関、福祉施設への就活体験や心構えを解説した。

○第 1 回(6 月 25 日)「公務員(青森県警)志望者対象セミナー」

○第 2 回(10 月 24 日)「就職活動での準備の大切さ」(社会学部 4 年・黒滝健太君)

○第 3 回(10 月 31 日)「私の就活!」(ソフトウェア情報学部 4 年・織田将史君)

○第 4 回(11 月 7 日)「IT 企業を中心に就活する学生へ!」(ソフトウェア情報学部 4 年・船越貴裕君)

○第 5 回(11 月 14 日)「就職活動への私の挑戦!」(経営学部 4 年・伊藤拓哉君)

○第 6 回(11 月 21 日)「金融機関への私のチャレンジ!」(経営学部 4 年・山谷統君)

○第 7 回(11 月 28 日)「私の就活(福祉関係)」(社会学部 4 年・西舘翔子さん)

○第 8 回（12 月 5 日)「私の就活」(社会学部 4 年・鈴木智君)

○第 9 回（12 月 12 日)「私の福祉に対する就活」(社会学部 4 年・三浦穂乃佳さん)

・一連のミニセミナーとは別に、12 月 3 日、経営学部の恵良二郎准教授が講師を務めて「『銀行の社会的役割、地域社会との関わり』と『就職活動』について」をテーマに金融セミナーを開催、12 人の学生が参加した。

・学長補佐室と協力し、「青森大学就活勉強会」を発足させて、ミニセミナーをはじめ就活関連行事への学生の参加を促した。また、社会学部就職委員会が 9 月に企画した就活支援講話「学生をどう支えるかー就活最前線」の開催をサポートした。

(g) 熟議・ワークショップの実施

・地域貢献センターと共同で、ボランティア活動に携わる学内外の人々を講師に「ちょこボラ Cafe」をほぼ月 1 回のペース（毎月最終金曜日の 5 限目）で実施した。

・女子学生の声を学習環境の改善に役立てるため、11 月 7 日に第 1 回「女子 Cafe」を実施し、7 人

が参加した。第2回を1月19日に開催する。

(h) 教務委員会・FD委員会・学生委員会等との共同事業

・料理を通じて留学生と交流を深める「グローバルキッチン & 留学生交流会」を 12 月 13 日に開催し、30 人が参加した。

(i) 「集いのスペース」の運営

・「集いのスペース」教材開発室にタブレットなどの IT 機器を配置してあるが、活用のため設定作業が必要となっている。

(j) 活動の記録・広報

・広報班が中心となり、教職員が協働して、在学生インタビューの取材・記事掲載ならびに学生インタビュアーの養成を実施した。

〇学生インタビュアー：社会学部2年・加藤亜耶さん、木村菜摘さん

〇インタビュー対象：

(1)ソフトウェア情報学部4年・今北斗君(9月5日掲載、学生インタビュアー)

(2)ソフトウェア情報学部2年・澤田洋二君(9月12日掲載)

(3)薬学部3年・逢坂奈々さん(9月19日掲載、学生インタビュアー)

(4)経営学部3年・村元美穂さん(9月26日掲載、学生インタビュアー)

(5)社会学部4年・三浦穂乃佳さん(10月3日掲載、学生インタビュアー)

(6)社会学部卒業生・中沢翔馬君（10月15日掲載、寄稿

・大学サイトや「青森大学サテライト」(Facebook ページ）への記事・情報掲出

・「青森大学サテライト」運営グループとの意見交換と運営協力

・学友会メディア委員会との意見交換

・「青森大学ニュース」の学習支援センター記事作成

◇青森大学就活勉強会

「学生中心の大学」を就職活動の面でも実現するため、学長補佐室と学習支援センターが連携する形で、10月に「青森大学就活勉強会」が発足した。社会学部を中心に2、3年生が入会し、随時、新規加入を受け付けている。センターが主催する就職ガイダンス・イベント「ミニセミナー」への参加などを通じて、最新の就活事情や企業研究のあり方について理解を深めている。

[就活支援「ミニセミナー」本年度もスタート]

青森大学・学習支援センターの就活支援企画「ミニセミナー」が 10 月 24 日、スタートしました。就職先が決まった4年生が後輩学生に、就活のヒント、心構えなどを伝える取り組みで、平成25年度に始まりました。本年度の第 1 回は社会学部 4 年の黒滝健太君が「就職活動での準備の大切さ」をテーマに就活を振り返り、出席者らと熱く質疑を交わしました。

黒滝君は、県内外の著名企業約 30 社を受験して数社から内定を得て、その上で、公務員試験に挑むなど、意欲的かつ計画的に就職活動を展開しました。その結果、第一志望の青森県警察本部の採用試験に合格し、就職が内定しました。

スーツをはじめとする準備物、夏場の服装、面接時の心構え、適度な自己アピールと行き過ぎたアピールの境目、さらには親とのコミュニケーションの取り方など、実戦をくぐり抜けた学生ならでは

のきめ細かな解説に、出席した 2、3 年生は熱心にメモを取って聞き入っていました。

質疑では「交通費はいくらぐらい必要か」「一般常識の勉強法は」「ウェブテストの受験のコツは」といった質問が相次ぎ、黒滝君は「東京や仙台で就活をするなら、相当の費用がかかる」「毎日のニュースや新聞で着実に知識を得るべき」「限られた時間で、オンラインでテストを受けることになるので、電話などに煩わされない時間帯に自宅で受験を」と丁寧に答えていました。

ミニセミナーは今後も毎週、開催予定で、就職が内定しているソフトウェア情報学部生らが講師を務めます。

[学習支援センター「金融ミニセミナー」を開催]

青森大学 学習支援センターは、「就職支援のための金融ミニセミナー」を、12 月 3 日青森大学 集いのスペースで開催しました。

講師は、30 年を超える金融機関での実務経験をされた経営学部 恵良二郎准教授が務め、銀行入行後の預金、融資、営業、そして国際業務まで一連の実際に経験されたことについてお話をしました。

趣旨として、金融機関としての経済的、社会的役割、地域社会との関わりなどについて、次いで銀行の仕事、大学生の金融機関に向けての就職活動等の心構え、準備対策等について。とくに金融機関の使命として安倍内閣の 3 本の矢の 1 つ「金融政策」にも大きな役割を示していることや地域社会に根差した金融機関としての関わりなど社会全体に非常に大きな関わりと役割を呈していることを説明しました。

銀行の仕組みについて、①銀行とはなにか　②個人・法人・金融庁との関わり　③銀行の収益の仕組み　④銀行の支店の仕組み　⑤銀行員のキャリア　⑥本店の仕事と厳格なモニタリング情報管理体

制　⑦融資の審査とその仕組み　⑧定期預金の種類（含む外貨定期預金）　⑨金融機関が最も力を入れている法人営業（リテール部門）、国際業務（グローバル部門）について。９つの項目で話をしました。

青森大学の就職と金融機関への就職について、政府発表による有効求人倍率は 1.08%を超える勢いと報じられているが、首都圏の有名大学では 3 社も 4 社も 1 人で企業内定がとれる学生がいるとしても、東北青森では 1 社の内定を勝ち取ることができない状況について、社名や規模より仕事の特徴や自分の力を発揮できるところを選択することが大切と述べ、金融機関への就職について、この厳しい環境を乗り越えるため、とくに金融機関を目指している学生には金融機関側からみた「欲しい人材」と学生側の「準備対策」について、銀行員時代のリクルーター経験から「選ばれるため」今どうしたらよいかを考え行動することが大切だと伝えられ、そのためには自己分析を始め企業研究は勿論のこと早いうちから、準備と対策を講じることが大切だと説明しました。

ちなみに、人事採用の最も重視している「選ばれる人材」とは、①コミュニケーション能力（協調性）②チャレンジ性（積極性）③性格の明るさ（含む笑顔）、忍耐性などが挙げられ、これらは最も採用重視項目である。いずれにしても大学生の就職活動は「競争」であり内定を勝ち得るためには、厳しい競争に勝たなければならないということであり、従って早い段階から前述した通り自己分析、業界研究、面接試験対策、履歴書、エントリーシートの作成、企業・銀行説明会の積極的参加等万全な準備と行動が何よりも大切だと力説しました。

最後に企業・金融機関の面接官がよく質問される「頻出重要質問 18 項目」も列挙されました。今後金融機関を目指す学生が 1 人でも多く増えてくれれば今回のミニセミナーも良かったのではないかと恵良准教授はコメントしました。

ミニセミナーに参加した 3 年生からは、「銀行関係への就職に非常に関心を持っていたので、今回は大変に参考になった。今後銀行の就職に向けて頑張りたいと思いました。」と感想を述べていました。

担当　社会学部 佐藤豊、経営学部 恵良二郎、事務局 横山達哉

（青森大学ホームページより）

青森大学オープンカレッジ

青森大学オープンカレッジの平成 26 年度 1 月から 12 月までの実施状況は、次のとおりです。

1　市民大学講座（総合講座）

昭和 52 年度より毎年 20 講座を開講。今年度は次の 20 講座を開講した。　（敬称略）

回	実施日	テーマ	講師	参加者	内容概略
1	4 月 18 日	家族法の改正と庶民感覚	平井卓（特任教授）	48 人	民法の親族、家族編の改正について
2	5 月 9 日	新幹線と青森の将来	櫛引素夫（社会部）	46	新幹線開通による青森の地域振興
3	5 月 16 日	コンビニと百円ショップ	赤坂道俊（経営部）	45	現代のコンビニ等の発展の理由
4	5 月 30 日	青森市議の報酬は高いか	菅勝彦（社会学部）	46	審議会長の 15%ダウン答申の経緯
5	6 月 6 日	中高年の知能を伸ばす法	鈴木康弘（社会部）	49	学習による知的生活の送り方
6	6 月 13 日	漢方薬の効果と副作用	上田條二（薬学部）	47	漢方薬の薬理と上手な利用法

7	6 月 27 日	青森の気象ヤマセと多雪	渡邊司（青森気象台）	48	青森市に多い多雪とヤマセの理由
8	7 月 4 日	笑いは幸せの架け橋	人星亭喜楽駄朗(秋田)	48	笑いと健康、幸せ、効用（話術法）
9	7 月 18 日	是川縄文館・国宝赤糸縅鎧、白糸縅褄取鎧見学	青森県文化財課学芸員、櫛引八幡宮宮司	45	南部地方の野外見学会として、是川縄文館と 2 つの国宝を見学
10	8 月 22 日	津軽史の歴史の虚と実	盛田稔（山田学園長）	44	南部藩から津軽藩の変遷、歴史の虚
11	8 月 29 日	津軽為信と黒石藩の歴史	津軽承公・津軽 15 代	46	戦国時代から江戸、明治までの変遷
12	9 月 12 日	ニュージーランド文化	チアキポーラム（英会話）	48	クライストチャーチの自然と文化
13	9 月 19 日	弘前グリーンツーリズム	田村えり子〈北まほろば〉	46	農家の食事レシピとツーリズム等
14	9 月 26 日	木彫り職人～日展入選へ	竹村松博（彫刻家）	47	日展会友のこれまでと作品の鑑賞
15	10 月 3 日	追いの沢野外料理体験	田村えり子〈北まほろば〉	41	キャンプ場でマス釣りと料理教室
16	10・24	叙情歌等の歌唱指導	白岩貢（ソフト情報）	39	津軽のふるさと、紅葉などの指導
17	10・31	鍛えよう聴く力	石塚ゆかり（経営部）	45	聴上手になるための傾聴のすすめ
18	11 月 7 日	東日本大震災の復興支援	高田敏幸（岩木自然学校）	47	民間の復興支援活動から学ぶもの
19	11・21	NPO でまちをまえる	柏谷至（社会学部）	45	買物難民支援等 NPO でできること
20	12 月 5 日	生涯学習とこれからの教育	崎谷康文（青大学長）	49	生涯学習の現状と学問のすすめ

第 10 講　盛田稔学園長の講演

第 15 講　　追いの沢野外料理体験

2　みちのく散歩みち（野外講座）

講師は成田敏先生（民俗学研究科、元青森県立郷土館学芸員）で、次の 6 回について、バスめぐりによる現地見学会を行った。

回	実施日	地域とテーマ	参加者	内容概略
1	5 月 20 日	陸奥湾の産業と歴史	18 人	野辺地の藩境界、野辺地戦争墓所、北限のツバキ等の現地理解
2	6 月 3 日	弘前の洋館めぐり	22	藤田記念庭園、青銀記念館、外人教師館、旧広崎図書館の視察
3	6 月 24 日	脇ノ沢の自然と暮らし	24	野猿公苑、脇野沢港、九艘泊タラ船展示館等の解説付き見学

4	7 月 15 日	久慈市の海女と海士	29	北限の海女（TV あまちゃんの舞台）、大久喜漁労館の解説見学
5	9 月 2 日	十三安藤氏の遺跡等	25	十三湊遺跡、市浦歴史民俗資料館、小泊漁火センター等の見学
6	9 月 30 日	三本木稲生川めぐり	21	新渡戸記念館、十和田市郷土館、運河稲生川の解説付き見学

第4回　久慈市の海女と海士（事例）

久慈市は「やませ」の町といわれているが、7月15日は良い天気に恵まれ、青空と明るい夏の太陽の下、すばらしい景色を堪能できた。NHKの朝のドラマ「あまちゃん」に良く出てきた小袖漁港のアワビ、ウニの密漁監視小屋は、漁港の周辺全てが見渡せる標高70mの高台にあって、それは素晴らしいというボランティアガイドの一声に、一向29名のほとんどがその監視小屋まで急なスロープを上ったが、最後に着いた私たち数人は、ちょうどやってきた監視人と色々話すことができた。そのあと、バスに乗って、バスの運転手の好意で東のリアス式海岸沿いの細道を15分ほど走って帰ったが、三陸復興国立公園（去年までは陸中海岸N.P.）のすばらしい海蝕崖を思いがけず堪能することができた。

「あまちゃん」にたびたび出てきた三陸鉄道北リアス線は、ちょうど立ち寄った野田駅（道の駅にもなっていて、土産物やレストランになっている。）で、宮古行と久慈行の双方の列車とも観られたことも大満足であった。　最後に立ち寄った道の駅「やませ土風館」では、震災から復興の様を数多くの写真の展示を見ることで、東日本大震災の被災地久慈や野田は復興しているんだと確認しほっとできたのは、今回の最大の収穫だった。（所長　藤田　均）

３　大自然トレッキング（野外講座）

大自然トレッキングは青森県、秋田県の山々を中心に全 6 回の登山を行った。講師は所長の藤田と雲谷ヒルズ　の柿崎行則さん（自然とのふれあいサポーター）の２人で、サポートに青森大学自然学校 OB 会の 2 名が付いた。

回	実施日	場所とテーマ	参加者	内容概略
1	5 月 22 日	雪解の奥入瀬渓流	28 人	小雨の中、三乱れの流れから銚子大滝までのトレッキング。
2	6 月 5 日	新緑の八幡平焼山	35	晴れの中、玉川温泉から花を愛でつつ焼山往復。八幡平、八甲田山系、岩手山の眺望が素晴らしかった。残雪あり。
3	6 月 19 日	高山植物を愛でる北八甲田めぐり	26	ロープウエーで田茂萢～赤倉～井戸岳～八甲田大岳～毛無岱～酸ヶ湯へ。チングルマ、アカモノ、ヒナザクラ等鑑賞。入浴あり。
4	7 月 24 日	岩木山百沢の、固有種ミチノクコザクラめぐり	35	リフトの終点、岩木山 9 合目より山頂を経て、百沢コースを下る。 雪渓が思いのほか多くその近辺に季節外れのミチノクコザクラの大群落が見られた。花は大収穫だったが時間の掛かり過ぎを反省。
5	9 月 4 日	神秘的な桃洞の滝（北秋田市森吉）	32	心配された沢や川の水位も好天に恵まれ難なく踏破。1 時間半のトレッキングで「桃洞の滝」に到着。豪快な滝の姿を目にできた。 やぶ蚊がすごく、全員蚊に食われ、昼食は逃げ込んだバスの中で。
6	10 月 9 日	紅葉の八幡平山頂部と蒸ノ湯	40	日本晴れの下、八幡平頂上駐車場から八幡沼を一周し、山頂展望台に。２班に分かれ、１班はメガネ沼、鏡沼を経由してバスで蒸ノ湯へ。もう 1 班は歩いて蒸ノ湯へ。古き良き温泉を楽しむ。

第４講　岩木山のミチノクコザクラ　　第４講の参加者たち

４　社交ダンス教室（趣味講座）

社交ダンス教室は全 8 回、原子昭先生（青森県社交ダンス教師協会会長）及び對馬喜代司先生（協議ダンサー）の指導で、初心者の方を中心として、基本と初歩のステップ、踊り方を習いました。

各レッスンは 1 日 1 時間半で、初心者も、かなりうまく踊れるようになったと原子先生の評価を受け、皆喜んでいました。

実施日	10 月 21 日	10 月 28 日	11 月 4 日	11 月 11 日	11 月 18 日	11 月 25 日	12 月 2 日	12 月 9 日
参加者数	10 人	10 人	11 人	10 人	11 人	10 人	11 人	11 人

ダンスのレッスン風景（右端が原子先生）　同風景写真

５　淡彩、油彩画教室（趣味講座）

淡彩、油彩画教室は全５回、日展会友の青森市在住の洋画家・張山田鶴子先生の指導で、初心者からベテランまで、基礎から応用まで、デッサンの指導を受けたり彩色の仕方、キャンバス全体の色のバランス等の指導を受けました。モチーフの花や静物をスケッチから入って、その彩色、全体バランスを考えての完成までをと段階ごとに行い、５回目の最後にはみな完成させて、品評会をし、記念写真を撮って終わりました。

実施日	11 月 6 日	11 月 13 日	11 月 20 日	11 月 27 日	12 月 4 日
参加者数	11 人	11 人	10 人	12 人	11 人

絵画のレッスン風景１

レッスン風景２

６　特別企画　［社会福祉関連講座］

「心の健康と介護の仕方」について、9月25日から10月30日まで、全6回、社会学部社会福祉学科の藤林正雄、船木昭夫及び宮川愛子の3人の先生に各2回講義又は実習指導を行っていただいた。

回	実施日	テーマ	講師	参加者	内容概略
1	9月25日	心の健康。ストレスとコミュニケーション	船木昭夫先生	12人	友達と遊びができる、人とうまく付き合える方法及びストレスのへの対処、怒りのコントロール法について実習を交え解説。
2	10月2日	メンタルヘルスとコミュニケーション	船木昭夫先生	8	グループワークで、自分の価値判断と他者の判断との違いを体験。捉え方の違いを知ることで、ストレスの感じ方も違ってくることを解説。
3	10月9日	介護される人の身になっての体験(実習)	宮川愛子先生	8	介護法の実習その１として、利き腕を封じられた介護される人の身になっての体験等を行った。
4	10月16日	介護技術体験（実習）	宮川愛子先生	7	介護法の実習その２として、実際の身体不自由者を立たせて、洋服を着せ替えさせる実習を行った。
5	10月23日	人間関係の持ち方、傾聴することの意味	藤林正雄先生	11	人間関係の持ち方、コミュニケーション法、傾聴の学び等について、グループワークを交えて解説。
6	10月30日	老老介護のストレスと自殺予防	藤林正雄先生	7	介護力の減退、自殺のサインとその対処…自殺の話を避けず、思いを率直に問い、誠実に対応する。

介護技術体験（実習）

船木先生の講義

７　特別企画その２　青森大学と青森市教育委員会との共催［小牧野遺跡にみる祭祀と土木技術］

（事務局は、青森大学オープンカレッジと青森大学総合研究所が共同で行った。）

（学長解説）本青森大学と青森市教育委員会の共同企画として取り上げた特別企画、小牧野遺跡にみる祭祀の３回の講義に至った経緯は次のとおり。学長が文化庁時代の視察として三内丸山とともに小牧野を訪れたのが、三内丸山の遺跡が発見され話題となりだした平成７年だったこと。小牧野遺跡の発見は平成元年、青森山田学園の葛西勤教諭と講師である高橋潤氏が所属していた当高校考古学研究会であった。発掘を引き継いだのは青森市の教育委員会。そのため、土地は青森市所有となって、三内丸山の青森県管轄とは異なっている。今、縄文遺跡を世界遺産にということで北東北と北海道が一緒になって運動しているが、その１８ある候補地のうち２つが青森市内のもので、三内丸山と小牧野がそれ。そして小牧野は三内丸山ほど県民に知名度が無いので、小牧野を広く地元に知ってもらいたいと青森市教育委員会と一緒になって青森大学として企画したものである。

回	実施日	テーマ等	講師名	参加者	内容概略
1	11 月 12 日	小牧野遺跡の発見	高橋潤氏（日本考古学協会員）	16 人	小牧野遺跡の発見の経緯は、考古学の先輩であった葛西氏とともに青森山田高校に考古学研究会を立ち上げ、生徒を連れて土器の調査をしていた。昭和 47 年、ある土器収集家が小牧野(小館)で面白い土器を拾ったことが新聞に載って、それを目にした葛西先生がその人に会ってその土器片から、それが縄文後期（４千年～３千年前の時代）のものだと鑑定した。その後 2 人及び考古学研究会の生徒たちと発掘調査を行って、小牧縄文遺跡の大半を明らかにした。その他実際に行った発掘法の話があった。
2	11 月 19 日	小牧野遺跡現地説明会	高橋潤氏、児玉大成氏（青森市教育委員会文化財課）	22	国指定の「小牧野遺跡」で現地説明会を開催。平成元年から小牧野遺跡発掘に携わっている児玉大成市文化課主査が、環状列石の中央帯、内帯、外帯を現地で説明解説。大規模な労働で下流の荒川から運ばれてきたという大きな石に当時をしのんだ。その後、建設中の小牧野遺跡保護センターへバスで移動して、出土品を実物触らせてもらいながら見学、説明を受けた。
3	12 月 3 日	遺跡の今とこれから	児玉大成氏	20	ストーンサークルの実際の発掘の仕方、条例化の苦労話、小牧野遺跡の保護活動とその思いなどの話。

11 月 19 日の現地説明会

（児玉氏よりの説明を聞く参加者）

青森大学総合研究所

[総合研究所共催青森大学研究プロジェクト成果中間報告会の開催]

学長裁量経費による教育研究プロジェクトの公募が、平成26年度より開始され、教育改革部門（2件）と研究推進部門（3件）で合わせて5件の研究プロジェクトが採択された。平成26年12月20日に、学長が主催、付属総合研究所の共催で、これら5件の研究プロジェクトの中間報告会が下記の内容で、集いのスペース（642 教室）において開催された。報告会には、30 名あまりの教職員が参加し、盛会であった。崎谷学長は、「このような研究プロジェクトが、本学の教育改革と研究推進を進めていく上で、先駆的な手がかりとなることを望む」と述べ、「過去3年間で大きく飛躍した本学の研究活動を更に活性化してほしい」とまとめた。

▽研究プロジェクト成果中間報告

「教育改革部門」

① 「ゼミナールを活用した「観光まちづくり事業」、「知財活用事業」、「ビジネスプラン提案事業」への挑戦」
岩淵 護　経営学部准教授

② 「行動変容のための自己マネージメント促進ポイントシステムの構築と活用」
角田　均　ソフトウェア情報学部教授

「研究推進部門」

③ 「がん細胞に対する抗体医薬のための抗体精製システムの構築」
水野　憲一　薬学部教授

④ 「第1回青森オレンジ文化祭　～認知症の方々の作品展示会～」
大上　哲也　薬学部教授

⑤ 「地域文化貢献：津軽家・高照神社所蔵（弘前市高岡）「源氏物語之詩」の資料価値の考察と公開（書籍作成）に向けての準備」
久慈　きみ代　社会学部教授

[総合研究所紀要の発行]

青森大学付属総合研究所紀要（Journal of Aomori University Multidisciplinary Research Institute)、第16巻1号（平成26年9月30日付）が、下記の内容で発行された。

・ 肯定的項目と否定的項目が社会調査データの分析に及ぼす影響：古典的テスト理論を用いた分析
澁谷泰秀・渡部諭・吉村治正・小久保温

・ 青森市の観光ボランティアにみる東北新幹線開業への評価
櫛引素夫

・ 幼児期における体操競技指導法に関する研究―幼稚園での体操経験者を対象にして―
高橋肇

経　営　学　部

[国際交流活動： 2015 年台湾修平科技大学から短期留学生の受け入れ]

経営学部では、協定校の台湾修平科技大学から５名の短期留学生を１年間の予定で受け入れることになった。９月１６日、短期留学生受け入れ式が図書館新館視聴覚室で実施され、学長より受入許可書が交付された。今回の短期留学プログラムは、留学生向けの日本語科目と経営学部専門科目を履修することに加え、日本人学生や地域の人々との交流、日本文化や地域の伝統工芸の体験、ボランティア活動などを授業に組み込み、実践的かつ効率的に青森の生活と文化を学べるようなっている。来日から４か月余り、たくさんのイベントやボランティア活動を経験することによって、地域の活性化や国際理解の促進にも一役買っているといえる。今後の活躍を期待したい。

９月４日 短期留学生来日
９月１３日 第１０回渋谷ねぶた祭参加
９月１６日 短期留学生受け入れ式
１０月５日 日本語学習支援青い森の日本語まつりにて台湾の紹介
１０月８日 第２回留学生交流会（みんな de ディスカッション「青森の魅力とは？」）
１０月１２日 青大祭にて台湾文化紹介
１０月１７日 総合社会教育センター生涯学習フェア参加
１０月１９日 幸畑団地ハロウィーン参加
１０月２５日 ランチ教室参加、第３回留学生交流会（黒石市鳴海醸造店酒蔵および中野もみじ山見学）、新町地域ツアー
１０月３１日 ちょこボラ Cafe にて留学生活紹介
１１月３日 総合社会教育センターインターナショナルワークショップ参加
１１月８日 りんごもぎ体験、新町地域ツアー
１１月２４日 ＡＩＶＡ外国人日本語スピーチコンテスト出場
１１月２９日 ユネスコグローバルパーティー参加
１２月６日 国際交流協会ポットラックパーティー参加
１２月１１日 甲田幼稚園との交流会
１２月１３日 グローバルキッチン＆留学生交流会参加

（石塚ゆかり　准教授）

[『知財活用アイディア』プレゼン全国大会に青森県代表として出場]

・「大手企業の技術を活用した大学生によるビジネスアイディアコンテスト（青森県）」に岩淵・堀籠・石塚サブゼミナールとして参加し、優勝する。
・「地域対抗『知財活用アイディア』プレゼン全国大会 in 東京」に岩淵・堀籠・石塚サブゼミナールが青森県代表で進出する（2014 年 12 月）。
・「学年を横断したゼミ間連携による地域貢献および外部プロジェクトへの挑戦」第 1 回青森大学教育研究プロジェクト成果中間報告。

（岩淵護　准教授）

[沼田ゼミ：大学生観光まちづくりコンテスト・本選出場、商店街新聞「どさぁ？yOMISE さ」第５号の発行]

2014 年９月 23 日　大学生観光まちづくりコンテスト、本選発表の様子（青森県立美術館）

発行日：2014 年 11 月 20 日　発行者：青森大学沼田チーム　第５号

どさぁ？ yOMISE さ！

ショッピングのお供に　手のひらサイズの強い味方！

夜店通り商店街の店舗情報と地図情報をスマホで確認できる散策型 Web アプリケーションが完成しました。店舗の正確な場所、営業時間、連絡先、取扱商品などの情報を誰でも簡単に入手できます。また、飲食店やファッションというように、各店舗をジャンル別に表示し、写真も掲載しています。

店舗のセール情報やおすすめの品を時間と場所を選ばず、あなたの手の中で入手できる画期的なアプリです。まさに、使い方はあなた次第。どなたでも無料で使用することができます。ぜひ一度お試しください。

yomise.herokuapp.com

夜店通り商店街

このアプリは、青森大学沼田チームにより、中心商店街にぎわい創出事業としてつくられたウェブサイトです。

ジャンルの一覧へ

マップへ

マイマップに登録した地点の…

ユーザー登録してログインすると、すべての機能が使えるようになります。

このアプリの開発者は、青森大学ソフトウェア情報学部の小久保温先生です。本活動に無償でご提供いただいています。

また、店舗情報等の入力作業、管理等は、同学部の澤田洋二さん（２年）に協力してもらっています。

商店街×青森大学＝無限大

気になるお店を選んで「マイマップ」を作ることができ、自分だけの買い物ルートを調べたり、ユーザー登録後、店舗へ行って、記念にチェックインしたりすることもできます。

アクセス方法　QR コード

URL https://yomise.herokuapp.com/

●お知らせ●「まちなかキャンパス」が開催されます。

主催：青森大学　共催：青森商工会議所　（どなたでも参加可能です。予約も不要です。）

日時：１２月１０日（水）　１８：００～１９：３０　参加料：無料

場所：シュトラウス（夜店通り商店街）　青森県青森市新町 1-13-21　017-722-1661

スピーカー：沼田　郷（青森大学経営学部）「中心市街地活性化に向けた学生たちの軌跡」

※駐車場についてはこちら（http://www.nebuta.co.jp/yomise/）をご覧ください。

2014 年 11 月、商店街新聞
「どさぁ？yOMISE さ」（第５号）

（沼田郷　准教授）

[第 67 回全日本新体操選手権大会で団体優勝]

・第 66 回全日本学生新体操選手権大会

8 月 26～29 日、栃木県立県南体育館において表題が開催された。

団体競技において前人未到の 13 連覇を達成し、個人総合選手権においては、永井直也（経１）が準優勝、種目別クラブで優勝など 4 つのメダルを獲得した。また、福士俊輔（経４）が 8 位に入賞した。

・第 67 回全日本新体操選手権大会

11 月 12～16 日、国立代々木第一体育館において表題が開催された。団体競技において 2 年ぶり 10 回目の優勝を果たした。個人総合選手権においては、永井直也（経１）が 5 位、籠島遼（経４）が 6 位に入賞した。　（中田吉光　准教授）

【高大連携事業および簿記検定対策】

・本学と青森商業高校との間で締結された高大 7 年間で日商簿記 1 級取得を目指す連携事業の一環として、本学入学後、日商簿記 1 級取得を目指す高校生（推薦入試合格者・日照簿記 2 級取得済み）への入学前学習を行っている。進路決定後の時期の有効活用および高大接続の観点から、日商簿記 1 級

の内容を大学で使用する教材で進めている。
・本学では簿記検定取得を目指している学生を支援している。今年度後期からは検定直前の補習授業だけでなく、学生ごとに異なる課題を課している。これは部活に所属しているため勉強する時間帯の限られる学生や、学生により異なる簿記の習熟度に配慮した取組みである。さらに、わからないところのある学生には個別に指導するなど学生一人ひとりに適した試験対策を行っている。

（松本大吾　専任講師）

[学部の特性を活かしたサービス品質の向上へ向けた取り組み]

平成 25 年度に引き続き、経営学部教務委員会では「カリキュラム改革とワークバランス」の問題に着手した。その背景として、「学部の専門性を活かしたサービス向上へ向けた取り組み」という課題があげられる。一律な教育を施すことを目的に、ビジネスマナーをはじめとするソーシャルスキルの育成を図っていくための「青森大学スタンダード教育」に対し、学部専門教育に課せられる使命とは何であるかを自問自答する一年間となった。またこれに加え、教員や職員を含めた複雑な意思決定機構を通じて、学生に向けた質の高いサービス提供を如何様に実現すべきかを教－職連携の在り方、学部間提携の在り方などの観点より再考しなおす契機の 1 年となった。

学部教務委員会の取り組みは、①「ビジネス系大学」において専門科目を習得することの意味や意義をカリキュラム体系に問いかけることを目指す、②「ビジネス系大学」において地域貢献の意味や意義を捉え直すこと、すなわち学部 COC の見地から問題解決能力の育成、および地元に貢献する資格人材の輩出を目指す、③「ビジネス系大学」の現場から全学教務委員会、FD 委員会、学長補佐室、教学タスクフォース、学習支援センターに向けて提案を促すフィードバックループの構築を目指すことの 3 点に集約される。①においては、昨年度にひきつづきワークバランス、新人教員の補充にもとづいたカリキュラム調整が進められたこと、1 年次の専門ゼミナールが再設置されたことなどがあげられる。

②においては、ソフトウェア情報学部との提携事業である「基本情報技術者試験午前免除制度」が開始されたこと、高大連携にともなう事業として「会計コース（仮称）」の設置必要性についての検討がはじめられたこと、県や市の要請に応えるため、来年度より開講が予定されていた“プロジェクト演習”を前倒しで開講し、崎谷　康文学長、戸塚　茂雄経営学部長の支援のもと、学部ぐるみで地域貢献活動に従事する取り組みがはじめられたことがあげられる。なお学部教務委員も多数参加した「学年を横断したゼミ間連携による地域貢献および外部プロジェクトへの挑戦（第 1 回青森大学教育研究プロジェクト）」の成果について最終報告が待たれる。これら現場体験の実験を通じて、学部としての地域貢献の在り方、高大連携の在り方から学部カリキュラムの品質を高めるための有益なフィードバックも期待されている。

③においては、学長、経営学部長によって適切な人事が行われ、学部を複雑に横断する機能組織（スタッフ組織）に対し、学部教務委員が適切に配置され、情報共有が高まったことが指摘される。重複した意思決定プロセスを極力排除することを心がけながら、学部間における意思決定の混乱を防止し、学部教授会から全学教務委員会に向けたフィードバック要請をボトムアップ的な見地より調整するためのミッションに従事した。これについては、本年度より始まった GPA 制度の運用・管理問題、スタンダード科目への適切な教員配置の問題への対応などがあげられる。　（岩淵護　准教授）

[学習支援センターの活動]

１． 学習支援センターによる 1～3 年生に向けての就職ミニセミナーの実施（8 回）

2014.10.24 テーマ：「就職活動での準備の大切さ」講師 社会学科 4 年 黒滝健太

2014.10.31 テーマ：「私の就活」講師 ソフトウエア 4 年 織田将史

2014.11.07 テーマ：「IT 企業を中心に就活」 講師 ソフトウエア 4 年 船越貴裕

2014.11.14 テーマ：「就職活動への私の挑戦」 講師 経営学科 4 年 伊藤拓哉

2014.11.21 テーマ：「金融機関への私のチャレンジ」講師 経営学科 4 年 山谷 統

2014.11.28 テーマ：「私の福祉関連の就活」講師 社会福祉学科 4 年 西舘翔子

2014.12.05 テーマ：「東北労働金庫に対する就活」社会学科 4 年 鈴木 智

2014.12.12 テーマ：「私の福祉に対する就活」社会福祉学科 4 年 三浦穂乃佳

受講した 1～3 年生の学生は今回のミニセミナーに参加し「今後の就活に向けてとても参考になった。」と感想を述べておりました。

２． 金融ミニセミナーの開催

2014.12.03 講師： 経営学部 恵良二郎

金融機関に 30 年に亘る実務経験を預金、融資、営業、国際業務までの一連の業務内容について解り易く説明をしたあと、金融機関としての経済的、社会的、地域社会との関わりなどについても説明。大学生の金融機関にむけての就職活動等の心構え、準備対策等について、早い段階からの自己分析、業界研究など万全な準備と行動が何よりも大切だと力説。参加された学生からは「銀行関係の就職に非常に関心が持てた。今後の銀行就職に向けて頑張りたい」と感想を述べておりました。

（恵良二郎 准教授）

[人物往来]

宮澤すむ子教授が 8 月末をもって退職された。1992 年入職、22 年間にわたり本学の研究・教育・校務に尽力されたことに感謝申し上げます。その後任として松本大吾氏が 9 月 1 日に赴任された（管理会計論、財務分析論専攻）。2015 年 3 月青森公立大学大学院経営経済学研究科博士後期課程修了見込み。34 歳、これからの活躍に期待したい。

（戸塚茂雄 教授）

[著書、論文、研究ノート、評論・書評、寄稿、調査報告書など] 平成 26 年 7 月～12 月

赤坂道俊 平成 26 年 7 月 12 日「スマホブームの秘密」「あおもり経済未知しるべ」〈110〉」
『東奥日報』平成 26 年 7 月 12 日、朝刊。

平成 26 年 8 月 23 日「地方スーパーの業界再編」「あおもり経済未知しるべ」〈115〉」
『東奥日報』平成 26 年 8 月 23 日、朝刊。

平成 26 年 10 月 11 日「地方消滅論」「あおもり経済未知しるべ」〈120〉」
『東奥日報』平成 26 年 10 月 11 日、朝刊。

平成 26 年 8 月 2 日「マエダ統合は 10 月」「競争激化」「再編進む」
『東奥日報』、平成 26 年 8 月 2 日、朝刊。

平成 26 年 11 月 1 日「コンビニ競争激化−セブンイレブン県内進出」「小売業全体に影響」
『東奥日報』、平成 26 年 11 月 1 日、朝刊。

平成 26 年 11 月 18 日「GDP 速報値 1.6%減　県内識者が見解」
『東奥日報』、平成 26 年 11 月 18 日、朝刊。

井上隆　平成26年７月　東奥日報社 識者インタビュー、研究室(7/9)⇒「(談話)独自の成長戦略加速を」、『東奥日報』2014.7.14.

７月　デーリー東北新聞社 識者インタビュー、研究室(7/23)⇒「25年国体招致模索する青森県」『デーリー東北』2014.8.20.

９月　東奥日報社 識者インタビュー、研究室(9/18)⇒「青函ツインシティ25年 双子都市は今(1)」、『東奥日報』201411.２.

９月　東奥日報社 識者インタビュー、研究室(9/27)⇒「(談話) 消費回復の動きに遅れ」、『東奥日報』2014.９.30.

11月　東奥日報社 ‘数字で読むアベノミクスと本県’識者インタビュー、研究室(11/25)⇒「(談話) 消費意欲が二極化」、『東奥日報』2014.11.28.

櫛田豊　「サービス生産物の経済的性格について（再論・下）」青森大学『研究紀要』第 37 巻第 1 号(通巻 119 号), 2014 年 7 月 1 日。

田村早苗　「越境地域政策への視点」（分担執筆、愛知大学三遠南信地域連携研究センター）。

沼田郷　東奥日報「ニュース力アップ」隔週連載中。

松本大吾　「会計学教育の事例研究における公的経済統計の活用－多国籍企業集団の一環としての内国法人を通じた租税戦略分析への活用－」『会計教育研究』（日本会計教育学会）第 2 号、2014 年 8 月、pp.5-13。

[学会報告、学会活動など]

石塚ゆかり　「 医療現場における不満表明ストラテジー」, 韓国日本語学会第 30 回国際学術発表大会, 於：韓国カトリック大学校, 2014 年 9 月 20 日。

岩淵　護　・アジア市場経済学会の「第 19 回全国研究大会」開催校として、堀籠とともに「第 18 回会員総会（岡山理科大学、6 月）」に出席した。当該学会理事として選出される。

・「バーナード＝サイモン理論の貢献と取引コスト理論の学際的借用－情報技術の活用にもとづいた協働システム分析への応用－」日本経営学会東北部会報告、2014 年 12 月。

・2014 年 12 月、堀籠、松本とともに日本経営学会東北部会例会を青森大学が主催した。

・2014 年度 12 月、「地域経営学会」の理事として選出される。

松本大吾　「経営分析における公的経済統計の活用試論－多国籍企業集団の内国法人を通じた租税戦略分析への活用－」日本会計研究学会第 73 回全国大会、2014 年 9 月、横浜国立大学。

沼田　郷　「多国籍企業学会」の監事として選出。

森　宏之　「明海大学・山本卓准教授『投資不動産公正価値情報の信頼性確保のための課題』に対する討論者報告」　日本財務管理学会第３９回秋季全国大会　2014 年 11 月

渡部あさみ　「The Changing Labour Flexibility in Japanese Workplaces」The 12th International Federation of Scholarly Associations of Management World Congress in Tokyo, Meiji University, September, 2014.

「日本企業におけるグローバル枠組み協定の運用実態と課題―ミズノ労使の取り組みを手掛かりに―」社会政策学会雇用・社会保障の連携部会研究会「日本企業における変化の諸相」、山形大学、2014 年 11 月。

[社会活動、地域活動、講演など]

・赤坂道俊

平成 26 年 7 月 16 日「新しい小売業と経営革新」、平成 26 年度共同店舗運営研修全国大会、主催：共同組合全国共同店舗連盟、於：東京グランドホテル

平成 26 年 7 月 2 日　平成 26 年度第 1 回青森県独立行政法人高齢･障害･求職者雇用支援機構運営協議会（会長）、於：青森職業訓練支援センター

平成 26 年 7 月 28 日　第 1 回青森地方最低賃金審議会 青森県最低賃金専門部会（部会長代理）、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 26 年 8 月 8 日　第 2 回青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 26 年 8 月 18 日　第 2 回青森地方最低賃金審議会 青森県最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 26 年 8 月 20 日　第 3 回青森地方最低賃金審議会 青森県最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 26 年 8 月 22 日　第 4 回青森地方最低賃金審議会 青森県最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 26 年 8 月 26 日　第 3 回青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 26 年 9 月 11 日　第 4 回青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 26 年 9 月 17 日　青森地方最低賃金審議会 第 1 回産業別最低賃金検討小委員会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 26 年 9 月 25 日　青森地方最低賃金審議会 第 2 回産業別最低賃金検討小委員会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 26 年 9 月 25 日　第 5 回青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 26 年 10 月 9 日　青森地方最低賃金審議会 青森県電子部品･デバイス･電子回路､電気機械器具、情報通信機械器具製造業最低賃金専門部会（部会長）。於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 26 年 10 月 14 日　青森地方最低賃金審議会 青森県各種小売業最低賃金専門部会（部会長代理）。於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 26 年 10 月 15 日　青森地方最低賃金審議会 青森県自動車小売業最低賃金専門部会（部会長）。於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 26 年 10 月 21 日　第 6 回青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 26 年 10 月 29 日　平成 26 年度第 1 回農地中間管理事業評価委員会、公益社団法人あおもり農林業支援センター、於：ラ･プラス青い森。

平成26年12月19日　労働基準行政関係功労者として「青森労働局長表彰」を受賞。

・石塚ゆかり　あおもりウィメンズアカデミー講座青森会場「実践！論理的思考で話すチカラを身につける」アピオあおおり, 2014 年 9 月 29 日

あおもりウィメンズアカデミー講座弘前会場「実践！論理的思考で話すチカラを身につける」弘前市文化センター, 2014 年 10 月 1 日

出張講義「鍛えよう！聴くチカラ－ピアサポートに活かすために－」青森大学オープンカレッジ市民大学，アウガ 5 階研修室, 2014 年 10 月 31 日

話してみよう韓国語青森大会（第 10 回）本選審査員，ヒロロ弘前市民文化交流館, 2014 年 12 月 21 日

・井上　隆

7 月　NPO 法人ひろだいリサーチ拡大理事会･兼･広域青函圏研究会(平成 26 年度第 2 回)、青森大学 632 教室(7/3)

7 月　RAB・ニュースレーダー‘平川市さらに 6 市議逮捕’コメンテーター(7/16)

7 月　(公益社団法人)日本港湾協会 青森港みなとづくり懇談会、副座長、アスパム(7/18)事務局：国交省東北地方整備局青森港湾事務所、青森県県土整備部港湾空港課

7 月　青森市中心市街地活性化協議会・第1回運営委員会、副会長、青森商工会議所(7/24)

7 月　広域青函研究会、現地調査・意見交換会、訪問先：大間町(7/24～25)

8 月　講話「高速交通体系、新幹線開通、地域づくり」、青森中央高校模擬授業(8/28)

8 月　青森市都市整備部 青森市総合都市交通対策協議会(H26年度第1回)､会長､(8/29)

9 月　青森県健康福祉部 医療介護総合確保促進法による県計画に係わる青森県有識者会議、青森国際ホテル(9/1)、意見書提出

9 月　青森県県土整備部 県営住宅等指定管理者審査委員会(第2回)、県庁西棟(9/4)

9 月　青森県県土整備部 県営住宅等指定管理者審査委員会(第3回)、県庁西棟(9/11)

9 月　NPO法人ひろだいリサーチ･広域青函圏研究会(第3回)、青森大学632教室(9/22)

10月　講演「郊外立地の大学からの学生参画を促す街づくり-中心商店街賑わい創出事業-」、(独)中小企業基盤整備機構 東北本部 中心市街地活性化協議会支援センター主催、東北地域中心市街地活性化協議会等交流会－コンパクトシティ実現に向けて－新町キューブ(10/2～3)

10月　青森市都市整備部 冬期バリアフリー計画推進協議会(第1回)、会長、市庁舎(10/17)

10月　日本港湾協会 青森港みなとづくり懇談会検討会(第1回)、座長、アスパム(10/20)

10月　広域青函研究会現地調査、視察/訪問先：函館酪農公社、函館市役所経済企画課、函館商工会議所地域振興課、公立はこだて未来大学社会連携センター(10/30～31)

11月　青森県県土整備部 県営住宅等指定管理者審査委員会(第４回・持ち回り)､(11/4)

11月　広域青函研究会現地調査、視察/訪問先：函館酪農公社青森営業所(11/22)

12月　NPO法人ひろだいリサーチ･広域青函圏研究会(第４回)、青森大学632教室(12/13)

12月　日本港湾協会 青森港みなとづくり懇談会検討会(第2回)、座長、アスパム(12/18)

12月　講演「函館酪農公社の移動販売車の社会的役割と機能」事業：(一般社団法人)Jミルク助成・委託事業、牛乳等移動販売車 調査研究報告会、共催：NPO法人ひろだいリサーチ、弘大大学院地域社会研究科、公立はこだて未来大学、会場：函館市国際水産･海洋総合研究センター(12/20)

12月　青森県県土整備部 県営住宅等指定管理者審査委員会(第５回)、県庁西棟(12/22)

・岩淵　護

6 月　「環境適応時代のモノ造り－モノづくりから価値づくりへの製造観の変化一考察　－」青森未来塾講演、2014 年 6 月。

9 月　「大学生観光まちづくり 2014『北日本ステージ』」ポスターセッション部門に選抜され、「大鰐の観光と食の未来を考える会」プロジェクトとして岩淵・堀籠・石塚サブゼミナールで進出する。

11 月　堀籠とともに青森県商工労働部新産業創造課より「オープンデータ化の取り組み価値」について調査研究委託を受ける。

・田村早苗

７月　　青森市特別職報酬等審議会（青森市）
　　農林水産省独立行政法人評価委員会林野分科会(東京)
　　青森県内水面漁業管理委員会現地調査（浅瀬石川）
８月　　（一財）日本森林林業振興会理事会（東京）
９月　　青森県青い森再造林アクションプラン検討委員会（青森市）
　　（独法）森林総合研究所森林農地整備センター研修会講演（十和田市）
　　青森市特別職報酬等審議会（青森市）
10 月　　青森市特別職報酬等審議会（青森市）
　　青森市のおいしい水を育む植林事業協力者に対する感謝状贈呈式（青森市）
　　青森市横内川水道水源保護審議会
　　東北会議（一関市、日本 IBM 主催）
　　青森県公共事業評価委員会（青森市）
11 月　　青森県青い森再造林アクションプラン検討委員会（青森市）
　　出張講義（沖館地域緑の募金推進協力会、青森市）
12 月　　青森県青い森再造林アクションプラン検討委員会（青森市）

・中田吉光

1.第 7 回青森県民スポーツ・レクリエーション祭でのラジオ体操模範演技を行う

2.はしかみキャンパス講演会・階上町連合ＰＴＡ研修会（2014.7.13）
「子ども達の未来のために」と題し、ハートふるはしかみにおいて（約 300 名）講演を行った。

3.みちのく銀行国道支店 120 周年記念演技会をホテル青森にて行う。

4.第 52 回全国知的障害福祉関係職員研究大会（2014.9.5）特別講演Ｉ「青森から世界へ」と題し、リンクステーションにおいて上記関係者約 1,700 名の前で講演を行った。

5.平内町連合ＰＴＡ研究大会（2014.9.6）平内町勤労青少年ホームにおいて（約 200 名）講演を行った。

6.弘前中央高校体育館新築記念演技会（2014.9.20）

7.青森県反射材大作戦ＣＭ撮り（2014.9.30）青森県環境生活部県民生活文化課の企画、青森博報堂からの要請で夜間事故を防ぐためのＣＭ（11 月より放送）に出演する。

8.市民体育祭 50 周年記念「ラジオ体操・みんなの体操会」（2014.10.18）
合浦小学校において「正しいラジオ体操を学ぶ」と題し、青森県ラジオ体操連盟・理事として参加する。

9.東北高等学校・東北ジュニア新体操選手権大会審判長及び研修会の講師を務める。
（2014.11.21～11.23）

10.映画「FLYING BODIES」（新体操部のドキュメンタリー映画）（2014.12）「心に栄養蓄え成長」と題する第 1 回こども国際映画祭においてグランプリを受賞する。（琉球新報）

11.ベルギー・オランダ遠征（2014.12.11～12.24）12 月 12 日～14 日までベルギーLotto Arena において第 16 回 GYMGALA Antwerp（8000 人集客）、12 月 16 日～21 日までアムステルダムにおいて Unive Gym GALA Magjistar（18000 人）に、本学新体操部団体が招待を受け披露してきた。

12.報道関係・ＮＨＫ青森の放送局において全日本学生新体操選手権 13 連覇報告として出演

（2014.9.4）

・ＮＨＫ青森「あっぷるワイド」18:10～にＬＩＶＥ出演。（2014.11.28）

13.「元気あっぷる体操」制作（2014.3～現在）

平均寿命が全国最下位の青森県。「脱！短命県」のキャンペーンとしてＮＨＫのテレビやラジオで流せる体操を作り、県内 40 市町村を廻りながら地域の人たちと触れ合う企画を作成。

・階上保育園（2014.7.13）
運動会にて「元気あっぷる体操」を一緒に披露しＮＨＫ青森に放送される。

・青森市老人クラブ連合会（2014.9.1）
青森市総合福祉センターにおいて「元気あっぷる体操」の講師を勤める。

・生涯学習フェア 2014～学びと社会参加の集い～（2014.10.18）あおもり県民カレッジ（青森県総合社会教育センター）の要請を受け、「明日の自分にチャレンジ！」をテーマに、我々の活動を紹介及び体験（元気あっぷる体操）を指導する。

・ＮＨＫあおもり会館公開 2014（2014.10.19）「おにいさんといっしょ」というコーナーで全 4 回のミニステージを行う。そこでは「元気あっぷる体操」のワンポイントレッスンや技の披露などを行う。その模様がＮＨＫで放送される。

・「あおもり市民健康アップフォーラム」（2014.11.20）知事をはじめ来場した市民の方々に指導を行う。

・十和田工業高等学校健康教室講師（2014.12.4）3 年生 207 名の健康教室としてディスカッション及び元気あっぷる体操の指導を行う。

・青森県スポーツ推進委員実技研修会講師（2014.12.6）県内のスポーツ指導員 80 名を対象に脱短命に対する講演及び元気あっぷる体操の指導を行う。

沼田　郷

2014 年９月　岩手県立高田高校に義援金「東日本大震災による被災高校支援活動」

９月 20 日　東奥日報朝刊掲載　「岩手・高田高校に青大生が義援金」

10 月　　青森大学学園祭、沼田ゼミとしてパネル展示

10 月 21 日　観光を学ぶタイの大学生と青森大学学生との交流会、沼田ゼミとして参加・発表「青い国からのおくりものーあおもりヒバを使ったおもちゃづくり」

10 月　青森市社会資本整備評価委員会、委員

10 月　財務省　東北財務局財務行政モニター就任

10 月　夜店通り商店街定例理事会出席

11 月　むつ市商工観光課、新施設の利用促進・イベントに関する学生プラン提出

12 月　東青支部大学見学会　活動報告資料展示

12 月２日　公益社団法人「小さな親切」運動県本部より「小さな親切運動実行賞」授与、対象：「東日本大震災による被災高校支援活動」

12 月 10 日「まちなかキャンパス」講師　「中心市街地活性化に向けた学生たちの軌跡」

12 月 11 日　東奥日報朝刊　「小さな親切運動実行賞」授与に関する記事掲載

社　会　学　部

社会学科・社会福祉学科

［青森県統計グラフコンクール入賞］（社会学演習Ⅰ担当、鈴木康弘）

社会学部 2 年生「社会学演習Ⅰ」の学生が中心となり、経営学部や東奥学園高校 3 年生とも共同して制作した統計グラフ作品が、青森県統計グラフコンクール・パソコン統計部門において多数入賞した。

- 青森県知事賞「自殺０の青森を目指して」：武田誉也（社会学部 2 年）・木村みのり（東奥学園高校３年）
- 入選「カジノは日本に必要か？」：矢代忠暉・工藤希望（社会学部２年）
- 入選「今若者が病んでいる！増える精神疾患」：木村菜摘（社会学部 2 年）・木村みのり（東奥学園高校３年）
- 佳作「若者を引き付ける投票制度を！」：岩谷拳悟・小田唯斗（社会学部 2 年）・木村大翼（経営学部２年）

武田誉也（社会学部２年）・
木村みのり（東奥学園高校３年）

［全国統計グラフコンクール入賞］（社会学演習Ⅰ担当、鈴木康弘）

青森県の代表として、全国大統計グラフコンクール・パソコン統計部門に出品された、本学学生の 2 作品がいずれも入賞を果たした。

- 佳作「自殺０の青森を目指して」：武田誉也（社会学部 2 年）・木村みのり（東奥学園高校 3 年）
- 佳作「カジノは日本に必要か？」：矢代忠暉・工藤希望（社会学部２年）

［青森県統計大会で武田誉也君が研究発表］

11 月 12 日、青森市のリンクモア平安閣市民ホールで開催された第５３回青森県統計大会において、統計グラフコンクールで県知事賞を受賞した武田誉也君（社会学部 2 年）と木村みのりさん（東奥学園高校 3 年）が研究発表を行った。「自殺０の青森を目指して」と題して、平成 24 年の『自殺総合対策大綱』の見直し以降、命の電話相談などの国や県の自殺対策が自殺の減少に効果を上げていることを示唆し、また、失業と自殺の相関関係を明示して、さらなる自殺対策を提言した。

（社会学演習Ⅰ担当　鈴木康弘）

[本学が統計グラフ指導優良校]

第５３回青森県統計大会（11 月 12 日）において、青森大学は統計グラフコンクールに多くのすぐれた作品を出品したことにより、青森県知事から「指導優良校」として表彰された。社会学部 2 年「社会学演習Ｉ」の 13 名（武田誉也、矢代忠暉、工藤希望、木村菜摘、岩谷拳悟、小田唯斗、吉沢幾耶、安田拓未、倉内修矢、加藤亜耶、川村一真、渋谷慮一、木村弥琴)、経営学部 1 名（木村大翼）が応募した。(社会学演習Ｉ担当、鈴木康弘)

[就職委員会主催・教職員向けの就活支援講話]

社会学部就職委員会は 9 月 24 日、全学就職委員会と学長補佐室、学習支援センターの協力を得て、「集いのスペース」622 教室で教職員向けの就活支援講話「学生をどう支えるかー就活最前線」を開いた＝写真。

学生の就活支援などに携わるNPO法人プラットフォームあおもりの米田大吉理事長を講師に招き、2015年からの就活スケジュール変更が及ぼす影響や、正規雇用と非正規雇用の差異、学生たちを支える上での留意点などについて、全学から参加した約10人の参加者が理解を深めた。また、就活を終えた社会学部4年生も学生たちの動きを報告し、積極的な支援を呼びかけた。(櫛引素夫)

[業界研究会を実施]

12 月 4 日(木)4 時間目に経営・社会・ソフトウェア情報学科の 3 年生を対象に「業界研究会」を 350 教室にてプラットフォームあおもりの支援を受けて開催されました。冒頭はキャリアカウンセラーの吉町友美氏より「企業研究の必要性」を話していただき、次いで、パネルデスカッションとして本学の卒業生の三氏(経営学科卒業でみちのく銀行勤務の山中優作氏、社会学科卒業で県赤十字センター勤務の中堤大介氏、社会学部卒業で老人保健施設に勤務の中井堅司氏)を招いて、「企業選択の決め手」や「求める人材」などについて活発な意見が交わされました。受講した 3 年生の満足度はかなり高く、「自分が思っている以上に業界は色々と深いところがあり、参考になりました。」とコメントしていました。(佐藤豊)

[大学祭で社会学部司書課程の学生が「ねぶた・ねぷた専門図書館」をリニューアル・オープン]

2014 年 10 月 11 日と 12 日の両日、青森大学大学祭において、社会学部司書課程履修の 2 年生と 3 年生計 18 名が「ねぶた・ねぷた専門図書館」を実施しました。同図書館は、2012 年まで青森短期大学ライブラリーコースが大学祭で実施していたものですが、このたび、社会学部司書課程が受け継ぎ、大学祭で実施することになりました。当日はねぶた・ねぷたに関する資料約 330 点を展示し（会場の都合で全ては展示できず)、地域の方々に閲覧していただきました。天候にも恵まれ、230 名近い方々の来館がありました。同図書館を運営した学生は、菊地広、佐藤寛峻、佐藤明香、高橋叡、田村康希、根井康平、宮川あかり、山田雄太、濱谷悟、関澤誉仁（以上 3 年生)、小笠原悠、木村拓人、工藤希望、佐藤幹泰、舘山司、半澤昌士、平田一生、吉田彩香（以上 2 年生）の計 18 名でした。学生のみなさんご苦労様でした。(野崎剛)

[グループ内定報告会を実施]

12 月 18 日（木）の 4 時間目に 6 号館と 3 号館のつどいのスペースを使って経営・社会・ソフトウェア情報学科の 4 年生で内定の取れた 13 名から 3 年生に対するグループ内定報告会を開催しました。4 年生の内定先は青森県警や青森県信用組合、東北労働金庫、ネッツトヨタなどで、4 年生は具体的にどのようにして内定をとったのかを 3 年生に伝授しました。今年の 3 年生はスケジュールが変わって 3 月から就活が解禁されることになっていますが、就職活動がいまひとつイメージがわかない 3 年生にとって 4 年生の話は大いに参考になったことと推察されます。参加した 3 年生は「もう少しで就活が始まるんだなと改めて焦りを感じました。このような内定者の話を聞いたことで、早く受けるところを決めて、準備しないといけないと思いました」といった感想が寄せられました。(佐藤豊)

[精神保健福祉援助現場実習報告]

平成 25 年度は５名（3 年生１名、4 年生４名）の学生が実習を履修しました。体験実習が 6 月から始まり、夏休みから後期の 11 月で最後の学生が実習を終了しました。1 人が実習を中止しました。行き詰りクライエントに迷惑をかけるという学生自らの判断です。実習を終了した学生でも、現場実習指導者からは知識不足、コミュニケーション力不足、社会性の弱さなど厳しい指摘を頂きました。来年度は 5 名の学生（2 年生 1 名、3 年生 4 名）が実習予定です。この 5 名の学生に対し実習指導をどのように進め、どのような学生を育てるかが問われていると言えます。このような実習指導現状から、どうしても学生に対し厳しきせざるを得ないと感じています。(藤林正雄)

[認知症啓発キャラバン「RUN 伴２０１４」]

認知症を理解してもらうために、北海道から広島までタスキをつなぎ走るというイベントに青森市から八戸市までの距離を多くの人がタスキをつなぎながら９月２０日と２１日の２日間走りました。この中で社会学科学生５名（３年生４名、１年生１名）は２０日早朝に３㎞足らずですが一生懸命タスキをかけ走り、次のグループに繋ぎました。この時の写真を大学祭の時スライドにし来客者に見てもらいました。(藤林正雄)

[国家試験対策委員会報告]

今年度の国家試験は平成 27 年 1 月 24・25 日です。試験まで残り 1 か月をきりました。受験生は、社会福祉士 24 名、精神保健福祉士 10 名、うちダブル受験 4 名です。

今年度はゼミの中で受験対策をするという方針にしました。学内模擬試験や夏季特別講座、10 月の全国統一模擬試験などを行い、12 月の学内模擬試験を実施しました。今年は学生の受験対策が遅れ気味で 11 月に入りようやく危機感を持ち勉強する学生が増えてきたという印象があります。できる限りサポートをし合格者を増やしたいと考えています。合格発表は平成 26 年 3 月 13 日（金）です。多くの学生が合格できるよう、最後まで指導していきます。(藤林正雄)

［ 社会学部社会学科　社会福祉学コース ］

平成 26 年度のソーシャルワーク実習は、旧カリキュラム（4 年生ソーシャルワーク実習Ⅱ）と新カリキュラム（3
年生ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ）が同時に実施された。

今年度ソーシャルワーク実習Ⅱにおいては、総数 22 名の学生が実習期間｛5 月 26 日（月）～6 月 19 日（木）（実習先により日程変更あり）｝、概ね 19 日間 150 時間以上の実習をそれぞれ 13 か所の実習先で行い、現場におけるソーシャルワーカーの理解を深めて来た。

実習後の指導内容としては、前期中に実習先で学び培ってきた内容を集計してデータを整理し、ソーシャルワーク実習・指導の最終仕上げとなる継続研究報告書の作成をおこなった。

また、ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱにおいては、総数 19 名の学生が実習期間｛5 月 19 日（月）～5 月 23 日（金）、8 月 18 日（月）～9 月 11 日（木）｝、概ね 24 日間 180 時間以上の実習をそれぞれ 12 か所の実習先で行い、現場におけるソーシャルワーカーの理解を深めて来た。

今後の指導内容としては、実習先で体験したプロセスレコードを整理し、ソーシャルワーク実習・指導の最終仕上げとなる継続研究報告書の作成を行っているところである。

また、来年度の実習についての取り組みとしては、実習希望学生 14 名分の実習先確保のための調整を図っているところである。（長内直人）

［ 学術論文・著書 ］（五十音順）

櫛引　素夫　櫛引　素夫「青森市の観光ボランティアにみる東北新幹線開業への評価」, 青森大学付属総合研究所紀要、16（1）, pp.14-22.,www.aomori-u.ac.jp/institute/journals/2014/09/16-01.html.

久慈　きみ代 『編集少年寺山修司』（論創社・8 月 20 刊）.

久慈　きみ代『寺山修司未発表詩集　秋たちぬ』（岩波書店・11 月 13 日刊）注を担当.

久慈　きみ代『高照神社所蔵『源氏物語之詞』の基礎調査（１）（『研究紀要』第 37 巻第 1 号青・森大学学術研究会 2014・7 月 1 日）.

久慈　きみ代『高照神社所蔵『源氏物語之詞』の基礎調査（２）翻刻編１（『研究紀要』第 37 巻第 2 号青・森大学学術研究会 2014・11 月 1 日）.

佐藤　豊　　第 4 章　詩「ドライデンからポープへ」の 2 頁分を担当、『イギリス文化事典』イギリス文化事典編集委員会／編集委員長川成洋、丸善出版、2014 年 11 月，196－197.

澁谷 泰秀　澁谷 泰秀・渡部 諭・吉村 治正・小久保 温.「肯定的項目と否定的項目が社会調査データの分析に及ぼす影響：古典的テスト理論を用いた分析」，青森大学付属総合研究所紀要、16（1）, pp.1-13.，www.aomori-u.ac.jp/institute/journals/2014/09/16-01.html.

［ 学会発表など ］（五十音順）

櫛引　素夫　櫛引　素夫「整備新幹線の開業に関する地理学的視点からの論点整理－東北・北海道新幹線の事例から－」日本地理学会秋季学術大会、2014 年 9 月 20 日、富山大学.

櫛引　素夫　櫛引素夫・藤森研「新聞産業の現状とジャーナリズムの行方」日本マス・コミュニケーション学会秋季研究発表会ワークショップ、2014 年 11 月 8 日、東洋大学.

櫛引　素夫　櫛引　素夫「道南開業の特徴と課題：九州・北陸・東北との比較から」経済地理学会北東支部 11 月例会、2014 年 11 月 15 日、函館市・函館国際ホテル.

澁谷 泰秀　澁谷 泰秀・渡部 諭・吉村 治正・小久保 温.「項目のワーディングが尺度に及ぼす影響：項目反応理論と古典的テスト理論を用いた社会調査データの分析」，日本テスト学会第 12 回大会，2014 年 8 月 31 日，帝京大学

澁谷泰秀　渡部諭、澁谷泰秀、吉村治正、小久保温、P2-34「高齢者の詐欺犯罪脆弱性についての taxometric 分析」、日本認知科学会第 31 回大会、2014 年 9 月 19 日、名古屋大学東山キャンパス

澁谷 泰秀　Watanabe,S., Shibutani,H., Yoshimura,H. & Kokubo, A., Analysis of personal networks maintained by the elderly in Japan, 2014 Asian Network for Public Opinion Research Annual Conference, Toki Messe Niigata, Nov, 26, 2014

藤　公晴　藤　公晴「環境教育と持続可能な開発①と②：日本とアメリカの環境教育実践者はどのように持続可能な開発や ESD と向き合っているのか？」公益社団法人日本環境教育フォーラム、清里ミーティング 2014 年 11 月 15 日と 16 日.

［ 共同研究 ］

藤　公晴　Cross-national influence of the term sustainable development upon the field of environmental education: Comparison between the United States and Japan（環境教育の現場における、概念「持続可能な開発」の受容に関する日米比較調査研究）共同研究者：Sharon Moran（Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境学研究科），Andrea Parker（Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境科学研究科），Beth Folta（Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境森林生物学科）.

藤　公晴　「先進 7 カ国政府機関（フランス、米国、英国、ドイツ、メキシコ、スペイン、日本）の環境コミュニケーション施策に関する国際比較調査研究」Agence de l'Environnement et de la Maîtrise de l'Energie フランス政府環境エネルギー管理庁 委託（€89,450 ユーロ）．研究代表者：Mathieu JAHNICH（SIRCOME, Université Paris-Est Marne-la-Vallée）

藤　公晴　（海外研究協力）Chakroun Leila, National Parks in Japan: Environment and Territorial; Management. University of Lausanne, Switzerland, 2014 年 9 月 15 日～27 日.

［ 報告書・書評・寄稿など ］（五十音順）

櫛引　素夫　「東北新幹線の歴史から」、2014 年 7 月 29 日～31 日付・函館新聞朝刊寄稿（3 回続き）.

藤　公晴　「臨場感醸す技巧の結晶」　根深誠著『白神山地マタギ伝 －鈴木忠勝の生涯』　陸奥新報朝刊 （12 面）2014 年 11 月 12 日号.

［ 出張講義・講演など ］（五十音順）

櫛引　素夫　東北活性化研究センター・津軽海峡圏広域観光シンポジウム in 仙台「新幹線が変えた東北の現状と課題」、2014 年 9 月 4 日、メトロポリタンホテル仙台.

櫛引　素夫　NPO 法人クリエイト・第 5 回まち塾授業「まちで暮らす　地域と生きる」、2014 年 9 月 23 日、青森市男女共同参画プラザ.

櫛引　素夫　新聞労連東北地連・拡大常任委員会講演「若者と語らい未来へ～『オヤジ』からの新聞奪回作戦」、2014 年 11 月 21 日、弘前市文化センター.

櫛引　素夫　大学コンソーシアム富山・第 2 回コラボ塾講演「新幹線時代の『富山』像－先行事例から考える」、2014 年 12 月９日、富山県民共生センター・サンフォルテ.

櫛引　素夫　今別町役場・職員勉強会「Facebook を活用した情報発信」、2014 年 12 月 12 日、今別町役場.

久慈　きみ代　8 月 29・30 日　寺山修司演劇祭２０１４第２回　於星野リゾート青森屋

「寺山修司へのオマージュ」に青森大学演劇団「健康」＆「幸畑文学」の学生と参加.

9 月 28 日　「邪宗門」（月蝕歌劇団公演・阿佐ヶ谷ひつじ座）.

9 月 29 日　古典籍　日本の書三条西実隆『源氏物語』（日本大学文理学部資料館）.

10 月１８日　あおもり古典を楽しむ会主催・協力青森大学　「源氏物語特別講演会」企画・運営

薬学部 3 年生の金城さん、堀内さん、筒井さん、柴田さんが受付等で大活躍、感謝.

お陰様で 75 名参加。満席の盛況。リンクステーションホール青森.

11 月 16 日　中古文学会関西部会：京都研究調査「陽明文庫」取材等（仏教大学）.

11 月 22 日　三沢市寺山修司記念館　寺山修司市民大学　総合講座講師.

演題＝「編集少年 寺山修司」－寺山少年の光と闇－.

11 月 30 日　弘前大学国語国文研究会シンポジウム「寺山修司の可能性をめぐって」.

12 月 2 日　あおもり古典を楽しむ会例会「竹取物語」リンクステーションホール青森.

12 月　6 日　「探ろう！太宰治中学期」講師：湊海にて.

12 月 20 日　青森大学教育研究プロジェクト成果中間報告.

藤林　正雄　（出張講義）

2014.10.23・30 オープンカレッジ「人間関係の持ち方、傾聴を学ぶ」

2014.11.10 深浦町学校保健会「人間関係で悩まないために」

2014.11.30 青森市男女共同参画プラザ・カダール「傾聴力 UP 実践講座」

（講演）

2014.7.2　十和田市スマイルラボ「企業向けゲートキパー講演会」

2014.7.28 青森県運営適正化委員会研修「苦情対応のためのコミュニケーション技術の向上を目指して」

2014.8.23 福祉サービス第三者評価推進委員会「第三者評価調査者養成研修」

2014.8.26 和幸園「苦情解決のためのコミュニケーション」

2014.9.12 鶴田町「傾聴講座フォローアップ」

2014.9.19 青森県精神科病院協会・精神科診療所協会「精神保健福祉法改正の現状と問題点」

2014.9.25・30 七戸町「職員対象ゲートキーパー研修」

2014.10.2・7・14 五所川原市「ゲートキーパー研修」

2014.10.21・30・11.20 七戸町「住民対象ゲートキーパー講習（3 回）」

2014.10.21・30・11.13・20・26・12.8 野辺地町「傾聴講座（6 回）」

2014.11.1 あおい森ねっと「障がい者の理解（精神障がい者）」（市民後見人養成講座）

2014.11.13 青森市保健所　青森市ゲートキーパー養成講座「あなたの「聴く力」をレベルアップ！」

2014.11.18 正寿園（特養）「ストレスへの対処」

2014.1127 東北町（東北町自殺予防連絡会）「傾聴を理解する」

2014.11.28 青森県社会福祉協議会「民生・児童委員相談技法研修会」講師.

2014.12.4・16・25 中里町「自殺予防傾聴講座（3 回）」講師.

2014.12.20 日本精神保健福祉士協会　実習指導者講習会（八戸市会場）「精神保健福祉援助実習指導概論」

［ **地域活動** ］（五十音順）

櫛引　素夫　特定非営利活動法人青森県防災士会理事（2012 年 4 月～）

特定非営利活動法人ひろだいリサーチ理事（2014 年 6 月～）

青森商工会議所・あおもり検定監修委員（2013 年 7 月～）

青森地方労働審議会委員（2013 年 9 月～）

青森地方労働審議会・青森県電気機械器具製造業最低工賃専門部会委員（2013 年 12 月～）

青森商工会議所・青森県ロジスティクス戦略ワーキング会議オブザーバー（2014 年 2 月～）

「大学生観光まちづくりコンテスト 2014」北日本ステージ運営委員（2014 年 4 月～）

青森県情報システム課オープンデータ検討会委員（2014 年 6 月～）

青森県あおもり共助社会づくり推進事業協働プロジェクト認定審査会・審査員（2014 年 6 月～）

青森市・幸畑団地地区まちづくり協議会運営委員（2014 年 7 月～）

青森大学・幸畑プロジェクト・メンバー（2013 年 4 月～）

青森大学×平内町連携プロジェクト実行委員会・副実行委員長（2014 年 11 月～）

新幹線ほくとう総研連携研究会会員（2014 年 10 月～）

※幸畑団地「空き家で空き家シンポジウム」（青森大学地域貢献センター、青森県住みかえ支援協議会、幸畑団地地区まちづくり協議会と共催）企画・運営（2014 年 10 月 2 日、青森市幸畑 3 丁目・古賀氏宅）

※経済地理学会北東支部 11 月例会・北海道新幹線新函館開業対策推進機構第 8 回北海道新幹線地域活性化フォーラム「北海道新幹線開業をどう迎えるか？～人口減少下の地域づくりと高速鉄道」企画・運営（2014 年 11 月 15 日、函館市）

※人口問題・整備新幹線問題で青森放送、北海道新聞、函館新聞、新潟日報、朝日新聞、読売新聞、北海道テレビ、瀬戸内海放送などに取材協力.

藤　公晴　　平内町ハクチョウのまちシンポジウム 基調講演&ワークショップ・コーディネーター

基調講演　「ハクチョウ、人、地域のつながりについて考える」

ワークショップ　「ハクチョウと平内町の未来をみんなで考えよう」

本件については、12 月 17 日（水）東奥日報 朝刊（16 面）に掲載.

タイトル「ハクチョウのまち 将来は：10 年後の姿 町民語らう」2014 年 12 月 13 日.

青森県環境審議会（青森市）、2014 年 11 月 21 日.

青森大学×平内町連携プロジェクト実行委員会「平内町・若者ネットワークづくり事業」実行委員.

藤林　正雄　（社会貢献）

青森県精神医療審査会　6 月、7 月（全体会）、8 月、10 月、12 月、その他退院請求に伴う意見聴取.

社会福祉法人花評議員会、理事会 11 月.
ＮＰＯ法人あおもりいのちの電話研修委員会毎月、理事会 11 月.
青森県運営適正化委員会苦情解決部会 7 月、9 月 11 月.
福祉サービス第三者評価推進委員会委員 8 月.
青森県社会福祉協議会第三者評価調査（利用者調査を含む）8 月・9 月.
青森県精神保健福祉士協会監事及び選挙管理委員長 11 月.
医療観察法参与員 7 月.

ソフトウェア情報学部

[平成 26 年度学外実習]（小久保 温、和島 茂、橋本 恭能）

ソフトウェア情報学部 3 年生が最新技術の動向を学びキャリアを考える「学外実習」を、以下の 2 グループに分けて実施した。

・日本ものづくりワールド
6 月 25 日(水)、26 日(木)に東京ビッグサイトで、設計・製造ソリューション展、機械要素技術展、医療機器開発・製造展、3D&バーチャルリアリティ展が同時開催される「日本ものづくりワールド」に参加した。展示会では、主に最新のバーチャルリアリティや 3D プリンタ技術などを見学した。参加した学生は 19 人、引率は小久保温。

・組込み総合技術展 Embedded Technology 2014
11 月 20(木)、21(金)にパシフィコ横浜で、家電・自動車・携帯電話などの様々な機器に使われている組込み技術に関する世界最大級の展示会「組込み総合技術展 Embedded Technology 2014」に参加した。展示会では、最新の IoT や EDA の技術を初めとした組み込み系の技術などを見学した。参加した学生は 5 人、引率は橋本恭能、和島茂。

[平成 26 年度創作ゼミナール発表会]（坂井 雄介、李 孝烈）

12 月 13 日(土)9:00～12:55 に、5102 教室において 3 年生全員による創作ゼミ発表会が実施された。「創作ゼミナール」は、2 年次終了時に配属された研究室において、教員の指導のもとで、学生が主体的に研究テーマを設定、研究・開発、および発表と報告書作成を行う、本学部の主要科目の一つである。

今年度も、制作したソフトウェア、コンテンツ、および組込みシステムやロボット設計、さらに高校生向け教材開発などの多様なテーマに関して発表やデモンストレーションが行われ、教員・学生双方による活発な質疑応答が交わされた。学生がこれらの内容を就職活動においても活用できるものと期待している。

また、今年初めて後援会東青支部の方々も参加し、学生の発表に熱心に耳を傾けて下さった。

[ET ロボコン 2014 東北地区大会でソフトウェア情報学部チームが準優勝]（橋本 恭能）

2014 年 9 月 20 日（土）岩手県盛岡市のアイーナ（いわて県民情報交流センター）で、ET ロボコン 2014 東北地区大会が開催されました。東北各地の企業、大学、高専、高校など 28 チームが参加し、

ロボットの走行タイムやソフトウェアシステムの設計内容で競い合いました。

本学から、ソフトウェア情報学部橋本研究室と ET ロボコン研究会の合同チーム「青大ロボコン研」（4 年金子晋、山田賢太朗、3 年大平拓弥、木村和史）が参加し、デベロッパー部門アドバンストクラスにおいて総合部門第 2 位を獲得しました。その結果、11 月に横浜で行われるチャンピオンシップ大会に東北地区代表として出場することになりました。

[ET ロボコン 2014 チャンピオンシップ大会に出場]（橋本 恭能）

11 月 19 日、20 日パシフィコ横浜で ET ロボコン 2014 チャンピオンシップ大会が開催され、ソフトウェア情報学部の学生 4 名（ソフトウェア情報学部 4 年金子晋、山田賢太朗、3 年 大平拓弥、木村和史）がデベロッパー部門アドバンストクラスに出場しました。

結果は 1 回目、2 回目ともに走行途中でコースアウトしてしまい、参加 15 チーム中 11 位で残念ながら上位入賞はできませんでした。

[学生生活「見える化」プロジェクト]（小久保 温、角田 均、柏谷 至、工藤 雅世）

学生自身が学生生活の質を向上し、自らを高めるためのよりよい行動習慣を自覚、維持するための仕組みを、株式会社リンクステーションの協力のもとで FeliCa カードのポイントサービスを活用して構築し、実証実験を行った。後期の 1 年生必修科目「地域貢献基礎演習」の中のサブプロジェクトとして実施、全学部 1 年生 200 名が実証実験に参加した。自己マネジメントの内容やポイントによる可視化方法を学生自身のグループワークで検討、構築したシステムを利用して、日常生活のポイントによる可視化の実証実験を 10 月 29 日−12 月 17 日の期間で実施した。実証実験前後で自己効力感を測定するアンケートを実施し、分析結果を地域貢献基礎演習のポスタ発表として公開する予定。プロジェクトで利用したカード端末、サーバサイドプログラム、スマートフォンインターフェースなどのシステム構築は、ソフトウェア情報学部の学生と教員がリンクステーション社との共同開発の形で担当した。なお、このプロジェクトは「平成 26 年度青森大学教育研究プロジェクト」として採択されて実施している。

[青森工業高校インターンシップ]（橋本 恭能、小久保 温、角田 均、和島 茂）

7 月 9～11 日の 3 日間にわたり、青森工業高校の 2 年生 19 名を対象に組込みシステムと AR プログラミングをテーマとしたインターンシップを実施した。組込みシステムの講義では二輪走行のロボットのためのライントレース、衝突回避プログラムの作成を行った。AR プログラミングの講座では、AR や 3DCG コンテンツについての研究を行っている 3、4 年生が対応し、3 つのグループに分かれて AR を活用したプログラミングや 3DCG コンテンツの制作のセミナーを実施した。

[新城中学校職場訪問]（小久保 温、角田 均、和島 茂）

11 月 28 日(金)に、新城中学校 1 年生 5 人が青森大学ソフトウェア情報学部を職場訪問した。対応スタッフは、小久保温、ソ 23001 伊藤匠、ソ 24012 坂本一吉を中心とした小久保・角田・和島研究室の教員と 3、4 年生。

職場訪問の目的は、キャリア意識の醸成で、具体的には「コンピュータの仕事」がどのようなものかを知りたいという趣旨であった。訪問では、コンピュータの仕事がどんなものかを紹介し、あらかじめ中学生が考えた質問に返答した。また、ゲームに興味のある生徒が多かったため、Scratch によるゲーム制作体験を行った。

[県内商業高校による合同大学訪問] (小久保 温、角田 均、和島 茂)

青森県高等学校教育研究会商業部会との高大連携推進協議会の事業として、県内の 6 商業高校による県内大学の合同訪問を実施した。7 月 29 日の青森大学の見学では経営学部とソフトウェア情報学部による模擬授業を実施し、青森商業高校、弘前実業高校、八戸商業高校の 1 年生 39 名が参加した。ソフトウェア情報学部では角田による講演(「ビットコインと人工知性～情報技術の進化がもたらす新しい世界～」)と、CG 系の研究室グループに所属する 3、4 年生による研究紹介とデジタルコンテンツサークルの学生による作品紹介を行った。

[三沢商業高校における講演] (小久保 温)

9 月 10 日(水)に、三沢商業高校 1 年生全員を対象に進路選択の参考として、「先進技能習得のための実践活動による講演」を実施した。講演の内容は、わたしたちの置かれている社会の変化と情報技術の進化に関するもので、スマートフォンやタブレット端末の技術、位置・地理情報、AR(Augmented Reality: 拡張現実)などを紹介した。

[青森山田高校 Scratch 入門セミナー] (小久保 温、角田 均、和島 茂)

10 月 20 日(月)に、青森山田高校の 2 年生 22 人を対象に、また、10 月 24 日(金)に同校 1 年生 28 人を対象にして、MIT メディア・ラボで開発された、Web ブラウザ上で動作するグラフィカルなプログラミング言語である Scratch の入門セミナーを実施した。指導スタッフは、小久保温、角田均、和島茂、ソ 24002 石川佳実、ソ 24003 伊藤真也、ソ 24004 大石康正、ソ 24005 大沢凌平、ソ 24012 坂本一吉、ソ 24015 須郷翔大であった。セミナーでは、学生の指導に従って事前に制作したゲームプログラムと同様のものを作成してもらった後、グループ単位でテーマを決めてオリジナルのプログラムの作成を行った。

[青森工業高校 Scratch 指導者育成セミナー] (小久保 温、角田 均、和島 茂)

11 月 5 日(水)に、青森工業高校情報技術科 2 年生 34 人を対象に、Scratch の指導者育成セミナーを実施した。指導スタッフは、小久保温、角田均、和島茂、ソ 23001 伊藤匠、ソ 23002 織田将史、ソ 24002 石川佳実、ソ 24003 伊藤真也、ソ 24004 大石康正であった。

青森工業高校では、1 月 10 日(土) 13:00-15:30 に青森工業高校情報技術科公開講座「Scratch で楽しくプログラミング！」として、高校生が講師になって中学生を対象としたセミナーを実施する予定である。今回のセミナーはその指導者を育成することを目的としている。Scratch の入門、応用作品のチュートリアル、指導者向けの留意事項などを紹介した。

[青森商業高校課題研究技術指導] (小久保 温、角田 均、和島 茂)

青森商業高校情報処理科 3 年生 8 人を対象に「課題研究」の技術指導を行った。日程は 4 月 18 日(金)[於・青森商業高校]、5 月 2 日(金)[以降、青森大学]、5 月 16 日(金)、6 月 13 日(金)、10 月 3 日(金)に各 2 時間。指導スタッフは、小久保・角田・和島研究室の教員および 3、4 年生であった。

今年度のテーマは、青森商業高校の文化祭「青商祭」を紹介するスマートフォン向け Web サイトの制作であった。指導内容は、HTML、CSS、jQuery Mobile などの Web 技術と Web サイトのディレクションなどについてであった。

H26 青商祭 URL http://www.tosei-e.asn.ed.jp/~ch/bunkasai/

[黒石商業高校課題研究技術指導] (小久保 温)

黒石商業高校 3 年生 7 人を対象として、8 月 27 日(水)、11 月 11 日(火)に「課題研究」の技術指導を行った。指導スタッフは、小久保温。

今年度のテーマは、黒石市市街の Google ストリートビューのようなパノラマ・コンテンツの制作で、青森大学で開発した OctPhotoVR を使用している。指導内容は、パノラマ写真の撮影、OctPhotoVR コンテンツの制作方法などであった。

[尾駮小学校との連携による環境教育の高度化研究] (小久保 温、角田 均、和島 茂)

六ヶ所村立尾駮小学校との共同研究として、ソフトウェア情報学部 3 年生が開発したマップアプリを利用した小学校での自然学習の高度化に取り組んでいる。平成 24-25 年度の研究では独自開発の 3 次元地理情報システム「デジタル青森」を活用して、小学生による自然観察学習の成果や、水環境学会による水質評価の取り組みである「水辺のすこやかさ調べ」の結果を可視化したが、今年度は Google Maps API とクラウドシステムを用いた Web+DB システムとして新たなマップアプリを開発し、尾駮小学校 4 年生による尾駮沼観察の授業で活用した。開発したシステムを用いて小学生自身が観察成果をシステムにマッピングする授業を 11 月 27 日に尾駮小学校で実施、開発した学生が指導を行い、同じ研究室所属の 3、4 年生がサポートを行った。またシステムについてのアンケートと教員へのヒアリングも実施、1 月 10 日に東北工業大学で開催される水環境学会東北支部研究会で学生が成果発表を行う予定。さらに、3 月 16-18 日に金沢大学で開催される平成 26 年度日本水環境学会年会でのポスタ発表を予定している。

[SmartLife Hack in 仙台で優勝] (小久保 温)

7 月 5 日(土)、6 日(日)に仙台で開催された「SmartLife Hack in 仙台」で小久保温のチームが最優秀賞を獲得した。「SmartLife Hack in 仙台」は NTT ドコモ主催の「Developer Application Contest 2nd」の関連イベントである。イベントでは、即興のチームで、2 日間で、協賛各社の提供する機器やサービスを組み合わせて新しいアプリを開発する。

小久保温は、株式会社プレイズファーストの砂金善弘氏と 2 人のチームとなり、ローカルな位置情報が取得できる iBeacon、SHARP のお掃除ロボット COCOROBO、Philips のインターネット電球 hue、HTML5 の Server-Sent Events などを組み合わせたサービスを開発した。

[Developer Application Contest 2nd で入賞] (小久保 温)

「SmartLife Hack in 仙台」で小久保温のチームは優勝したため、NTT ドコモが主催する「Developer Application Contest 2nd」にエントリーされた。8 月 29 日(金)に NTT ドコモ・ベンチャーズオフィスで開催された授賞式で、株式会社 GClue 賞を受賞した。

[Mashup Ideathon 東北 in 青森で優勝] (小久保 温)

8 月 19 日(火)にワ・ラッセで開催された「Mashup Ideathon 東北 in 青森」で、ソ 25013 新宅伸啓くんのチームが優勝した。

「Mashup Ideathon 東北 in 青森」は、有名 IT 企業各社が協賛する「Mashup Awards 10」の関連イベントで、各社の提供するサービスを活用するアイデアを、3 時間程度で、即興のチームで考えてまとめて発表するというものである。

[Mashup Ideathon 福島 in 会津で優勝] (小久保 温)

9 月 25 日(木)に福島県会津若松市の Fab 蔵で開催された「Mashup Ideathon 福島 in 会津」で、ソ

25017 根本暉大くん(福島出身)のチームが優勝した。イベントの内容については「Mashup Ideathon 東北 in 青森」と同様である。

[東北 IT コンセプト 福島 GameJam 2014 参加] (小久保 温)

8 月 2 日(土)、3 日(日)に開催された「東北 IT コンセプト 福島 GameJam 2014」に小久保温が宮城・仙台サテライト会場にゲーム開発者として参加した。

福島 GameJam は、東日本大震災からの IT による復興を目的として、2011 年から開催されているイベントである。イベントでは、即興のチームで、30 時間でゲームを制作する。参加者はプロのゲーム開発者や学生など。

[雪・インフラ×IT マッチングワークショップ参加] (小久保 温)

9 月 12 日(金)-14 日(日)に、青森公立大学を会場に、青森県主催の「雪・インフラ×IT マッチングワークショップ」が開催され、小久保温、ソ 24015 須郷翔大、ソ 25012 澤田洋二が参加した。

このイベントでは、青森県内の「雪」に関わる行政、事業者の方たちの話を聞き、課題を分析し、それを解決するアプリのアイデアを考え、実際に制作した。青森県内外からたくさんの IT 企業が参加し、教員、学生とも充実した交流とソフトウェア開発を体験した。

[Code for Japan 第 7 回 Brigade ワークショップ参加] (小久保 温)

8 月 30 日(土)に金沢市で開催された「Code for Japan 第 7 回 Brigade ワークショップ」に「Code for Aomori」の代表の代理として小久保温が出席した。Code for Japan は、市民参加型のコミュニティ活動を通じ、地域の課題を解決するアイデアやサービスを開発・運営することを目的とした団体である。主に IT を活用した活動を行っている。今回のイベントは日本の Code for の団体すべてが参加するはじめてのものだった。

[活動報告]

真夏の昼の夢～白岩貢と音楽仲間によるサロンコンサート

2014 年 8 月 6 日＜青森公立大学国際交流ハウス＞ （白岩 貢）

ギター伴奏による「美しき水車小屋の娘」全曲演奏会

2014 年 8 月 10 日＜青森公立大学国際交流ハウス＞ （白岩 貢）

特別養護老人ホーム「外ヶ浜荘」ボランティアコンサート

2014 年 8 月 12 日＜外ヶ浜荘＞（白岩 貢）

第 2 回中泊徐福まつり～徐福交流津軽半島音楽祭 2014 ～ クラシック・コンサート

2014 年 8 月 24 日＜中泊町下前徐福公園＞（白岩貢）

弘前オペラ第 43 回定期公演「メリー・ウィドウ」～ サン・ブリオッシュ役

2014 年 10 月 19 日＜弘前市民会館＞（白岩貢）

文学と音楽の出会い ～ 北原白秋の歌の世界をたどって

2014 年 10 月 25 日＜弘前市喫茶れもん＞

ミュージックパーティー ～ バリトン独唱、歌唱指導

2014 年 11 月 2 日＜埼玉県吉川市おあしす＞

[著書]

小久保 温　日本脱カルト協会(JSCPR)編 [小久保温共著]、『カルトからの脱会と回復のための手引き〈改訂版〉』、遠見書房、2014 年 11 月

小久保 温　澁谷 泰秀・渡部 諭・吉村 治正・小久保 温.「肯定的項目と否定的項目が社会調査データの分析に及ぼす影響：古典的テスト理論を用いた分析」，青森大学付属総合研究所紀要、16（1）, pp.1-13.,www.aomori-u.ac.jp/institute/journals/2014/09/16-01.html.

[学会・研究会発表]

小久保温　澁谷泰秀、渡部諭、吉村治正、小久保温、「項目のワーディングが尺度に及ぼす影響：項目反応理論と古典的テスト理論を用いた社会調査データの分析」、日本テスト学会 第 12 回大会、2014 年 8 月 31 日、帝京大学八王子キャンパス

小久保温　渡部諭、澁谷泰秀、吉村治正、小久保温、P2-34「高齢者の詐欺犯罪脆弱性についての taxometric 分析」、日本認知科学会第 31 回大会、2014 年 9 月 19 日、名古屋大学東山キャンパス

小久保温　大沢凌平、小久保温、角田均他、「小学生による水辺のすこやかさ指標を用いた尾駮沼の水環境評価と地理情報システムの活用について」、平成 26 年度日本水環境学会東北支部セミナー、2014 年 12 月 10 日、宮城県仙台市宮城野区文化センター

[社会活動、委員等]

小久保温　平成 26 年度青森県オープンデータ検討委員会委員長
平成 26 年度青森県情報産業関連事業提案審査会委員

白岩貢　在宅医療市民公開フォーラム実行委員 （主催：青森医師会）
2014 年 8 月 2 日＜アウガ 5 階＞

薬　学　部

[「薬用植物園・ハーブ園」での学外学習の実施]

6 月 28 日（土）、薬学部 1 年生のキャリアデザインＩＡの早期体験学習の一環として、青森市農業指導センターに設置されている「薬用植物園・ハーブ園」にて学外学習を実施しました。この施設は、青森市出身の元東大薬学部長であった石舘守三氏が監修され、県内でも有数の薬用植物園です。薬用植物園には、約 70 アールの園内に、薬草 200 種、薬木 70 種、水生薬用植物 10 種を展示栽培しています。また、ハーブ園では、面積約 7 アールの園内にラベンダー、タイム、ミント、セージなど約

学生 57 名を 6 班に分け、教員 6 名が引率し、説明しました。学生たちは、薬学部の教員の説明に耳を傾け、質問をしていました。「楽しかった」「勉強になった」「家の庭にもある」という声も聞こえてきました。

この体験見学を通して学生が薬用植物に興味を持ち、今後の関係教科の勉学の励みになることを期待したいものです。

（青森大学ホームページより）

[平成 26 年度 中高生の薬剤師体験セミナー]

8 月 30 日・31 日に青森大学と青森県教育委員会の共催による「中高生の薬剤師体験セミナー」を開催しました。これは、昨年に引き続き、2 回目の開催です。昨年は 1 日だけの開催で中高生合わせて 56 名の参加でした。今年は、より多くの参加者を受け入れるため、2 日間の開催としました。

県内の中学校・高等学校を通じて参加者を募集したところ、中学生 91 名、高校生 102 名の応募がありました。昨年度（中学生 71 名・高校生 52 名）の応募を大幅に上回りましたので、当初の予定（中高生各 25 名・各日程）100 名から増やし、各 30 名とすることで 120 名を受け入れることとしました。

中学生は、化学物質の成分分析体験、軟膏・散剤・錠剤の調剤体験、現役薬剤師（本学薬学部卒業生）との座談会を行いました。高校生は、サロメチールとアスピリンの合成体験、合成した薬の成分分析体験、軟膏・散剤・錠剤の調剤体験、現役薬剤師（本学薬学部卒業生）との座談会を行いました。

本セミナーには本学薬学部の在学生 4 年生・5 年生・6 年生の 12 名に手伝っていただきました。参加した中学生・高校生の皆さんの、進路選択の幅が広がったかと思います。

（青森大学ホームページより）

[秋田県大館市における高校生の薬剤師体験セミナー]

10 月 4 日（土）に、秋田県大館市と青森大学の共催による「高校生薬剤師体験セミナー」を開催しました。大館市では初めての開催です。

大館市の高等学校を通じて参加者を募集したところ、高校生 16 名の参加者となりました。

午前は、軟膏・錠剤の調剤体験、現役薬剤師との座談会を行いました。薬剤師との懇談には 4 名の地元薬剤師に協力を頂き、活発な話し合いがもたれました。

午後は、サロメチールとアスピリンの合成体験、合成した薬の成分分析体験を行いました。参加した皆さんの、進路選択の幅が広がったかと思います。

また、薬学部の学生 6 名が協力しました。学生にとって、大変だったかと思いますが、良い経験になりました。

青森大学薬学部は青森県唯一の薬剤師養成機関ですが、秋田県には薬剤師養成機関がなく、青森県同様に薬剤師が不足しています。このような状況があり、県境を越えてのセミナーを実施しました。

（青森大学ホームページより）

[第 14 回ミニ身に健康イベントへの参加]

10 月 19 日（日）にガーラタウンで開催された青森市薬剤師会主催の「第 14 回ミニ身に健康イベント」に青森大学もブースを設けて、参加いたしました。
このイベントでは、薬剤師体験コーナー、薬剤師による禁煙相談、薬・サプリメントの相談コーナーなどのブースを設けられていて、薬剤師の仕事などを体験できるとともに楽しく健康について学ぶ事ができます。
今年度は、本学薬学部から教員が 3 名、また、本学薬学部生（5 年生）10 名程が実務実習のカリキュラム一環として参加していました。

（青森大学ホームページより）

[短命県返上特別講演会への参加]

11 月 10 日（月）、青森商工会議所主催による「短命県返上特別講演会」がリンクステーションホール青森で開催されました。講演会では、弘前大学の 中路重之 氏と医師・作家の 鎌田實 氏が長寿のための健康管理法についてお話をされ、大勢の市民が熱心に耳を傾けていました。
会場横には協力団体のひとつとして青森大学の PR 用展示ブースを設置し、来場者のみなさんに大学の活動の一端を紹介。大学祭企画の「オレンジ文化祭」で飾られた認知症患者による工芸作品の一部を大上先生にご提供いただき、このイベント用に作成した大学紹介のスライドショーとともに展示しました。
短時間ながら 200 名以上の市民が大学のブースに足を止め、展示内容に関心をお寄せいただけたことで大学の PR 役を果たせたと思います。

講演会担当：清川繁人

[県立青森中央高等学校との高大連携]　（天内博康）

県立青森中央高等学校が実施している“総合的な学習の時間”の「あすなろ学」について、研究発表に向けた「情報のまとめ方・伝え方～パワーポイントの活用について～」を、昨年度に引き続いて指導しました。社会学部佐々木てる准教授と共に２人で担当しました。３年目となる今年は、青森中

央高等学校において１０月から５回の指導をしました。１１月６日には、社会学部の学生２組４名に、生徒の前でプレゼンテーションを実演していただきました。

１２月１９日には、全校生徒の前で「あすなろ学」実践研究発表会が行われました。発表された中の２件が、１２月２３日に青森大学で開催される第 1 回青森県総合学科高等学校教育活動成果発表会の代表になりました。

[学術論文]

藤田　均：藤田 均、瀬川紀雄（日本詩人クラブ）、青木陽二（前国立環境研究所）　俳句の持つ東日本大震災風景の描写力の検討研究-青森大学・青森短期大学研究紀要 37 巻 2 号　2014 53-63

[学会報告、学会活動など]

藤田　均：10 月 25 - 26 日　日本造園学会東北支部青森大会（弘前文化センター、岩木山中腹岳地区・白神暗門ブナの森の現地体験）大会実行委員長として参加。“限界集落救助方策の造園学からの提案シンポジウム”開催。パネラーとして参加。ポスターセッションとして“俳句の持つ東日本大震災風景の描写力の検討研究”発表（25 日）。岩木山岳（だけ）地区限界集落の現地視察及び白神山地マタギの文化の理解と体験（講師：目屋マタギ工藤光治氏）（26 日）

[社会活動・地域貢献・講演など]

藤田　均：委員として次のとおり活動した。

林野庁東北森林管理局・地域森林計画区及び国有林の地域別の森林計画検討会委員

青森県・青森県公共事業再評価等審議委員会委員、青森県下北半島ニホンザル保護管理対策協議会委員、

三沢市・仏沼保全活用協議会委員

藤田　均：青森大学オープンカレッジの活動（7 月から 12 月分）

青森大学オープンカレッジ所長及び講師として、生涯学習教育事業である青森大学オープンカレッジ公開講座に携わった。具体的には一般社会人を対象とした市民大学講座（計 20 回位）、みちのく散歩みち、大自然トレッキング、自然観察会、ソシアルダンス教室及び油彩画教室を主宰している。

また、特別企画として青森市教育委員会との共催で”小牧野遺跡にみる祭祀と土木技術～北海道と北東北の縄文遺跡群で世界遺産登録を目指す～“特別企画講演会を開催した。（11 - 12 月、計３回）

天内博康：青森大学×平内町連携プロジェクト実行委員会　実行委員（2014 年 11 月～）